文學士　喜田貞吉著

日本中地理　全

東京　金港堂書籍株式會社

凡例

一、本書は中學校、師範學校、高等女學校及之と同程度の諸學校に於けるは本地理科用の教科書たらしむる目的を以て編纂せり。

一、本書は中學教科細目調査委員會調査の教授細目の精神に則りて編纂し、間、著者の意見を以て其項目の順序を變更し、或は其分合を行へる所あり。

一、徒らに地勢を說き、幅員人口等の數字を掲げ、物產の名稱を羅列する等、千篇一律ならんには、乾燥無味の弊に陷り、修學者をして倦ましむるの恐あれば、本書は必しも一定の順序によらず、主要なる交通線路に從ひて、各地の主要なる事柄を記述し、其記載の事項には、成るべく前後の關係を附して、修學者の記憶に便せんか爲に意を用ひたり。

一、本書間、歷史的及文學的の事蹟を交へ、修學者が地理に對する興味を喚起せん事を力めたり。其本文中に挿入するに及ばざるものは、其要項を上欄に抄記せり、之が敷衍講述に關しては、すべて教官の手腕に待つ。

一、五號活字を用ひて記述したるものは、主として本文の參照に供する目的なれ

ば、生徒の程度と授業時間の都合とによりては、或は全く省略に從ひ、或は單に一讀に止むるも可なり。彼を取り此を捨つる事、一に教官の撰擇に任ず。

一、挿畫は修學者の興味を助け、且つ記憶の印象をして深からしむる等の利あれば、本書は紙面の許す限り之を挿入せり。其撰擇に關しては、多少著者の意を用ひたるを自信す。

一、本書は別に地圖及數多の統計表を附す、修學者をして、地理に關する正確なる觀念を得しむるに必要なりと信ずればなり。

明治三十三年三月

著者識

日本中地理

目次

第一章　總論

第一節　位置及幅員……一

第二節　地勢、山川及沿岸……四

第三節　氣候及天産……一五

第二章　地方誌

第一節　區劃……一八

第二節　關東八州……二二

東京府　神奈川縣　千葉縣　埼玉縣　群馬縣

栃木縣　茨城縣

第三節　奥羽……四六

福島縣　宮城縣　岩手縣　青森縣　秋田縣
山形縣
第四節　本州中部……六〇
新潟縣　長野縣　山梨縣　靜岡縣　愛知縣
岐阜縣　富山縣　石川縣
第五節　近畿地方……八三
福井縣　滋賀縣　京都府　三重縣　奈良縣
和歌山縣　大阪府　兵庫縣
第六節　中國……一一五
鳥取縣　島根縣　山口縣　廣島縣　岡山縣
第七節　四國……一二七
香川縣　德島縣　高知縣　愛媛縣
第八節　九州地方……一三五
大分縣　福岡縣　佐賀縣　長崎縣　熊本縣

宮崎縣　鹿兒島縣　沖繩縣
第九節　臺灣……一五八
臺北縣　臺中縣　臺南縣　宜蘭廳　臺東廳
澎湖廳
第十節　北海道……一六八
渡島、後志、及膽振國　石狩國　日高國　天鹽國
北見國　十勝、釧路、及根室國　千島國
第三章　住民、政治及生業
第一節　種族及人口……一八三
第二節　元首、立法、行政及司法……一八六
第三節　兵備……一八九
第四節　教育及宗教……一九二
第五節　生業……一九六

山林　牧畜　水産　農業　鑛業　工業　商業
第六節　交通……二〇八

挿入圖畫目次

第一圖　諸强國面積比較圖
第二圖　火山(富士山及阿蘇噴火口)
第三圖　親不知の懸崖
第四圖　芝公園增上寺及德川家靈廟
第五圖　東京市附近畧圖
第六圖　鎌倉八幡宮及江ノ島兒ノ淵
第七圖　九十九里濱の鰮漁
第八圖　碓氷峠の鐵道(アプト式)
第九圖　日光陽明門及華嚴瀧
第十圖　會津城(舊景)
第十一圖　松島
第十二圖　雪中の汽車

第十三圖　湯殿山
第十四圖　猿橋
第十五圖　伊豆三島より富士山を望む
第十六圖　濱名橋古圖及新濱名橋並に鐵橋
第十七圖　長良川の鵜飼
第十八圖　氣比神宮
第十九圖　京都市附近畧圖
第二十圖　加茂葵祭
第二十一圖　笠置山中の巨岩
第二十二圖　伊勢大神宮及二見浦
第二十三圖　奈良大佛殿及春日野
第二十四圖　奈良附近鐵道圖
第二十五圖　大阪市附近畧圖

第二十六圖　湊川
第二十七圖　玄武洞
第二十八圖　出雲大社
第二十九圖　嚴島
第三十圖　祖谷蔓橋
第三十一圖　耶馬溪
第三十二圖　太宰府遺趾及太宰府神社
第三十三圖　田原坂上の彈痕及戰爭紀念碑
第三十四圖　阿蘇山
第三十五圖　霧島山
第三十六圖　波上宮及琉球人
第三十七圖　臺灣の住民及移住支那人の家屋
第三十八圖　臺灣總督府

第三十九圖　紅頭嶼
第四十圖　アイヌ人
第四十一圖　五稜廓の氷切り
第四十二圖　アイヌ人の家屋
第四十三圖　千島の海獸
第四十四圖　大學赤門
第四十五圖　牧場
第四十六圖　鹽田

日本中地理

文學士　喜田貞吉　著

第一章　總論

第一節　位置及幅員（第一圖參照）

帝國四境

大日本帝國は亞細亞大陸の東方にあり。東南に太平洋を控え、西北は痾哥斯科海、日本海、東海を隔てゝ、露西亞、大韓（朝鮮）、清（支那）に對し、五個の大島、二千餘の小島は、飛び石の如く、斜に一千餘里の間に並べり。其中本州最も大にして、十州、九州、臺灣、四國の諸島、順次之につぐ。千島、琉球、小笠原島等の諸島は、別に列をなして相連れるなり。

島數及面積

其島々を東北より順次に列擧すれば左の如し。

千島　島數三十二　面積　一、〇三三方里
十州　大島一、屬島十二　面積　五、〇六二方里
本州　大島一、屬島約百七十　面積　一四、六八六方里
四國　大島一、屬島約七十五　面積　一、一八一方里
九州　大島一、屬島約百六十　面積　二、六七一方里
琉球　島數五十五　面積　一五七方里
臺灣　大島一、屬島約七十五　面積　二、二六八方里

右は相共に一列を成して連れるものだ。

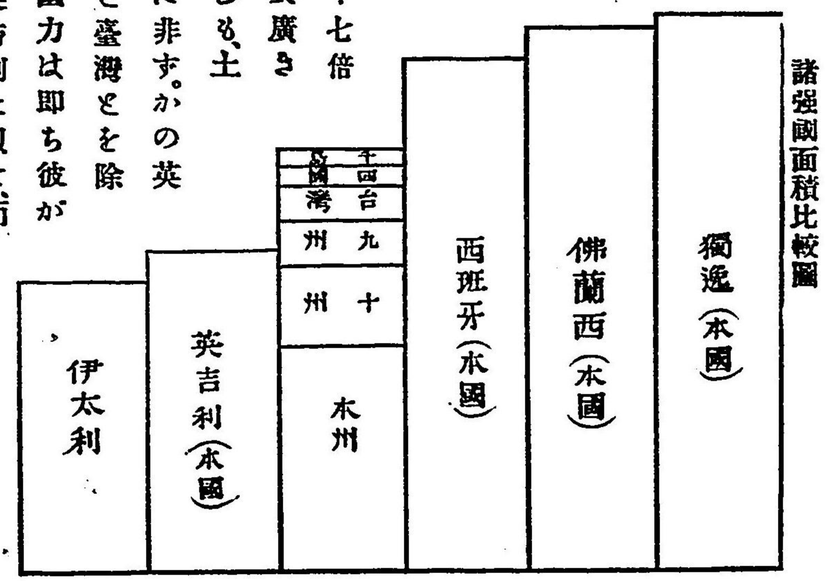
小笠原島　島數二十　面積　五方里

の一群は別に南方に離れて太平洋中にあり。

島數合計六百餘、こは周圍一里以上のものをのみ數へたるなれば、更に以下のものを加ふれば、總計二千にも餘るべく、面積合計二萬七千餘方里ありと。

此等諸島の中、本州、四國、九州、及其諸屬島は、最も早くより皇化に浴して、古

來大八洲國、又は豐葦原瑞穗國の稱あり。然るに今や國威は遠く大八洲の外に及び、此廣大なる面積を算するに至る、盛なりと云ふべし。今此面積を以て之を諸外國に比するに、獨逸、佛蘭西、西班牙の各本國より小にして、英吉利本國及伊太利より大なり。隣國なる清の如きは、其全部を合さば我國の二十七倍に達す。されば我面積は未だ以て其廣きを誇るに足らざれども、國力は必しも、土地の廣狹とのみ比例するものに非ず。かの英吉利本國は、我國より四國と九州と臺灣とを除きたる者よりも、尚狹けれども、其國力は即ち彼が如きものあり。我國の地勢は大に英吉利に似て、而



も彼より好位置を占む。之を地理上より觀察し、之を歴史に徴するに、我國の將來益多望なりと云ふべし。

第二節　地勢、山川、及沿岸（第二圖參照）

地勢の大要

我國の地勢は、一條の狹長なる物體が、蜿蜒として水面に隱見出沒するが如き狀あり。其高き部分は水上に現れて島をなす。されば此等の島嶼、亦其形狹長にして、通例其長き方向に從ひて山脈連亘す。

山脈

山脈とは山の長く續けるものを云ふ。元來山は地面の皺なり。故に孤立せずして長く續くを常とす、稀に孤立して圓錐狀を成せるは、多くは火山なり。

山

火山

火山とは、地球內部の高熱の作用を受けたる熔岩若くば水蒸氣が、地皮を破りて噴出せるものなり。其圓錐狀を成せるは、熔岩等の堆積より成れるによる。火山の始めて生ずるや、先づ地皮の弱點を求めて、地上に出づるが故に、火山は必ず、地皮の裂け目等の方向に數多相連れるものなり。之を

活火山、休火山

平野

休火山（富士山）

活火山（阿蘇噴火口）

火山脈といふ。火山には、現に熔岩又は水蒸氣等を噴出するものあり、嘗て噴出したるも、今は已に其活動を休めるあり。是を以て、火山に活火山、休火山の別を成す。休火山も、其山の形狀と、之を組織する岩石とによりて、其火山たるを知るを得べし。

此等の山脈に對して、外界より絶えず働ける、風、雨、氷、雪、水流等の刺衝の結果は、甚大なるものにして、已往幾千萬年の間には、よく峯を削り、溪を穿ちて、砂礫泥土となす。而して川流は、絶えず之

を下流に送りて、河口に堆積し、或は附近の低地を埋めて、こゝに平野を成す。利根川の下流に關東平野あり、木曾川の下流に濃尾平野あり、信濃川の越後平野、淀川の大阪平野、石狩川の石狩平野、其他阿武隈平野、北上平野、最上平野、筑後平野など、皆此類なり。

平野の利

此等の平野は概して土地肥也。以て農産牧畜等の業を起すべし。其他商工業の繁盛なる所、人民の群集する所、交通の頻繁なる所等、多くは又此平野にありて、人世上最も重要なる部分を成す。關東平野の東京市、濃尾平野の名古屋市、越後平野の新潟市、大阪平野の大阪市、石狩平野の札幌區、阿武隈平野と北上平野との間なる仙臺市、最上平野の山形市、酒田町、筑後平野の久留米市、佐賀市の如きは、其著しきものなり。

山系

然れども斯かる平野は、我國の面積上より云へば、割合に狹小なる部分を占むるに過ぎず。其大部分は尚、山地高地にして、數多の山系交錯す。

山地の利

我國が斯く山國たる所、よく鑛業、林業等を起すに適す。又高原には牧畜の業を起すべく、製紙、養蠶、漆器、陶器等、各種の工業の原料も、亦多くは此山地より供せらるゝなり。されば我國が、斯く山地高地に富めるによりて受くる利益、亦決して少しとせず。

樺太山系

我國の山脈は、通例島の狹長なる形狀に從ひて、長く連續すれども、之を其趨勢に就いて見るに、自ら種々の別あり。十州の北端宗谷岬より起れる天鹽山脈は、樺太島の餘勢を受けて、十州の中央を南走し、日高山脈となりて、南端襟裳岬に至る。之より一旦海に沒し、更に本州に現れては、北上山脈、阿武隈山脈、筑波山脈となり、以て本州中部に至る。其西に、之と並行して、奥羽の間を走れる分水山脈あり、十州の西部なる、後志山脈、渡島山脈等と連絡す。餘脈に足尾山脈、關東山脈等あり、亦本州中部に達す。出羽山脈更に其西にありて、すべて之を

支那山系

樺太山系と稱す。九州の西部に起れるものは、遠く亞細亞大陸の山脈の餘勢を受けて來り、二派となる。一は九州北部山脈にして、中國山脈となりて、本州中部に達し、こゝに濃尾高原を起す。其支脈に飛騨山脈、寶達山脈等あり。一は九州南部山脈にして、四國山脈、紀伊山脈、赤石山脈となりて、亦本州中部に達す。支脈に讃岐山脈、和泉山脈、葛城山脈、笠置山脈、鈴鹿山脈、木曾山脈等あり。すべて之を支那山系と稱す。

瀬戸内海

中國山脈と四國山脈との間、土地最も低く、海面以下に沒して瀬戸内海を成し、其水三方より外海に通じて、四國九州の二大島を、本州より分離せしむ。

富士火山脈

樺太、支那、兩山系の交る所、土地最も高く、構造最も錯雜す。茲に於て南洋より起れる富士火山脈は、豆南諸島を經て、こゝに地皮の弱點を求め、箱根、富士、淺間等の、數多の大火山を噴出して、以て本州を横斷す。

千島火山脈

富士火山脈の外に、千島火山脈の東北より來り、霧島火山脈の西南より來れるあり。共に之に屬する數多の火山脈ありて、富士火山脈と共に我國の三大火山脈をなす。我國の地勢は、樺太、支那兩山系と、此三大火山脈とによりて支配せらるゝものなり。千島火山脈は露西亞の東察加半島より來り、千島列島となりて十州に入り、良牛岳、跡佐岳、雄阿寒、雌阿寒等の諸山を起す。十州の西部には、惠庭、樽前、マクカリ岳等の火山彙あり、渡島の駒ヶ岳、惠山等を經て本州に入り、中央火山脈となり、燒山、岩手、吾妻、盤梯、那須等の諸火山を噴起して、分水山脈をなす。其西に岩木火山脈あり、岩木山より起り、鳥海山、月山等を噴起して、出羽山脈となる。彌彦火山脈更に其西にあり、男鹿半島なる寒風山より起り、前二脈と並行して、粟生島を經、越後に彌彦山、米山等を起す。斯く火山脈の並行する

霧島火山脈

は、地皮の弱點が、地面の皺の方向に從ふが爲なり。霧島火山脈は臺灣に起りて、琉球列島、薩南諸島を過ぎ、九州に入りて、開聞嶽、櫻島、霧島山等を噴起す。其北方に阿蘇火山あり、阿蘇火山脈之より起りて、久住、由布等の諸山を起し、四國の北部を過ぎて、東の方三河の鳳來寺山に至る。之と並行して白山火山脈の中國の北部を走れるあり、大山、船上山等より、東して加賀の白山に至る。其東に立山火山脈あり、立山、乘鞍嶽、御嶽等の高峯之に屬す。更に又白山火山脈と並行して、北方海中を走れる隱岐火山脈あり、肥前五島より、平戸、壹岐、隱岐等の諸島を過ぎて、能登半島を掠め、佐渡に至る。

立山火山脈

隱岐火山脈

火山風景の美

斯の如く、我國には火山甚多く、已に世に知られたるもの百七十餘あり。從ひて附近の地溫泉の湧出する多く、之に加ふるに、山間には火口湖の幽邃なるあり、山容の秀俊比類なきもの、奇岩の變幻圖るべからざるもの、亦多く此火山にあり。我等が往いて暑を避け、寒を防ぎ、病を療し、神を祭ひ、或は雄渾なる風光に誦吟するが如き、天然の仙境、造化の偉觀の、特に我國に多きは、其理一は此に存す。

水系

川流

水は山脈の側面に沿ひて流れ、以て左右の海に注ぐ。されば狹長なる我山國には、長流大河と稱する程のものなく、却つて、急峻なる斜面を奔下する急流の、霖雨にあひて漲溢し、大に災を沿岸に及ぼすの類多し。然れども、之によりて、運輸交通灌漑等の便を得る所、亦少からず。都邑、村落、道路等、多くは此河畔に存す。其岸を嚙み、岩を碎き、奔湍高く懸りて、飛沫天に冲するの境に至りては、ひとり我山國の專有する所なり。

川流の利及美

湖沼

湖沼の利

湖沼亦甚しく大なるものなし。琵琶湖は周圍約六十里にして、本州第一と稱せられ、霞が浦之につぎて、而も周圍三十六里に過ぎず。以下皆之より小なり。然れども、之によりて運輸、

の便を得、或は水溜の用をなして洪水を防ぎ、或は之によりて灌漑の利を受くるもの少からず。

湖沼の美

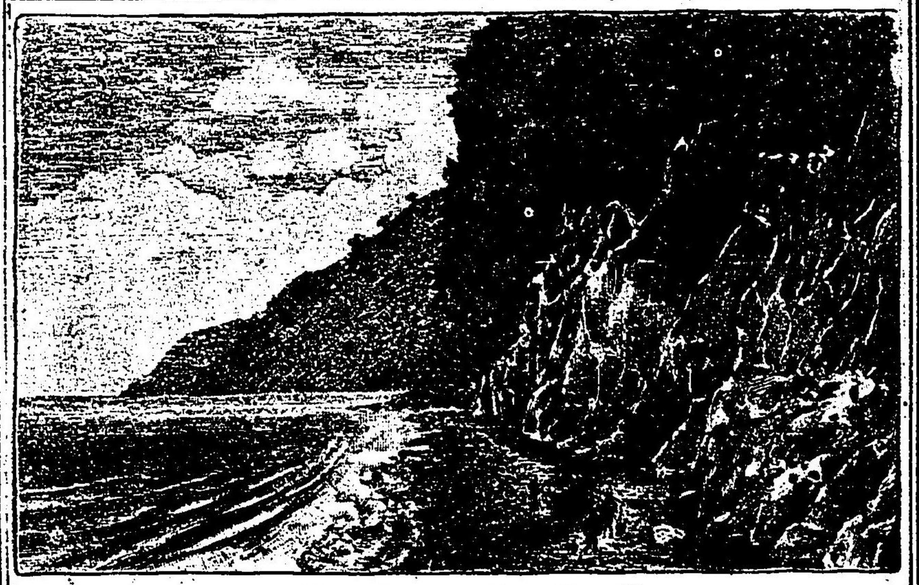
殊に我國には、火口湖、或は火山の作用によりて成れる湖水多く、山間に鏡を伸べて、山影倒に湖心に映り、湖口懸崖に臨みて、飛瀑高く白布を垂る。湖畔の景勝盡く集りて我國にあり、豈にひとり瑞西國をして、湖水の美を天下に稱せしめんや。

沿岸

更に我國の沿岸を觀るに、海岸出入多く、港灣に富めるが故に、船舶によりて交通し、或は貨物を送るに便なり。其海岸線の延長實に七千五百里、之を海國を以て誇れる英國に比するに、彼已に遠く我に及はず、況や他の諸國をや。元來國の文明に赴くと否とは、交通の便不便に關する事最も多し。交通便利なれば、人々各般の事物に接するを得て、知識增進し、物品の運送容易にして、分業の法行はれ易く、學術工藝等の發

交通の便と文明との關係

海岸の好景



親不知の懸崖

達、期して待つべきなり。されは我國は、地理上よりして、已に文明國たるべき性質を有するものと云ふべし。

殊に花崗岩に富める我國には、川流遠く白砂を運びて、須磨、舞子の海濱に青松と相映じ、怒濤海岸を撲つの境、親不知の懸崖あり、八百八島灣内に並びては、鶴舞ひ龜遊ぶの松島となり、沙洲遠く海中に斗出しては、水天髣髴の際に通ずる天橋となる。其沿岸の風景敢て甚しく山間に劣らず。來りて此所に浴を取るべく、去て彼所に暑を

太平洋沿岸と日本海沿岸と

瀬戸内海及東海の沿岸

十州及臺灣の沿岸

避くべきの地、我島國の四圍に周ねし。

今詳に其沿岸の狀を看るに、大體に於て、太平洋沿岸と日本海沿岸との間に、大なる差あり。山脈の傾斜が、日本海に向ひて急にして、大平洋に向ひて緩なると共に、日本海沿岸には絶壁多く、出入少なく、近海に島嶼稀なるに反して、大平洋沿岸は砂濱に富み、出入繁く、近海に島嶼最も多し。人口稠密の度に於て、都市繁榮の度に於て、日本海方面と大平洋方面と、著しき差異あるは、蓋し之に由れるなり。瀬戸内海及東海の沿岸は、亦其性質太平洋沿岸に似て、殊に港灣と島嶼とに富む。古來歴史上の大事件を演じたる地が、多く太平洋、瀬戸内海及東海の沿岸にありて、日本海岸に少きの理、亦見るべし。十州及臺灣は、海岸の屈曲少なく、海岸線短かし。臺灣は其形木葉に似て、北部に稍出入あり。十州の形は赤鰯の尾を振ふに似て、頭部と尾部とに當る所、稍港灣あるのみ。此兩大島が久しく未開のまゝに存したるは、住民の種族と、氣候との原因もあるべけれども、海岸の屈曲少なくして、交通不便なる事、亦其一原因を成せるを疑はず。

氣候

海流

暖流

黑潮

第三節　氣候及天産（第一圖參照）

斯の如きの海國、海水の影響を被りて、氣候の溫和たるべきは自然の理なり。蓋し水は陸に比すれば、熱に感ずる事遲く、且つ少なき代りに、冷却する事も亦遲く、且つ少きが故に、寒熱の變化、陸地の如く急ならざればなり。然れども亦別に、海流の近海を過ぐるありて、氣候に影響する少からず。海流とは、海水の常にある一方に流るゝあるを云ふ。我近海には寒暖二流あり。暖流は南方熱地に起り、臺灣の東を過ぎ、九州の南にて二派となり、一は所謂黑潮と稱するものとなりて、九州の東南、四國及本州の南方を過ぎ、八丈島の北を經て北折し、陸前の金華山沖にて、更に東北に轉じ、太平洋に入る。一は九州の西岸を過ぎて、日本海に入り、更に宗谷海峽を過ぎて、痾哥斯科海に入る。就中黑潮は最も著しく、漂流船などが之

寒流

親潮

に乘じて、意外の遠方に漂着する事、實例多く、太平洋沿岸の暖かなる、其原因一は此にあり。寒流は北方寒地に起り、東察加の東より來りて、千島及十州の東南、本州東北部の東を過ぎ、金華山沖に暖流と衝突して跡を殁す、之を親潮と云ふ、又別に樺太海流の、痾哥斯科海の北より來り、十州の北岸を洗ひ、別れて日本海に入れるあり。日本海沿岸の、割合に寒冷なる、其原因一は此にあり、又土地の高低、山脈の位置、土質、風雨等は、何れも氣候に影響するものなれば、其寒熱、乾濕、必ずしも一定の則を以て律すべからざるも、概して北方は寒く、南方は熱く、日本海方面は、冬時北風を受けて、降雪多く、太平洋方面は、南風を受けて、夏時雨多きを常とす。

天産

動物

我國の位置は、斜に長く連りて、寒地より熱地に及べるが故に、よく各般の氣候に應ずる動植物を産出す。動物には陸に

植物

鑛物

猪、猿、兎、狐、狸、其他各種の禽鳥あり、海に鯨、臘虎、膃肭獸、海豹、蠣龜、玳瑁其他各種の魚類あり、取りて以て民益を起すべきもの少からず。たゞ猛獸は甚少く、僅に熊、狼等あるのみ。植物には松、杉、檜、欅、楠、五葉松、落葉松等を始め、椰子、鳳梨等に至る迄熱帶、溫帶、寒帶の産共に備はり、建築用の木材頗る豐富なり。若し夫れ櫻花朝日に匂ふの所、可憐なる禽鳥此所に春光に謳歌するもの、我國を措いて、はた之を何れの國に求むべきや。たゞ鑛物に至りては其額或は內地の需用を充たすに足らざる物あり。然れども金、銀、銅、鐵より錫、安質母尼、石炭、硫黃、陶土等備らざるなく、殊に文明國工業の母たる石炭が頗る豐富なる如きは、以て頗る人意を强ふするに足る。之を要するに、我國は地勢に於て、風景に於て、氣候に於て、はた天産に於て、實に少からざる天惠を受く。之に加ふるに其

位置亞細亞の東方にありて、日出名譽の地を占む。此名譽の國に生れ、此天惠の土に住して、こゝに其地理を學ぶ、亦樂しからずや。

第二章　地方誌

第一節　區劃（第三圖參照）

我國は古へ行政上畿、道、國に分てり。其數現今にては一畿、八道、八十五國と、外に臺灣とあり。此區劃は、今や行政上殆ど何等の意味もなけれども、因襲の久しき、遂に其地方の名の如くなり、殊に多くは山河自然の形勢に從ひて區劃せられたれば、地理を學ぶもの先づ之を記臆するの必要あり。

畿、道、國の名稱左の如し。

畿、道、國

畿　內　五國　山城　大和　河內　和泉　攝津

東海道十五國　伊賀　伊勢　志摩　尾張　三河　遠江　駿河　甲斐　伊豆　相模　武藏　安房　上總　下總　常陸

東山道十三國　近江　美濃　飛驒　信濃　上野　下野　磐城　岩代　陸前　陸中　陸奥　羽前　羽後

北陸道七國　若狹　越前　加賀　能登　越中　越後　佐渡

山陰道八國　丹波　丹後　但馬　因幡　伯耆　出雲　石見　隱岐

山陽道八國　播磨　美作　備前　備中　備後　安藝　周防　長門

南海道六國　紀伊　淡路　阿波　讃岐　伊豫　土佐

西海道十二國　豐前　豐後　筑前　筑後　肥前　肥後　日向　大隅　薩摩　壹岐　對馬　琉球

北海道十二國　渡島　後志　膽振　石狩　天鹽　日高　十勝　釧路　根室　北見　千島

臺灣は新に帝國の版圖に歸したるものにして、道國の區劃なし。

府、縣

現今は行政上、北海道と臺灣とを除き、三府四十三縣と成す。府縣の下に郡及市あり。郡の下に町村あり。

府縣の名稱左の如し。(*印あるものは府)

*東京　*京都　*大阪　神奈川　兵庫　長崎　新潟　埼玉　千葉　茨城
群馬　栃木　奈良　三重　愛知　靜岡　山梨　滋賀　岐阜　長野
福島　宮城　岩手　青森　山形　秋田　福井　石川　富山　鳥取
島根　岡山　廣島　山口　和歌山　徳島　香川　愛媛　高知　福岡
大分　佐賀　熊本　宮崎　鹿兒島　沖繩

北海道廳

北海道には北海道廳あり。其下に十九支廳ありて、之を管す。

支廳の名稱左の如し

札幌　函館　龜田　松前　檜山　壽都　岩內　小樽　空知　上川
增毛　宗谷　網走　室蘭　浦河　釧路　河西　根室　紗那

臺灣總督府

臺灣には臺灣總督府あり。其下に三縣三廳ありて臺灣全島及澎湖群島を管す。

三縣三廳の名稱左の如し(*印あるものは廳)

臺北　臺中　臺南　*宜蘭　*臺東　*澎湖

北域、中域、南域の別

此等の三府四十三縣、一道廳、一總督府の管する所、東北は千島列島より西南は臺灣に至るまで、其延長一千餘里に及び

兩端と中部とは氣候に於て著しき差違あり。北方には一年の殆ど半は雪を以て埋めらるゝが如き寒冷の地あり、南方には冬と雖も猶は氷雪を見ざるが如き溫熱の地あり。從ひて、其地に生息する動植物にも甚しき差違を生じ、其影響引いて、住民の生業及び風俗氣質の上にも及ぶ。殊に其住民の種族も、地方によりて自ら異なるものあり。故に地理上之を南北中の三大部分に分つべし。即ち本州、四國、九州等、古來大八洲國として知られたる地方は中域にして、北海道即ち十州と千島とは北域に屬し、琉球及臺灣は南域に屬するものなり。本書は便によりて、本州を更に關東八州、奥羽、本州中部、近畿地方、及中國の五區となし、四國、九州地方、臺灣、北海道と共に、全國を九區に分ち、以て各地の地理を記述せんとす。

九區の別

第二節　關東八州（附豆南諸島（第五圖參照））

（東京、神奈川、千葉、埼玉、群馬、栃木、茨城）

關東八州

東海道の相模以下の六國と、東山道の上野、下野とを合せ稱して關東八州と云ふ。箱根關以東にあるの義なり。東京、神奈川、千葉、埼玉、群馬、栃木、茨城の一府六縣之を分管す。

地勢

八州の地は、西北二方に山岳相連りて、奥羽及び本州中部と境し、其東南端なる房總半島に、房總山脈あるの外は、すべて一帶の平野にして、其廣さ凡そ四方各三十里に及び、其間たゞ丘陵の起伏するあるのみ。「月の入るべき山もなし」と古歌に詠みし武藏野の如きは、其一部分たるに過ぎず、之を關東平野と稱す。

*武藏野は月の入るべき山もなし尾花が末にかゝる白雲（道方）

此平野の中心には、尙原野の儘に殘れるもあれども、概して已に開墾せられたる田畑、多く、農產物の產額全國に冠たり。其面積は八州を合して我國の百分の八にだも足らざれども、其米麥豆等の、明治三十一年の收獲を見るに、

米	全國にて四千七百四十萬石	八州にて五百七十六萬石
麥	全國にて二千五十萬石	八州にて五百四十八萬石
大豆	全國にて三百十萬石	八州にて八十七萬石

即ち米は百分の十二強、麥、大豆各百分の二十七八の多きに及ぶなり。

八州古代の開化

八州の地は古代に於て已に頗る開け、古墳、横穴、古碑等、昔時の遺物の今日に現存するもの多し。其住民亦古來勇武の氣象に富み、中世邊要の地に派遣して、外敵に備へしめたる防人の如きも、多く此地の民を徵發せし程なりしかば平安朝の末、朝廷の紀綱衰へて、政令僻遠の地に及び難き比に至りて、遂に此地方に源平二氏の如き豪族を生じ、此より以後、八州の地永く歷史上重要の地となれり。

東京府（武藏の中央部、豆南諸島）（第五圖參照）

東京市

武藏の東部。東京灣頭に東京市あり。此市もと江戸と稱し、今

*我宿は松原織き海辺く富士の高根を軒端にぞ見る（道灌）

宮城

を距る四百四五十年前。太田道灌が東京灣頭の地を拓きて城を築きしに始まり、德川家康こゝに幕府を構へてより大に繁盛に赴き、今や人口一百三十餘萬、世界有數の大都會と成れり。市を十五區に分つ、麹町區其中央にあり、繞らすに濠を以てす、實に宮城の所在たり。宮城はもとの江戸城を修築せられたるものにして、更に二重の濠を繞らす。此市は帝國の首府なれば、諸官省、東京府廳、近衛師團及第一師團司令部を始として、各種の學校、會社多く此所にあり。公園には上野、芝、淺草等名あり。市の産物としては古來錦繪、袋物等の有名なるあり。又銅器、七寶器、蒔繪細工等、各種の美術工藝品少からず。

市中名所

九段公園

宮城の正門に二重橋あり。二重橋の南なる門を櫻田門と云ふ、井伊直弼遭害の所なり。宮城の西北九段公園に靖國（ヤスクニ）神社あり、維新以來國事に斃れた

上野公園

淺草公園

芝公園

德川家康廟

芝公園增上寺

る忠魂を祀る。社前に維新の元勳大村益次郎の銅像あり。上野公園なる西鄕隆盛の銅像と相對す。上野は市の北部にあり。櫻花多く、花時最も賑ふ。こゝに博物館、圖書館、動物園、東照宮、寛永寺、德川家の靈廟等あり。此地維新の際彰義隊の據守せし所にして、當時の彈痕を存する黑門は、今尙園中に存す。上野の東方に淺草公園あり。有名なる淺草寺ありて、域内常に雜沓を極む。芝公園は市の南部にあり。增上寺及德川家の靈廟等あり。もと上野の寛永寺と、此增上寺とは、德川將軍家の菩提所なりしかば、其

諸學校

隅田川

(一)名にしゃ負はゞいざこと問はん都鳥我思ふ人はありやなしやと（業平）

(二)此川古武總兩國の境なり

街道

鐵道

靈廟今尚域内に存して、輪奐の美、將軍當時の威嚴を示すものあり。學校には東京帝國大學を始として、高等師範學校、第一高等學校、高等商業學校、工業學校、美術學校等あり。更に華族の爲に學習院、華族女學校あり。軍事教育には陸海軍大學校、士官學校等あり。此他各種の官、公、私立の學校ありて、學生の此地に來り學ぶもの甚多し。

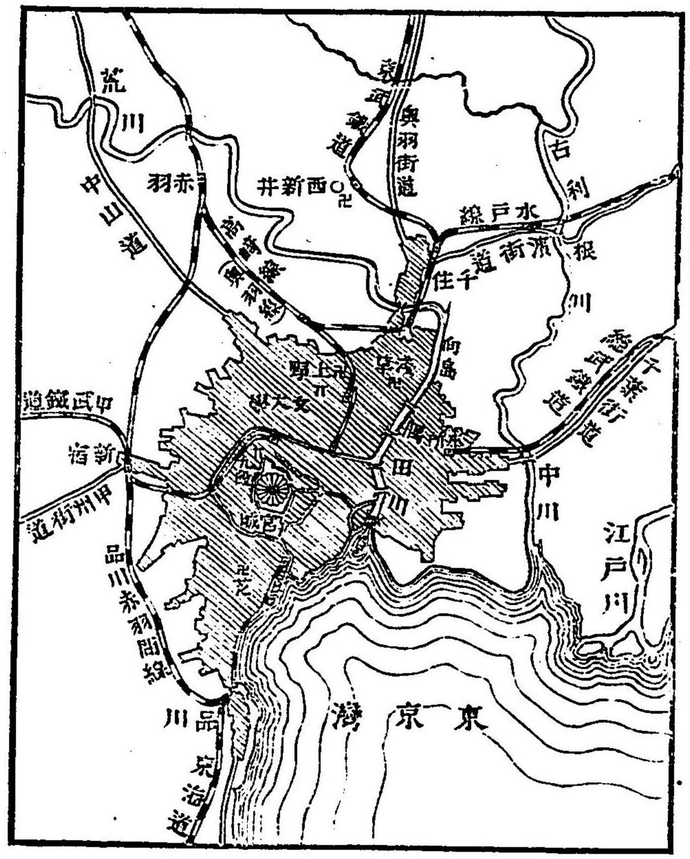
市の東部に(一)隅田川あり。上流を荒川と云ふ。埼玉縣下より來りて東京灣に入る。川に吾妻、(二)兩國、永代等の大橋あり。吾妻橋以北の東岸を向島堤といふ。堤上櫻花多く花時雜沓す。

東京市は帝國の中心なれば、國道之より起りて、各府縣廳所在の地に通ず。東海道、甲州街道、中仙道、奥羽街道、濱街道、千葉街道之なり。更に此等の國道より分れて、各市邑間に通ずる縣道あり。以て周ねく帝國全土に通ず而して其交通頻繁にして重要なる所には、又多く鐵道の之に沿ひて布設せられたるあり。今我等は此等の交通線路により、東京を發足して、周ねく帝國全土を巡遊するものと假定し、以て各地の地理を觀察せんとす。

甲武鐵道

川越鐵道

東京市附近略圖



甲武鐵道は東京市中に起り、甲州街道と並びて、西、國分寺、立川等を經、八王子に通ず。他日中央鐵道之に接續して小佛峠を越え、甲斐國甲府に至り、更に信濃、美濃を經て、東海道鐵道と、尾張名古屋に連絡せんとするなり。

國分寺より、川越鐵道の埼玉縣下川越に通ずるあり、立川よ

青梅鐵道
八王子
國分寺
國府
東海道鐵道
品川
大森
多摩川
日本六玉川の一

りは、青梅綿の産地なる青梅に向ひて、青梅鐵道あり。八王子には養蠶紡織の業盛にして、黑八丈を産す。

國分寺とは、むかし聖武天皇の御世に、國毎に置かれたる寺の名なり。寺より村名起る。諸國に此地名あるもの皆然り。國分寺の南に府中村あり、昔武藏國府ありし所なり。凡そ諸國に國府或は府中の地名あるもの、大抵之にして、多くは國分寺と相隣れるを常とす、此國の如き其好例なり。

東海道鐵道は東京市に起り、赤穗義士の墓所ある泉岳寺の東を過ぎて、品川町に達す。品川より南、大森に至る一帶の海濱、淺草海苔を産す。淺草海苔の名は、もと東京市淺草の地、海濱にして、多く此海苔を産したりしを示すものなり。又大森邊には梨子の産あり、麥藁眞田の製造亦盛なり。

大森の南方に多摩川あり、一に六郷川といふ。八王子西北の山間より發し、東南流して東京灣に入る。其水清澄、水道を以

(一)新田義興の死所
豆南諸島
伊豆七島
黑潮
小笠原島(二)文祿年中小笠原貞頼の發見
硫黃島

て、引いて東京市民の飲料に供す。其中流に(一)矢口渡あり、此川を渡れば即ち神奈川縣なり。

豆南諸島は、富士火山脈に屬する火山列島にして、遠く列を成して南海に連なる。今統治上の便を以て、東京府の管轄に屬す。分れて三群となる。伊豆七島、小笠原島、硫黃島之なり。

伊豆七島は北に在り。大島、利島、新島、神津島、三宅島、御倉島、八丈島等大なり。住民は多く漁業農業に從事す。八丈島の婦人は專ら紡織に從事し、八丈絹の名高し。八丈島と御倉島との間、黑潮の暖流西南より來りて東北に流るるあり。(二)小笠原島其南にあり、東京を去る二百二十餘里、聟島、父島、母島の三列島に分る。西洋人は之をボーニン島といふ。無人島といふを訛りしなり。其地熱帶に近く、鳳梨、椰子、櫻桃、珈琲、大蝙蝠、蝸牛、信天翁等、暖國産の動物あり。久しく無人の境たりし南洋の一群島も、今や二千五百餘の住民あるに至れり。硫黃島最南にあり、近年我國の版圖に編入せり。小笠原島には警備隊あり。

川崎
生麥
横濱市
金澤

神奈川縣（武藏の南部及相模）（第五圖參照）

東海道鐵道によりて、多摩川を南に渡れば川崎町あり。其東、大師河原との間に電氣鐵道通ず、平間寺の大師參詣者の爲に、專ら設けたる所なり。川崎の西南に生麥あり、嘗て薩摩藩士が英人を斬りて、國際問題を起しゝ所となす。川崎より神奈川を經て横濱市あり。東京を去る七里半。もと寂しき一漁村たりしが、安政六年に開港場となりてより、次第に繁盛となり、爾來僅に四十餘年に過ぎざるに、今や已に十九萬に近き人口を有し、内外の商船常に輻湊して、海外貿易の殆ど一半は、此港に於て行はるゝなり。こゝに神奈川縣廳あり。漆器、陶器等の輸出品の、こゝに製造せらるゝもの多し。

横濱より南、杉田の梅林を過ぎて金澤あり。風光明媚なり。昔此所に金澤文庫ありて、大に和漢の書を藏せしも、今や散逸

鎌倉
*護良親王を祀る
横須賀支線

して見るべからず、惜むべし。

金澤より西すれば、やがて相模の鎌倉なり。此地は源頼朝以來、久しく政治上重要の地なりしかば、著名なる神社、佛閣、其他歴史的の遺蹟甚多し。神社には鶴岡八幡、鎌倉宮、佛閣には建長寺、圓覺寺、光明寺、鎌倉大佛など著し。東海道鐵道は大船驛より分れて、此鎌倉を經、東南、三浦半島に入り、逗

帝國五軍港

子を過ぎて横須賀に達す。横須賀は吳、佐世保、舞鶴、室蘭と共に、帝國五軍港の一にして、造船所あり、船渠あり、帝國軍艦常に投錨す。横須賀の東に猿島砲臺及觀音崎砲臺あり。上總の富津岬と相對して東京灣の口を守る。觀音崎の西南に浦賀あり。

三浦半島より、東京灣口を渡れば、即ち房總半島なり。古史に、日本武尊東夷征伐の時、海上風浪にあひ、妃橘媛海に投ずとあるは、此邊の海をさせるものなり。

*新田義貞打入の處

江の島

鶴沼

大磯

國府津

鎌倉より西、*稻村崎、七里濱を過ぐれば、江の島あり。岩壁海波の浸蝕を受けて、斷崖あり、洞窟あり、頗る奇觀を呈す。名物貝細工あり。江の島の北に鶴沼あり。其西方、馬入川を過ぎて、大磯あり、國府津あり、此一帶の海、水清く、氣候穩にして、海水浴に適す。從ひて貴紳の別莊少かならず。東海道鐵道は大山を

足柄峠と箱根峠と

小田原町

*北條早雲の一家

箱根

右に見て、大磯より國府津に至り、更に西北に折れて足柄峠を越ゆ。道遠けれども坂路稍緩なれば、なり。國道は國府津より西して酒勾川を渡り、小田原を過ぎて箱根峠を越ゆ。小田原は後*北條氏五代の城地にして、一時關東の中心たりしも、其滅亡と共に衰へたり。こゝに漬物及賣藥外郎等あり。箱根には湯本、塔澤、底倉、蘆湯、姥子などの溫泉多し。山上に蘆湖あり。風景極めてよし。湖畔の小島に離宮あり。蓋し箱根山は一の休火山にして、蘆湖は其火口の一部に水の溜りたるものなり。蘆湖の東北、大湧谷には今尚硫氣を噴出す。國道は湖の南岸を過ぐ。こゝには箱根宿あり。近來多く挽物細工を產す。有名なる箱根關趾は此邊にあり。

千葉縣（安房、上總及下總の利根川以南）（第五圖參照）

利根川

(一)坂東は足柄坂以東の義後の關東と同じ

江戸川

總武鐵道

(二)明治六年聖上命名

千葉縣は房總半島を管す。北境に利根川あり、利根川は源を上野國に發し、東南流して關東平野を横ぎり、銚子に至りて太平洋に注ぐ。長さ七十餘里、(一)坂東太郎の稱あり、其支流の東京灣に注ぐものを江戸川となす。武總兩國の境川なり。此川の附近に行德(ギヤウトク)、市川(コフ)、國府臺(ヰ)、流山、野田等の名邑あり。行德に食鹽、流山に味淋、野田に醬油の名産あり、國府臺は昔下總國府のありし所、北條里見の古戰場として其名高し。

總武鐵道東京市に起り、市川驛にて江戸川を渡り、習志野(ならしの)(二)の南をすぎ、千葉、佐倉等を經て銚子に至る。銚子に銚子縮及醬油等の名産あり。銚子の東に、犬吠(イヌボ)岬の太平洋中に突出するあり、關東平野の最東端となす。之より西南の海岸を九十九里濱といふ、鰮漁を以て名あり。凡そ千葉縣の地、東に太平洋あり、西に東京灣を控えて、海岸線長く、鰮、鰹、鮪等の魚類、其他

千葉町

房總鐵道

小湊

九十九里の濱

海藻等、海産物の利甚多く、鰹節、干鰯(ホシカ)、石花菜(ヒジキ)等の産額全國に冠たり。

千葉は縣廳所在の地。房總鐵道此地より、上總の一宮を經て、大原に通ず。一宮に上總の一宮玉前(タマサキ)神社あり。凡そ諸國皆一宮あり、其地名となれるもの亦少からず。一宮より海岸に沿ひて南すれば、小湊に達すべし。こゝに誕生寺あり。日蓮上人誕生の靈場なり。更に半島の西岸に廻れば館山、北條、加知山、木更津等の名邑あ

佐倉町

成田鐵道

*佐倉宗吾の靈堂は其東北公津村にあり

房總半島古代の開化

り。東京より毎日汽船の航行あり。

佐倉は堀田氏の舊城下にして、今第一師團の分營あり。此地方佐倉炭を産す。成田鐵道こゝより起り、印旛沼の東を過ぎ、成田を經て佐原に通ず。成田に不動を以て名ある新勝寺あり。佐原は利根川に瀕して水運の便あり。此鐵道は他日東は小見川に、西は手賀沼の北を過ぎ、我孫子を經て、埼玉縣下の川越に至らんとす。佐原の東一里香取神宮あり、建國の功神經津主神を祀る。其東北、利根川を隔てゝ常陸に武甕槌神を祀れる鹿島神宮あり、兩々遙に相對す。

房總半島は開拓の由來頗る古し、古傳によれば、上古天富命部下を率ゐて、本國阿波より此南部に殖民す。之を安房郡と云ふ。上下の總の國は、其人々の携へ來りし總、即ち麻を植ゑし所なりと云ふ、安房國の西南隅、神戸村大字大神宮に官幣大社安房神社あり。之れ其高祖太玉命を祀れるなり。かゝ

鐵道

川越町

浦和町

れば縣下の地、今に至りて農業尙盛にして、農産物の頗亦著し。

埼玉縣（武藏の北部）（第五圖參照）

埼玉縣は千葉縣と江戸川を夾みて西北に連る。北境に利根川あり、東方の大河は一帶の平野にして、たゞ西方の一部、秩父の山地をなし、荒川之より出でゝ東南流す。

鐵道の縣下を通ずるもの四。日本鐵道の高崎線、同東北線、東武鐵道、川越鐵道なり。川越鐵道は前已に述べたる所、其川越は武藏のほゞ中央に位し、紡織の業を以て著はる。川越斜子、川越平等の産あり。其四近の平野甘藷の産多く、川越藷の名高し。高崎線は東京に起り、浦和、大宮、鴻巣、熊谷等を過ぎて、上野國に入る。浦和町には埼玉縣廳あり。大宮は官幣大社氷川神社の大宮あるによりて名を得、大宮公園の遊觀によろし

百穴（古代住民の遺蹟）

きあり。熊谷は熊谷次郎直實が苗字の地なり。

鴻巣町の西二里、西吉見の百穴と稱するあり、二百數十の横穴山腹に相並ぶ。此類の穴上總下總等の地方にも亦これあり。考古家或は之を葬穴といひ、或は穴居の蹟といふ。其說未だ一定せざるも、兎に角古代人民の遺蹟にして、所々に存する古塚と共に、昔時關東平野の住民の狀を想像するに足るものなり。

古利根川

東北線は大宮驛より分れて東北に進み、久喜にて東武鐵道と會し、下野に向ふ。東武鐵道は東京より下野足利に至らんとするもの、今や久喜迄開通す。

久喜の東に幸手（サッテ）あり。久喜、幸手の間に古利根川あり、今は小流なれども、古へは利根川此方に流れて武總の境を成しき。然るに此川は流路の變遷多く、二百四五十年前より今の如く銚子に口を開けり。

農業

此等の鐵道の通ずる一帶の平野は、田園頗る開けて、農業盛に行はれ、麥の如きは全國第一等の產額あり。農家は又其傍

秩父

ら、多く綿藍の類を植ゑ、二子縞の如き木綿織の製出甚多し。其西方秩父地方には、養蠶の業盛にして、秩父絹の名高し。中にも大宮郷の如き最も著はる。

大宮の北二里餘、黑谷（クロヤ）といふ所あり。傳へて和銅の產地となす。元明天皇の和銅元年春正月、武藏國秩父郡和銅を獻すと古史にあるもの之なり。

毛野國

日本鐵道高崎線

高崎町

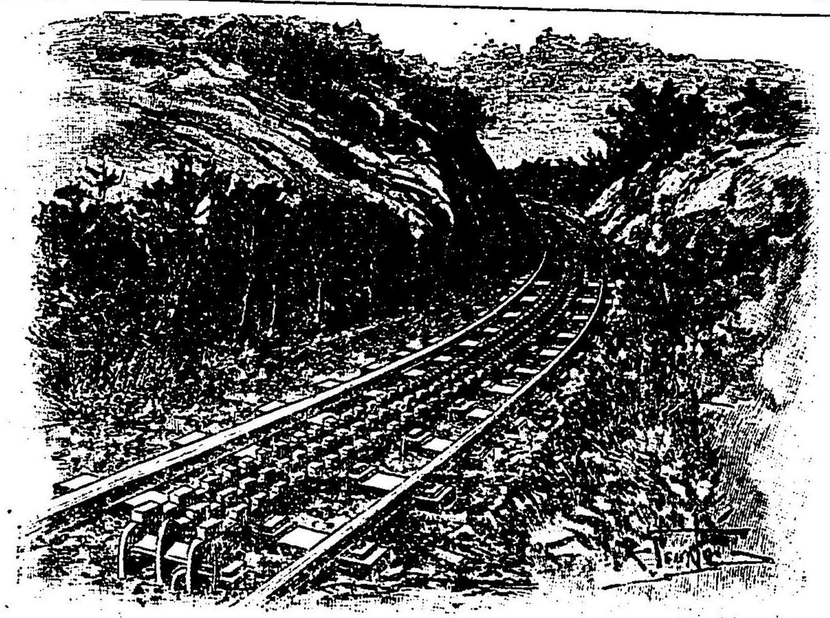
群馬縣（上野）（第五圖參照）

上野下野の地、古へ毛野、國と稱す。後上下二國に分つ。故に或は合せて兩毛といふ。群馬縣は其西方上野國を管するなり。日本鐵道の高崎線は、東京市より、埼玉縣下の地を經て、高崎町に至り、此所に官設鐵道の信越線、日本鐵道の兩毛線、及上野鐵道と連絡す。高崎に第一師團の分營あり、四通の要地なればなり。此地方生絲の產地として著はる。

信越鐵道

*日本武尊「吾妻はや」の嘆

上野の三山



碓氷峠の鐵道（アプト式）

信越鐵道は高崎より起り、碓氷峠を過ぎて、信濃、越後に通ず。碓氷峠は中仙道第一の險坂なれば、鐵道は山中二十六個の隧道を穿ち、アプト式によりて之を越ゆ。山は紅葉を以て妙義と共に名あり。妙義は赤城、榛名と共に上野の三山と稱し、山中の景勝を以て著はる。由來火山質の山、山中の奇變に富む、此地方は中央火山脈が富士火山脈と接合する所なれば、火山の噴起多く、右の三山の外、信濃境に淺間、吾妻、白根等の著しきあり。從ひて溫泉多く、伊香保、草津等有名なり。

上野鐵道

上野鐵道は高崎より起り、吉井、富岡を過ぎて下仁田に至る。

*和銅四年建設

吉井に多胡郡の碑あり、兩毛の地此外にも古碑古塚等、古代の遺物多し。富岡には製絲場あり。

兩毛線

兩毛線は高崎より利根川を渡りて前橋市に至り、伊勢崎、桐生を經て下野に入る。

前橋市

前橋は有名なる生絲の市場にして、上州生絲多く集散す。こゝに群馬縣廳あり。桐生には羽二重其他種々の絹織を產す。伊勢崎亦銘仙を以て名あり。凡そ兩毛線の過ぐる所、蠶業の產に富めり。國の東南隅なる舘林亦織物を產す。かく縣下養蠶の業盛にして、蠶絲の產甚多く、織物の如きも近年長足の進步をなして、其產出額每年凡一千萬

蠶業

東北線
*那須國造の碑朱鳥四年あり
宇都宮市
兩毛線
眞岡
佐野鐵道
渡良瀬川

圓に下らず、實に京都西陣につぐ。

栃木縣（下野）（第五圖參照）

日本鐵道の東北線、縣下を南北に貫通し、*那須野を過ぎて、磐城に入る。途、小山、宇都宮を過ぐ。小山は兩毛線の來り會する所、宇都宮は縣廳の所在なり。兩毛線は上野より來り、足利、佐野、栃木を經て、小山に東北線と會し、更に東の方、常陸の水戸に通ずる線路と連絡す。此線の過ぐる所、其上野に於けるが如く、亦蠶業の産に富む。中にも足利絹は最も名あり。栃木亦生絲の集散所たり。之に反して國の東南眞岡地方は木綿を産し、眞岡木綿の名高し。佐野には佐野鐵道の交るあり。佐野鐵道は葛生（クズフ）、越名（コヤナ）間に通ずる短距離のものにして、葛生地方に産する石灰石等の石材を、渡良瀬（ワタラセ）川に運ぶの便あり。渡良

足尾銅山
日光

瀬川は足尾銅山より發し、一旦上野に入り、更に東南流して利根川に注ぐ。爲に往々鑛毒の害を附近に及ぼすといふ。足尾銅山は本邦第一の銅の産地にして、全國一箇年の銅の産出高五百四五十萬貫中、實に其十分の三は此山より出づるなり。足尾の東北に日光あり。西方に庚申山あり。庚申山は岩石の奇勝に富む。日光に東照宮あり、社殿の壯麗海

鹿沼

日本鐵道水戸線

*紀伊尾張水戸

水戸市

内第一と稱す。山中亦景勝に富む。中にも華嚴瀧、中禪寺湖等最も著はる。湖の水は大谷川となり、末は鬼怒川となりて利根川に注ぐ。湖北の男體山、湖西の白根山は、國の北隅なる那須山と共に、中央火山脈に屬する火山なり。從ひて附近溫泉多く、湯元、塩原、那須等最も著はる。日光に日光塗、日光羊羹等の産あり。日光より鹿沼を經て宇都宮に鐵道開通す。鹿沼は大麻の本場なり。

茨城縣(下總の西北部、常陸)(第五圖參照)

日本鐵道の水戸線は、取手驛にて利根川を渡り、土浦、石岡を過ぎ、筑波山を左方に見て北に進み、友部にて、下野國小山より來れる線と會して、東方、水戸に至る。石岡は酒及醬油を以て名あり。土浦亦醬油の産地なり。水戸市はもと德川御三家

(一)加賀藩六國、岡山後樂園、水戸偕樂園

の一なる水戸家の城下にして、縣廳の所在なり。市に偕樂園の幽邃なるあり、(二)日本三公園の一と稱せらる。水戸の東に大洗岬あり。こゝに磯濱町あり。那珂川を隔てゝ北に平磯町あり。共に漁業盛なり。此等の地は東の方太平洋を望み、風景最も佳にして、海水浴場の設あり。水戸より東北、海岸に沿ひて日本鐵道の常磐線あり。勿來を過ぎて磐城に入る。勿來は義家が「(三)吹く風を」の歌を詠じて過ぎし勿來の關のありし所なり。水戸より北に向ひては、太田鐵道の太田に至れるあり、西に向ひては、即ち小山線の結城を過ぎて、下野に入れるあり。鐵道の交通便を極む。結城に結城紬の産あり。結城の西南に古河あり、足利關東管領古河御所のありし所なり。

(二)吹く風を勿來の關と思へども道もせに散る山櫻哉

常磐線

縣下農業盛にして、麥の如きは、産額實に埼玉縣につぐ。其他の穀類亦多し。又水戸煙草の著名なるあり。西部の地方には

産物

木綿の紡織盛なり。山地には漆多く、從ひて水戸膳の如き塗物あり。花崗石、寒水石、其他各種の石材亦名あり。沿海には鰹、鯉鮪等の海産の利多く、霞が浦、北浦等の湖水には、淡水産の魚類の利亦少からず。

第三節　奥羽（福島、宮城、岩手、青森、秋田、山形）（第五圖第六圖參照）

陸奥

出羽

本州の東北隅、磐城、岩代以北を古へ陸奥と稱す。道の奥の義なり。又其西方、日本海に面する國を出羽と稱す。越路の出端の義なり。此兩國を合して奥羽といふ。維新後陸奥を磐城、岩代、陸前、陸中、陸奥の五國に、出羽を羽前、羽後の二國に分つ。福島、宮城、岩手、青森、秋田、山形の六縣之を分管す。

地勢

奥羽の地、中央に分水山脈の走れるあり、東に北上、阿武隈の兩山脈、西に出羽山脈あり。其間火山の噴出多く、山岳、頗る重

疊すれども、又山脈と山脈との間、川に沿ひて平野少からず。以て農業、牧畜、養蠶等に適し、鑛業林業亦盛なり。

奥羽の人口

此地方は古へアイヌの多く住したりし所にして、史に陸奥蝦夷、越蝦夷等の稱見ゆ。今尚地名にアイヌ語に基くもの多し。其以前には石器を使用したる人民住して、貝塚、竪穴等の遺跡甚多く、石斧、石鏃等の發見せらるゝもの少からず。國史に時々出羽に石鏃を降らすの記事あるは、ろの田園などに、土に埋もれたるものゝ、大雨の爲に洗ひ出だされたるを見誤りしものなるべし。此種の遺跡は他の地方にも多けれども、奥羽には殊に多きが如し。此地方は其開拓頗る他地方よりも遲く、今に及びて尚住民少なし。其人口の割合は、面積四千二百五十方里に對して、僅かに四百七十餘萬人、即一方里平均一千百餘人にして、之を畿内の一方里平均六千人に近きものに比すれば、實に其五分の一にも足らざるなり。今や日本鐵道東北線は已に開通し、官設奥羽線亦益其歩を進めつゝあり。此地方の將來多望なりと云ふべし。

*出羽地方迄も古へは越ノ國と稱す。石器時代の遺蹟

福島縣（磐城の大部及岩代）（第五圖參照）

福島縣の管する所、奥羽の最南にあり。奥羽街道は下野より、濱街道は常陸より、共に來りて縣下を南北に通ず。此兩街道に沿ひて各鐵道あり。東北線は奥羽街道に沿ひ、分水山脈と阿武隈山脈との間の溪谷を過ぎて北行す。此溪谷は即ち阿武隈平野にして、養蠶牧畜の業盛なり。溪谷の諸水阿武隈川に集まり、北流、陸前境に至り海に入る。鐵道の過ぐる所、白河、郡山、二本松、福島等の名邑あり。白河は維新の際激戰のありし所、こゝに白河關趾あり。濱街道なる勿來關と相待ちて奥州の入口を守りしものなり。郡山には岩越鐵道の越後に向ひて出づるあり、現今若松迄開通す。郡山の東北に三春あり、有名なる三春駒の産地なり。二本松は紬を以て名あり。福島は縣廳の所在にして、多く羽二重等の絹織を産す。由來

東北線

阿武隈川

白河

*都なれば霞と共に立ちしかご秋風の吹く白河の關（能因）

岩越鐵道

福島町

*北島親房、顯家ガ起レル別宮幣宮ニ鎮山神社アリ

奥羽線

火山

若松城（舊景）

福島縣下蠶業盛にして、絹絲、蠶卵紙、眞綿等の産出多し。福島の北方に半田銀山あり。東方に靈山あり。官設鐵道奥羽線は、福島より西北、中央火山脈の峻坂を越えて、米澤市に達す。他日更に北行し、陸中に入り、更に陸奥に東北線と連絡せんとす。

福島の西方に吾妻、安達太郎、磐梯等の有名なる諸火山あり。共に中央火山脈に屬するものにして、下野の那須山に連なる。磐梯山は明治廿一年に、大破裂を成せり。磐梯

猪苗代湖

山の南方、猪苗代湖あり、風景極めて佳に、湖上汽船を浮べて、運輸の便あり。有名なる猪苗代疏水は、此水を引く事十里餘、東方、郡山町等の數町村を濕すものなり。湖水の水は阿賀川となり、附近の諸水を合し、西流して越後に入る。湖西若松市あり。もと會津と云ふ。松平氏の城下にして維新の際兵火にかゝりしも、今尚縣下第一の都邑なるを失はず。東一里東山溫泉あり、浴客四時絶えず。西南、本郷には陶器會津燒を産す。又此地方多く漆を植え、會津塗の産あり、廉價にして實用に適するを以て稱せらる。又會津蠟燭あり。

若松市

常磐線

常磐線は阿武隈山脈の東、太平洋沿岸に沿ひて北行す。途、平、中村等を過ぐ。平附近石炭坑あり。中村はもと相馬氏の城下にして、名産相馬砂燒あり。陶器の面馬を描く。馬は縣下名産の一なり。亦多く馬鈴薯、煙草の産あり。

仙臺市

*神龜元年之を殷置、陸奥の鎮所とし蝦夷に對するなり

宮城縣（磐城の北部及陸前の大部）（第六圖參照）

奥羽街道と濱街道とは、陸前の南隅岩沼に於て相會す。日本鐵道東北線及常磐線の兩鐵道、亦此所に會し、仙臺市を經て、北の方陸中に入る。

仙臺に宮城縣廳あり。此市はもと伊達氏の城下にして、人口約七萬五千、東北一の大都會なり。城は今松島第二師團の本營たり。市に仙臺平の産あり。又第二高等學校及政宗の廟所瑞鳳殿等あり。市の東北は古への宮城野にして、多賀城趾あり。

鹽竈
松島

鐵道は分れて鹽竈に至る。鹽竈は松島灣にのぞみ、漁船の集る所、鮪の漁多し。松島灣に松島あり。數百の群島星の如く散布し、日本三景の第一位に居る。名物埋木細工あり。

松島灣の東、北上川の河口に石巻港あり。其東は即ち牡鹿半島にして、其西岸なる萩濱は横濱より函館に航する要津とす。半島の東南端に金華山あり、海中に屹立して景勝に富む。北より來れる寒流親潮は、此附近に跡を沒す。故に半島の内外、氣候に著しき差ありと云ふ。

縣下の地、西は分水山脈を以て羽前に接し、諸水東流して宮城野、北上平野の、有名なる陸前米の産地を濕す。西北隅に細倉鑛山あり、多く鉛を産す。銀の産出亦少からず。

岩手縣（陸前の東北部陸中の大部及陸奥の南部）（第六圖參照）

北上川
東北線

北上川の長流、分水山脈と北上山脈との大谿谷を南流して、仙臺灣に入る。延長凡そ八十里。日本鐵道東北線は此流に沿ひて、一の關、平泉を過ぎ、遠く北の方盛岡市を經、尙進みて陸奥國に入る。

平泉

平泉は昔藤原清衡、基衡、秀衡三代の繁榮を極めし所にして、其豪奢の蹟は、今存する中尊寺の光堂を見ても知るを得べし。

衣川

平泉の北に衣川あり、東流北上川に入る。安倍貞任が『年を經し糸の亂れの苦さに』の嘆ありし衣川の柵趾は此邊なり。

盛岡市
貞任陣沒の地

盛岡市はもと南部氏の城下にして、岩手縣廳の所在なり。市の西に厨川（クリヤガワ）の柵趾あり。此地方を南部（ナンブ）といふ。南部釜の名産あり。南部縮緬、南部塗物、亦共に其名高し。盛岡の西北に岩手（イワテ）山あり。中央火山脈中の一休火山にして、山容を以て南部富

士の名あり。北上山脈の東は外南部と稱す。其北部地方多く馬を産す、南部馬の名あり。外南部の南部に釜石鑛山あり、鐵の産出甚だ多く、全國産額の半以上を占む。

釜石鐵山

青森縣(陸奥の大部分)(第六圖參照)

東北線

*「ムツ」といふは東北土音の訛なり

本州の極北、*尙陸奥の古名を存す。東北線は陸中より來り、尻内より八戸町を經て、湊へ支線を出だし、本線は北行して、小河原湖の西を迴り、陸奥灣沿岸に出でゝ、青森市に達す。こゝに青森縣廳あり、青森より渡島の函館へ毎日定期航海あり。

青森市

奥羽鐵道

官設奥羽鐵道青森より起り、西南弘前市を過ぎ、碇關を經て羽後に入る。他日進みて福島に還歸すべきなり。此邊冬時降雪殊に多く、鐵道に屋根を作りて線路の埋沒を防ぐが如きあり。

弘前市

*齊明天皇四年阿倍の比羅夫蝦夷を伐て津輕郡を置く

斗南半島

弘前市はもと津輕氏の城下にして、第八師團司令部の所在なり。此地方もと津輕と稱す。漆器津輕の韓塗と稱するあり。市の西北に岩木火山あり、其形圓錐狀をなして、津輕富士の名あり。岩木火山脈之より起る。岩木川あり、岩木山麓をめぐり、津輕平野を過ぎて十三潟に注ぐ。

雲中汽車

津輕地方と陸奥灣を隔てゝ東北に斗南半島あり、其北端は三角形をなし、中央に恐山、燒山の二活火山あり。中央火山脈之より起り、八

甲田山、赤倉嶽等を經て、奥羽の間を走る。赤倉嶽の南に十和田湖あり。山間の大湖、水清く風色掬すべし。

此國海岸線長く、水産の利多し。鮑、海參、鱶、鱈の如きは、産額何れも、全國第一に位し、鰊、昆布等亦少からず。

秋田縣（羽後の大部及陸中の西北隅）（第六圖參照）

奥羽鐵道

岩手縣と分水山脈を夾みて、西に秋田縣あり、青森より起れる奥羽鐵道は今や白澤迄開通す。他日之より能代川に沿ひて下り、八郎潟の東を過ぎて秋田に至り、更に御物川に沿ひて上り、院内を經て、羽前に入らむ豫定なり。

鑛山

能代川の上流に、陸中尾去澤銅山あり。其支流阿仁川の上流に、阿仁銅山あり。院内には著名なる金銀山あり。縣下尚此外にも鑛山多く、金、銀、銅の産に富む。中にも銀は最も多く、殆んど全國産額の半に達せんとす。

能代町

能代川の河口に能代町あり、能代春慶塗を産す。西南に男鹿半島あり、八郎潟を擁す。半島に寒風山あり、彌彦火山脈に屬す。八郎潟に臨みて山水雅致あり。聖上東北御巡幸の際には聖駕を鹿渡驛に駐めて其風景を賞し給ひしと云ふ。

八郎潟

秋田市

秋田市はもと佐竹氏の城下にして、秋田縣廳及第八師團の分營あり。此所に秋田畝織、秋田八丈等の産あり。此地方甚だ大なる蕗を生ず、秋田蕗と稱して有名なり、秋田米亦名あり。其西北なる土崎港は此等産物の集散所なり。

＊齊明天皇四年阿部比羅夫蝦夷を伐つ、蹟田、渟代の蝦夷降る

本荘町

土崎より海岸に沿ひて南すれば本庄町あり、子吉川の河口にあり。川は鳥海火山より發す。此山高さ七千餘尺、山上に大物忌神社あり、岩木火山脈中の秀峰なれば、此脈を一に鳥海火山脈と名づく。

鳥海山

山形縣(羽後の西南隅及羽前)(第六圖參照)

最上川

山形縣は宮城縣と分水山脈を夾みて背中合せをなす。縣下の諸水は最上川に集ゝり、酒田港に至りて日本海に注ぐ。此川延長六十餘里、日本三急流の一と稱す。官設奥羽鐵道は、他日羽後より來り、新庄を過ぎて、此川の東を南行し、天童、山形、米澤等を經て、福島に至らん豫定なり。米澤以東已に開通す。

駿河富士川、羽前最上川、肥後球磨川、

奥羽鐵道

此鐵道にして全通せば、兩羽の地便益を得るもの甚大ならん。新庄には龜綾織の名産あり。山形市もと最上と稱す。縣廳の所在にして商業盛なり。市の西南、上の山には有名なる鶴脛溫泉あり。米澤市はもと上杉氏の城市にして、養蠶紡織の業盛に、米澤糸織等の著名なるあり。又漆器を産す。

山形市

米澤

米澤の産物は、もと上杉氏が國産所を立てゝ、漆、楮等の栽培を保護し、大に

藩時代國産の奬勵

國産を奬勵したるに基して、遂に今日の如く、盛に蠶絲、眞綿、漆汁、漆器、其他織物等を産するに至りしなり。蓋し德川幕府の世、太平日久しく、諸侯の位置はゝ固定したるに方りて、心あるもの往々其國産を奬勵する少なからず。諸國に特有の産物あるは、多くは之に起因するものなり、尾張の陶器、土佐の紙、阿波の藍、姫路の木綿等、此類多し。各其條下に說くべし。

湯殿山

最上川の下流地方は、所謂庄内平野にして、米穀の産多し。其南方に鶴岡、大山あり、河口に酒田港あり。鶴岡はもと庄内と稱し、又大泉と

庄内

羽黒山
月山
湯殿山

稱す、繪蠟燭の産あり。大山には酒を産す、酒田港は日本海岸の要港にして、地は羽後に屬す。

鶴岡の東方、羽黒山、月山、湯殿山の三山あり、山上いづれも山と同名の神社ありて、夏日行者の參詣多し。途中鐵階を踏み鐵鎖を攀づるの所、懸崖人をして戰慄せしむるものあり。

第四節　本州中部（第七、八兩圖參照）

本州中部

地勢

（新潟、長野、山梨、靜岡、愛知、岐阜、富山、石川）

富士火山脈の西方、飛驒、信濃の地は、山系錯綜して本州中、最も高峻なる地方を成す。今此高地を中央とし、四近の十三國を併せて、本州中部と稱す。新潟、長野、山梨、靜岡、愛知、岐阜、富山、石川の八縣之を分管す。

川流は中央の高地より起りて四方に走る。東南に馬入川あり、南に富士、大井、天龍の三大河あり、西南に木曾川あり、共に太平洋に注ぐ。日本海には神通川、射水川及信濃川等の注ぐあり。中にも信濃川は延長百里、本州第一と稱す。木曾川の下流に濃尾平野あり、信濃川の下流に越後平野あり、此外沿海の地平地少からず。氣候は日本海に面する方と、太平洋に面する方と、其中間の山地と、何れも甚しき差あり。北方は冬季雪深く、海岸風浪荒くして、碇舶に不便なり。山間の地は寒暑共に烈しく、南方は概して溫和なるを常とす。

越後平野

＊古への越後は羽前の邊迄も及ぶ

新潟縣（越後及佐渡）（第七圖參照）

＊越後は越（コシ）の後（ミチノクチ）の義にして、北陸道の最東にあり。信濃川は信濃より、阿賀（アガ）川は岩代より、共に來りて國中を貫流す。下流に越後米の産地なる越後平野あり。他日岩越鐵道は阿賀川に

新潟市

沿ひて來らんとす。信濃川には上品なる鮭の産あり。河口新潟市あり、縣廳の所在なり。此市は五港の一として、日本海の要港なれども、泥沙堆積して大船の碇泊に便ならず。川を隔てゝ沼垂あり、北越鐵道此より三條、長岡、柏崎等を經て、直江津に達す。三條は信濃川の東にあり、商業上の要地なり。之より川を隔てゝ西北に燕町あり、銅器の産地として其名高し。

北越鐵道

（一）大化三年浮足の柵なる置き蝦夷に備ふ

新發田町

又三條の東北に五泉、村松等の名邑あり。五泉の東北に新發田あり、新發田はもと溝口氏の城下にして、今は村松と共に各第二師團の分營あり。五泉は、三面川の邊なる村上と共に、平絹を産す。五泉平、村上平の名あり。三面川は國の東北部にあり、流小なれども多額の鮭を産す。村上の西南に岩船町あり。長岡は亦信濃川の東岸にある商業地にして、其上流なる小千谷地方の越後縮布、十日町の透綾等、多く此地に集散す。

長岡町

（一）大化四年磐舟柵を治め蝦夷に備ふ

こゝより新潟へ小汽船の航通あり。柏崎は海岸の名邑にして、其西南に米山の峙つあり。米山は東北なる彌彦山と共に、彌彦火山脈に屬する休火山なり。

信越鐵道

直江津は荒川の河口なる要港なり。官設信越鐵道之より信濃を經て上野高崎に達す。直江津の南に高田あり、降雪の量殊に多きを以て名あり。近傍に春日山城趾あり。此地方多く石油を産す、其額一箇年凡そ二十三萬石（明治三十年調）あり。未だ一般の需用を充たすに足らざれども、內國産の大多數は實に此國より出づるなり。又多少石炭の産あり。又石炭瓦斯の自然に地中より出づるあり。或は之を屋內に引きて、物を煑、又は燈火に代用す。之を火井といふ。

（一）上杉謙信の居城

（二）天智天皇七年越ノ國燃る土燃る水を献す

火井

直江津より、西南の海岸を過ぐれば、富山縣に入る、途中有名なる親不知子不知の嶮あり。怒濤斷崖を打つの際に道あり。

親不知

（三）一三頁の圖を見よ

打ち寄する波の隙を見て漸く走り過ぎ、親子も顧るの暇なしとて此名あり。然れども今や新道の開鑿ありて、亦此危嶮を犯すの要なし。

佐渡

佐渡は古來、金の産出多きを以て名あり。金山朱泥を出だし、相川町には之を以て陶器無名異燒を作るものあり、雅致あり。又裂織の産あり。相川の東南眞野灣の上りには順德天皇を祀れる眞野宮あり。

長野縣(信濃)(第七圖參照)

地勢

信濃國は殆ど本州の中央部に位し、東に富士火山脈あり、西に立山火山脈あり、土地最も高峻なり。而して甲斐境の八岳より蓼科山、和田峠等を經て、御嶽に至れる連山は、木曾山脈と斜十字形に交りて、國を四區に分ち、千曲、犀、木曾、天龍の四

(一)武田上杉古戰場

信越鐵道

(二)民心慰めかねつ更科やゆゝしき姥捨山に照る月を見て不知(讀人)

松本町

(三)冬時氷結を以て名あり

大川、各四隅の谿谷より發す。天龍川は南流して遠江に入り木曾川は西南美濃に入り、北流せる犀川は千曲川と合し、越後に入りて信濃川となる。此二川の合流せる所を川中島と云ふ。其西北に長野市あり、縣廳の所在なり。市北、天台宗の巨刹善光寺あり、參詣者踵を接す。信越鐵道は越後より來りて此市を過ぎ、千曲川の流れに沿ひて東南行し、月と蕎麥とを以て名ある更科の姥捨山を川の西方に見て、上田紬の名産地なる上田を經、輕井澤より、碓氷峠を越えて上野國に入る。長野町より犀川を遡れば、養蠶の本場たる松本町あり。此所に第一師團の分營あり。松本より南東、鹽尻峠を越ゆれば、天龍川の水源地なる諏訪湖畔に出づべし。こゝに下諏訪町あり、仲仙道(一に木曾街道)は輕井澤より來り、追分に信越鐵道と分れて、此所を過ぎ、鹽尻峠を越え、西南して美濃に入る。此

木曾

*源義仲成長の地

中央鐵道

地方を木曾といふ、有名なる大山林あり。木曾川此山間を流れ、急流岩に激して時に寢覺の床の如き奇勝を呈す。他日中央鐵道は、武藏より甲斐を經て來り、此流に沿ひて美濃に入り、尾張名古屋に、東海道鐵道と連絡せんとす。此國は山間にあるが故に、多く桑、漆、楮等を栽培し、生絲、眞綿、蠶卵紙及び漆汁の製出甚多し。從ひて織物、漆器を產し、奉書、杉原等の紙の產出亦少からず。又多く冬時寒天を製出す。

產物

山梨縣(甲斐)(第七圖參照)

郡內

甲斐は山の峽(カヒ)の義なり。國山間に位す。南境に世界無雙の富士山あり、西境に駒岳あり、東北には關東山脈あり。西境北境の諸山水晶の產あり。又武田勝頼の滅びし天目山、其他笹子峠等の諸山の南北に連るありて、國を東西に分つ。東部は郡

猿橋

*富士沼駿河、(鹽)湖(相模)、山中、本栖、精進、西川口、乃尾連(甲斐)

甲府市

內にして、紡織の業盛に、傘地、裏地に用ふる甲斐絹、郡內絹を產す。郡內の諸水桂川に集まり、相模に入りて馬入川となる。桂川の中流、猿橋(サルバシ)驛に猿橋あり。左右絕壁の上に架す、奇巧を以て名あり。水源に山中湖あり、富士八湖の一なり。」

猿橋

甲州街道は武藏より來り、桂川に沿ひて西行し、縣廳の所在たる甲府に至る。西部は即ち甲斐の溪谷平野にして、甲府は

富士川

其中央にあり。西部の地多く葡萄を産す、勝沼の如き最も著し、平野の諸水は富士川に集まり、南流して駿河に入る。此川急流にして、鰍澤より東海道に至る十八里、五六時間にして達すべく、頗る水運の便あり。河西、身延には日蓮宗の本山久遠寺あり。もと甲斐は武田氏の累代領せし所にして信玄に至りては最も盛を極め、國人今に至りて之を稱す。其城趾は甲府市の北郊にあり。

附近日本武尊遺蹟の折宮あり

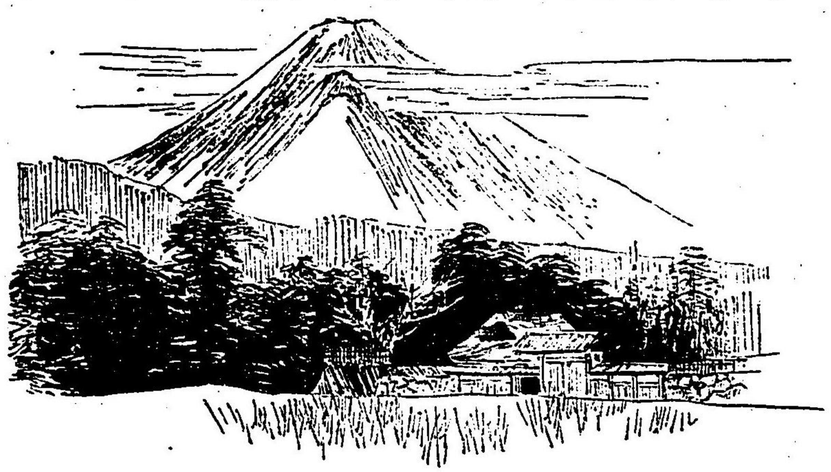
東海道鐵道及道國

靜岡縣（駿河、伊豆、遠江）（第八圖參照）

富士山の南、駿河灣を擁して駿、遠、豆の三國あり、共に靜岡縣に屬す。西北に赤石山脈ありて、三河、信濃に境し、東は箱根、足柄の連山を以て相模に連る。東海道鐵道は、足柄より、國道は箱根より、共に、來りて沼津に會し、相並びて浮島原を西行す。

富士山

裾野



伊豆三島より富士山を望む

富士山は富士火山脈の主山にして、高さ凡そ一萬二千五百尺、蓮葉を伏せたるが如く、形容極めて秀麗、火山の好標本たり。此山古來時々噴火し、近く寶永四年には、半腹に寶永山を噴起せり。山頂に火口あり、徑僅かに五六町、洞中盛夏と雖ども猶雪あり、富士詣の行者は、僅かに夏日を待ちて之に上るを得。山に登るに道多し、東よりするものは、東海道鐵道の御殿場驛よりするを便とす。南麓は裾野遠く引いて浮島原に達す。凡そ火山には

(一)建久四年源頼朝、こゝに曾我兄弟父の仇を報ずの(二)田子の浦に打出でゝ見れば白妙に富士の高根に雪は降けり、(赤人)

豆相鐵道

(一)裾野多し、富士のもの殊に著はる。其南は即ち(三)田子の浦なり。富士の東南に愛鷹山あり、亦一大休火山なり。

沼津の東北に三島驛あり、豆相鐵道之より起り、伊豆國三島町を過ぎ、南條を經て、大仁に達す。三島に三島神社あり、南條の東に韮山あり、大仁の西南に修善寺あり。韮山は後北條の祖伊勢長氏が據りて起りし所、修善寺は源頼家幽居の地として、共に史上有名の地なり。修善寺に温泉あり、幽靜なり。蓋し此地は富士火山脈通過の衝に方りて、諸所に温泉多く、熱海、伊東の如き有名なるあり。中にも熱海は本邦に珍らしき(三)一定時間を以て熱湯を噴出するもの間歇泉なり。相模の小田原より、此所に人車鐵道の布設あり。伊豆の西南に天城山あり、山林良好の木材を出だす。有名なる伊豆石亦各地に産す。駿河の富士石と共に火山的の岩石

温泉

なり。伊豆の南隅に下田港あり。屈指の良港にして、相州浦賀と共に黑船來着を以て名あり。伊豆は其名の如く海中に突き出でたる半島國にして、駿河灣、遠州灘沿海の地と共に、鮪、鰹等の魚類、石花菜等の海藻の利多く、伊豆節の名は駿河灣の興津鯛と共に高し。興津は田子浦の西方なる名邑にして其西に景勝を以て名ある清見潟あり。三保、松原前面に突出して、内に特別輸出入港なる清水港を擁す。靜岡市其西南にあり。靜岡はもと駿府と稱す、德川家康の退隱せし所にして今は靜岡縣廳あり、又第三師團の分營あり。市中竹細工を産し、又近年海外輸出漆器の製造甚盛なり。市の北に賤機山あり、東南に久能山あり。前者に淺間神社あり、後者に東照宮あり、共に壯麗を極む。鐵道は之より燒津を過ぎ、德川時代に於て、蓮臺渡しの不便を極めたる大井川を越へて、遠江に入り。

下田港

興津

賤機山及久能山

(一)日本武尊草薙劍で賊を破る

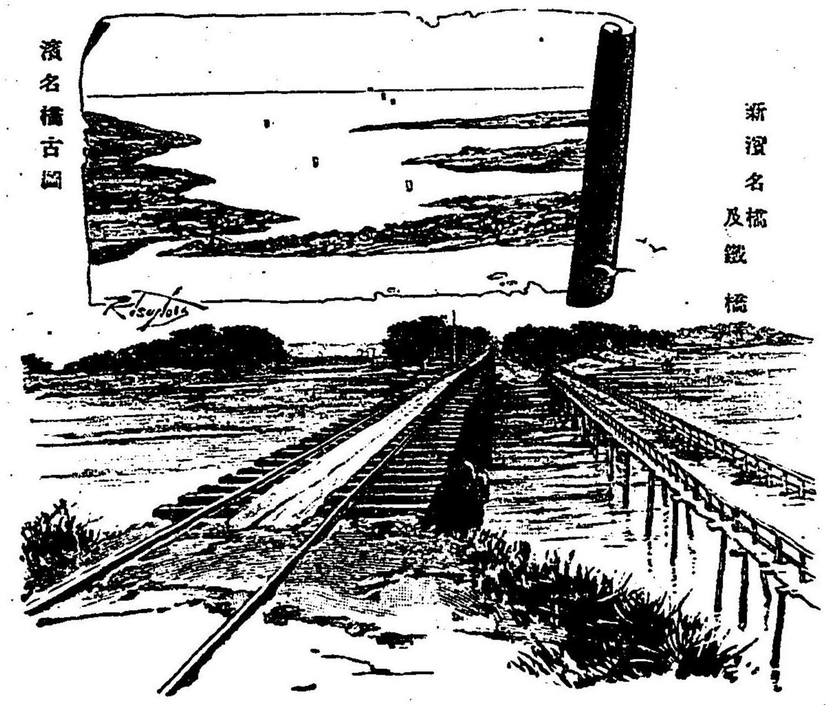
(一)年たけて又越ゆべしと思ひきやいのちなりけり小夜の中山(西行)

天龍川

濱名湖

(一)古へ湖口に濱名橋あり古圖を見よ

(二)近江に對す



小夜中山を過ぎ、遂に天龍川に達す。天龍川は信濃の諏訪湖より出で、南流して遠江灘に入る。川の中流に近く、秋葉山あり、秋葉神社は火防の神として信者多し。鐵道は川を越えて濱松を過ぎ、(二)濱名湖口今切を渡りて三河に入る。

濱名湖はもと海邊の一淡水湖にして、國名遠淡海(三ートホツアフミ)の基なりしが、今を去る凡そ三百九

十年前、海波の爲に破れて海に通ず。此所古來風浪荒く、東海道の難所なりしも、今は約四十四町の間に木橋を架し、鐵道と並びて交通に便にせり。湖畔風景極めて美なり。湖東三方原は徳川武田の古戰場として名あり。

濱松には茶を産す。此他縣下所々に茶多く、其産額凡そ全國の三分の一を占む。又遠州には疊表及石油の産あり。

茶

(一)大名に諸侯外樣の別あり

(二)家康最初の居城の地

愛知縣(三河、尾張)(第八圖參照)

足利季世天下亂れて、信長出で、秀吉出で、家康遂に之を定む。三、尾、兩國、當時豪傑出づる事雲の如し。徳川代には、御三家の一たる尾州侯、名古屋にありて尾張及美濃の一部を領し、三河は徳川家の本國として譜(一)第の諸將士之を分領せり。

東海道鐵道は遠江より來り、豐川河畔の豐橋より、渥美灣の沿岸、蒲郡(ガマゴホリ)を經、(二)岡崎にて矢矧(ヤハギ)川を渡り、苅谷を過ぎて尾張に

(一)信長最初の居城の地

豐橋町

(二)俗に豐川稻荷と稱す

豐川鐵道

(三)武田勝賴大敗す

鳳來寺山

八ッ橋古蹟

(四)唐衣着つゝなれにしつましあれば/\るる旅をしぞおもふ

知多半島

入り、大府、熱田、名古屋、一の宮、清洲等を經て、美濃に入る。濃尾の境に木曾川あり。豐橋もと吉田と稱す、第三師團の十八聯隊あり、平壤の役に勇名を轟かして、三河武士の氣慨を表せり。此より、北、豐川に沿ひ、叱枳尼天の所在なる豐川を經て、新城に通ずる豐川鐵道あり。豐川は大平川、矢矧川と共に三河の國名の基をなす。其上流に長篠の古戰場あり、長篠の北に鳳來寺山あり、阿蘇火山脈に屬する極東の火山にして、他と遠く離れてたゞ一個存在す。山に鳳來寺あり。堂塔莊麗を極めしも、先年火災に罹れり。

苅谷の東北、牛橋村には、業平が杜若の歌讀みしといふ八橋の古蹟あり。大府の北方には桶狹間の古戰場あり、信長こゝに今川義元を破り、始めて勇名を轟かす。大府より知多線は分れて知多半島に入り、武豐に達す。半島は醋、醬油、酒の産地

熱田町

名古屋市

*加藤清正の築く所

關西鐵道

にして、中にも半田の釀造の如きは最も著はる。武豐町は知多灣の要港にして、商況盛なり。半田の西、伊勢灣に瀕して常滑あり、常滑燒を産す。近年又多く陶樋を製す。

熱田は伊勢灣航行船舶の發着所なり。こゝに熱田神宮あり、本邦三種神器の一たる草薙の寶劍を奉祀す。其東南に鳴海及有松あり、鳴海絞、有松絞を産す。名古屋市は濃尾平野の南方にあり、人口二十五萬に近く、我國第四の大都會たり。他日中央鐵道開通するに至らば、市況更に繁盛ならん。こゝに縣廳あり、第三師團の司令部あり。名古屋城は離宮となりて、有名なる金の鯱其天守閣上に輝く。市に名古屋扇、七寶器等の美術品の産あり。七寶は、多く西方、寶村に産す。名古屋より西に向ひて關西鐵道あり、蟹江、彌富等を經て伊勢に通じ、更に遠く大阪に達するなり。又彌富驛より分れ、津島祭を以て有

名なる津島を經て、北に向へる尾西鐵道あり、他日一の宮に東海道鐵道と連絡せん豫定なり。

名古屋の名は波越（ナゴヤ）の義なり。鳴海の名は海潮の音を表はす。此外清洲、蟹江、津島等、尾張平野には海に縁ある地名多し。蓋し此平野は木曾川の流域にして、北の方美濃に連なり。漸次土砂の沿海に堆積して成りしものなればなり。

瀬戸

尾張平野には綿藍等を産し、木綿縞の紡織盛なり。又三河には三河木綿の有名なるありて、縣下木綿の産額は、内國第一たり。又尾張大根を産す。然れども縣下の産物中最も有名なるは、平野の東方なる瀬戸の陶器なりとす。瀬戸は貞應年間に藤四郎景正、道元禪師に從ひて、支那に渡り、宋國の法を受けて、此地に宋風の陶器を作りしに始まり、德川時代には尾州侯の保護奬勵によりて益盛大となり、遂に瀬戸物の名を

犬山

小牧長湫

以て陶器を代表するに至れり。又北隅犬山には犬山燒の産あり。犬山は平野の中央なる小牧、及名古屋の東なる長湫（ナガクボ）と關聯して、秀吉家康の古戰場たり。

岐阜縣（美濃、飛驒）（第八圖參照）

尾張平野は木曾川を隔てゝ美濃に連り、所謂濃尾大平野を成す。平地の北方は土地高峻にして、濃飛高原となる。諸水此急坂を奔下し、飛驒川、長良川、揖斐川等に集まり、木曾川と共に伊勢海に注ぐ。上流の傾斜急峻なるが故に平地往々洪水の災を免るゝ能はず。長良川は鵜飼を以て名あり。河畔岐阜市に岐阜縣廳あり。此地岐阜提燈、岐阜團扇、縮緬等を産す。

長良川

東海鐵道

東海道鐵道は名古屋より岐阜に至り、西折して大垣を經、孝子の美談ある養老*瀧を左方に見、關ヶ原より、伊吹山麓を過ぎ

*元正天皇養老元年美濃に幸す

*江戸大阪天下分目の戰

中仙道

陶器

長良川の鵜飼

て近江に入る。關原は最有名なる古戰場にして、古へ中仙道の口を扼したりし不破關の古蹟なるが故に此名あり。中仙道はこゝより岐阜に至り、木曾川に沿ひて信濃に入る。所謂木曾街道之なり。其南方、尾張の瀨戸に近き邊には、陶器を出だす。其産額甚多く、毎年百十餘萬圓に上り、愛知、岐阜二縣の産を合さば、實に全國産の半以上を占むるなり。然れども此地もと尾州侯の領地として、其陶器は瀨戸物の名の下に世に廣まりたれば、美濃燒の名高からず。縣下の産

美濃紙

立山火山脈

白山火山脈

位山

*水松

物にして、其産額に於ても、其名聲に於ても、最も著しきを紙類となす。其額一年百八九十萬圓、今や美濃紙の名は、一種の紙の名稱となれり。

飛驒は山國にして、東に立山火山脈あり。乘鞍嶽、御嶽等の高峰、美濃境に峙ち、西には白山火山脈に屬する、白山、大日山等あり。土地高峻、人民養蠶につとめ、生絲の産多し。國の中央に位山あり、笏を製する*木材を出だすが故に名あり。其北に高山町あり、風景に富む。こゝに春慶塗の産あり。之より以北の諸水は、北流して、神通川、射水川となる。此國の工匠は古へ京都へ番上して飛驒匠の名を博せり。

富山縣（越中）（第八圖參照）

飛驒の北は直ちに越中にして、其北部の諸水、神通、射水の二

富山市

川に集まりて富山灣に注ぐ。神通川の下流に富山市あり。射水川の下流に高岡市あり。富山市に富山縣廳あり、國内第一の繁華なる地なりしも、さきに大火にあひて其半を燒失す。明治三十二年八月

之を恢復するには今數年を要すべし。此市古來反魂丹其他賣藥を以て著はる。高岡市には銅器、漆器の產あり。

富山の賣藥

富山の賣藥行商は、もと富山藩主の保護を得て、廣く全國に普及す。各商人は何れも定まりたる得意先を有し、年々巡回す。其得意先は即ち其人の財產にして、之を他人に讓與し、或は質入書入を成す事、他の不動產と異なるなしといふ。

富山市より東北、海岸を經て越後に入るべし。途に魚津あり、漆器を產す。此沿海には春夏の際時に唇氣樓を生ずる事あり。魚津より東南に方りて、立山の高く聳ゆるあり、有名なる活火山にして、奇峰數十屹立す。雄山尤も高く、頂に雄山神社

立山

あり、行者の詣づるもの多し。山中の地獄谷には、硫氣及熱湯を噴出するあり。立山火山脈之より起り、信飛二州の間を走る。

北陸鐵道

富山より高岡に鐵道開通す。之れ即ち官設北陸線にして、高岡より西、倶利迦羅峠を越えて加賀に入り、越前敦賀にて、東海道鐵道敦賀支線と連絡するなり。

*義仲大に平軍を破る

中越鐵道

高岡の北に伏木あり、特別輸出入港なり。中越鐵道は高岡より起り、南方城端に通ず。

此國の地勢南方は山嶽重疊すれども、諸川の下流地方には平野ありて、富山米の產額は屈指の中を漏れず。川に鮭、鱒等の漁あり。沿海亦鰮等漁業の利少からず。

石川縣（加賀、能登）（第八圖參照）

北陸鐵道

七尾鐵道

北陸鐵道越中より來り、津幡を過ぎて金澤市に至り、更に西南、小松、大聖寺を經て、越前に入る。津幡よりは更に七尾鐵道の、北の方能登七尾港に通ずるあり。七尾は特別輸出入港にして、酒を產す。金澤市はもと前田氏百萬石の城下にして、縣廳あり、第九師團司令部あり、又第四高等學校あり。人口八萬餘、北國一の大都會なり。其公園兼六園は日本三公園の一と稱せらる。此市に象眼細工、銅器、漆器、陶器等を產す。此他縣下には美術品、工藝品多く小松、大聖寺の加賀絹、大聖寺の東方なる山中の漆器、山代の陶器、能登の北方なる輪島の漆器等、何れも名あり。小松、大聖寺亦陶器を產す。

金澤市

美術工藝品

縣下美術工藝品の產の多きは、其原因、一は、秀吉恩顧の美術工藝家の、江戸に快からざるもの、流れて前田氏に賴りたるによる。輪島の漆器は堅牢を以て名あり。此地又鹽を產す。輪島の西南、門前村に總持寺あり、曹洞宗の本

山なり。

白山

縣下の東南隅に白山あり。白山火山脈之より起り、大日山を經て、西に去る。大聖寺川大日山より出で、山中、山代を過ぎて海に入る。此兩所共に著名なる溫泉場なり。

縣下鰮、鮪、海參等の海產物多く、又疊表、麻織物、漆汁等あり。中にも漆汁は其額多く、漆器の產ある一は之に起因す。

第五節　近畿地方（福井、滋賀、京都、三重、奈良、和歌山、大阪、兵庫）（第九圖參照）

畿內

王畿內の義

神武天皇大和國橿原宮に天下を治しめしてより以來、歷朝の帝都多くは其近國にあり。故に此附近五國を畿內と稱す。今此畿內五國と、四近の十二國とを併せて、近畿地方となす。福井、滋賀、京都、三重、奈良、和歌山、大阪、兵庫の二府六縣之を分

畿内の開化

上方

管す。

畿内は久しく政治の中心たりしかば、至る所歴史上の遺蹟に富み、神社佛閣の著名なるもの、及名所舊蹟甚多し。從ひて、土地大に開け、人口稠密なり。されば畿内五國の面積は、僅に四百四十五方里にして、且つ其四方、山岳重疊の地たるにも拘らず、尚約二百六十五萬の住民あり。一方里平均六千人に近し。京都平野に京都市あり。大阪平野に大阪市あり。鐵道此等の地を中心として四方に通じ、交通便を極む。此地方はもと帝都の地なれば、之を上方といふ。風俗自然に貴紳優美の風に化し、稍柔弱に陥るの弊なきに非ず。然れども又勤儉能く業に堪ゆ。

北陸鐵道

福井縣（越前及若狭）（第九圖參照）

北陸鐵道加賀より來り、福井、鯖江を過ぎて、敦賀に至り、東海道鐵道の敦賀支線と相會す。福井市はもと松平（結城）氏の城下にして、古へ北庄[一]と稱す。市の北方に藤島[二]神社あり。此地方

（一）柴田勝家據守
（二）新田義貞が紀る

敦賀

（一）足羽山黒丸城等
（二）貞應年間僧道元開基
（三）神功皇后等が紀る

には延元の際新田氏戰爭の遺蹟[一]多し。九頭龍川其北方を過ぎ、坂井港に至りて海に入る。港頭、三國町あり、川によりて運輸の便あり。市東四里、志比谷村に永平寺[二]あり。曹洞宗の本山なり。鯖江及敦賀には各第九師團の分營あり。敦賀は敦賀灣頭にあり、特別輸出入港なり。其東に氣比[三]神宮あり、又北方なる金崎には金崎宮あり。此地亦延元の際、新

田義貞の據りし所にして、宮はこゝに薨じたる尊良親王及御弟恒良親王の靈を祀る。

敦賀は古へ笥飯浦と稱す。北海の要津にして、こゝに仲哀天皇の行宮笥飯宮の蹟あり。神功皇后遠征の時も、此所より船出し給へり。敦賀の南方、近江境に有乳山あり。昔北陸に通ずる要路に當りたれば、山に愛發關を置き、美濃の不破、伊勢の鈴鹿と共に三關と稱したりしが、道路變じて關廢す。

敦賀灣より西方、若狹の海岸は屈曲甚多く、漁業の利に富む。中にも鯖、小鯛、鰈など著し。其小濱灣頭なる小濱には、漆器若狹塗の産あり。越前には越前雲丹の名産あり。又茶、楮、桑、麻等を植ゑて製茶、養蠶に從事するもの多く、生糸、羽二重、奉書紬等を産し、縣下、絹織物の額は實に京都につぐ。麻織も亦少からず。紙には奉書、鳥の子、杉原等、上等のもの多し。

若狹の西境に青葉山あり。白山火山脈に屬する休火山なり。

笥飯浦
愛發關
小濱
青葉山

琵琶湖

滋賀縣（近江）（第九圖參照）

近江は四方山を以て圍まれ、中央に琵琶の大湖あり、近江の國名之より起る。之をアフミと訓むは稱呼を省略したるなり。此湖一に鳰の海といふ。湖畔景勝に富み、古人已に近江八景の撰あり。水は瀨田川となりて山城に入る。湖水、鯉、鮒等淡水産の魚類多し。中にも源五郎鮒は其名高く、鮒鮓の名産あり。此國は畿内より東國に出づる要路に當り、東海道、木曾街道、北國街道、皆此國を經由す。東海道鐵道の敦賀支線は北國街道と並びて、越前より來り、賤岳古戰場の東を過ぎて、湖上に竹生島を望み、濱縮緬を以て名ある長濱を經て、湖東米原に本線と會す。東海道鐵道は、美濃よりこゝに來り會し、更に彦根、八幡、野洲、草津を經て、湖口を渡り、逢坂山を過ぎて、遂に

琵琶湖
國道及鐵道

（一）秀吉の兵柴田の兵と戰ふ、七本槍の高名
（二）これや行くも別れも知らぬ逢坂の關（蟬丸）
（三）この歸るも別れも知らぬ逢坂の關（蟬丸）

(一)日本武尊賊を平ぐ

山城に入る。此鐵道の美濃より來る所、北に伊吹山あり、伊吹(一)艾を産す。草津よりは關西鐵道支線の伊賀に入り、柘植に本線に會するあり。本線は名古屋より大阪に通ずるものなり。

彦根町

彦根はもと井伊氏の城下にして、公園樂々園の有名なるあり、近江鐵道こゝより分れて、八日市に達す。他日關西鐵道草津支線と連絡せんの計畫なり。八幡には八幡蚊帳の名産あり。野洲は野洲川に沿ひ野洲晒布を出だす。

八幡は日野と共に著名なる商業地にして、古來日本全國に足跡周ねき近江商人は、多く此地方より出づるなり。

大津市

湖口に瀨田橋あり、古來東西の決戰場たり。其西北に大津市あり。縣廳の所在にして、第四師團の分營亦此所にあり。此地は湖上航行の要港として、古來其名高し。天智天皇の大津皇

(二)僧國珍開基

居の遺趾は市の北にあり。市西に園城(二)寺あり、三井寺と稱す。

*鴨川の水、双六の賽、山法師、

其北方なる比叡山上の延曆寺と共に、天台宗の二大本山として、古へは多く僧兵を蓄へ、軋轢頗る激しかりき。中にも叡山の僧兵最も強く、白河法皇が三*不如意の一となれり。

湖西の地往々虎斑石等の石材を産す。湖東の平野は農業盛にして江州米及菜種、麻等を出だす。又花筵、疊表の産あり。南方信樂(シガラキ)谷には茶及陶器信樂燒あり。

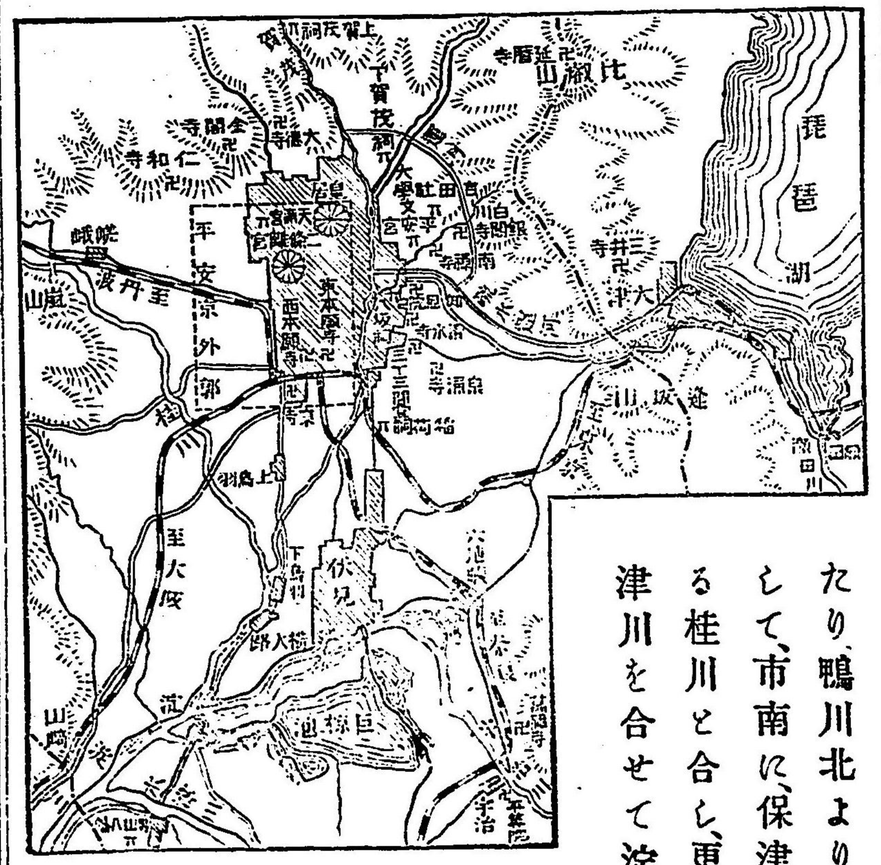
京都市

京都府(山城、丹波の大部及丹後)(第九圖參照)

東海道鐵道逢坂より來り、京都を經て攝津に入る。京都市はもとの平安京にして、桓武天皇遷都以來、千餘年間の帝都の地なれば、由緒ある神社、佛閣、及名所、舊蹟殊に多く、今尚美術、工藝の中心たるを失はず。市中京都帝國大學、第三高等學校、帝國京都博物館等あり。人口三十三萬餘、本邦第三の大都會

平安京

京都市附近略圖



たり、鴨川北より市内を貫流して、市南に、保津川の下流なる桂川と合し、更に宇治川、木津川を合せて淀川となる。

もとの平安京は、鴨川と桂川との間にありしが、次第に東遷して今の如くなれり、然れども尚、古昔の面影を存し、街衢の正しき、京都の如きは、殆

ど他の市街に於て見るを得ざるなり。禁裏御所は市の北部にあり、二條城（離宮）は市の西部にあり、此二條城の西北即ち古の大内裏（ダイダイ）の古蹟なり。神社には加茂上下（カシモ）の社、北野神社、豐國神社、八坂神社、吉田神社、稲荷神社等あり。佛寺には東西本願寺、南禪寺、知恩院、清水寺、東寺、仁和寺、大徳寺、三十三間堂等あり。泉涌寺には歴朝の御陵あり。平安神宮（一）は其拜殿を古の大極殿に摸して作り、碧瓦丹楹（カハラアカヤカルキ）、古代の皇居の樣を想像すべく、加茂神社の祭禮は葵祭（アヒヒマツリ）と稱して古式を存す。又金閣（二）、銀閣（三）の、足利將軍榮華の蹟を示せるあり。阿彌陀峰頭には豐臣秀吉の石塔あり、近年豐國三百年祭執

（一）明治二十八年平安遷都千百年紀念祭之節創立

（一）義滿造營

（二）義政造營

加茂葵祭の圖

行の際の改築にかゝる。

京都市の産物には美術工藝品甚多し。中にも清水、粟田の陶器、西陣の織物、友禪染、繡物、七寶器、銅器、京塗等の有名なるあり。此他京紅、白粉、みすや針、また名あり。

西陣は、市の北西部にあり。應仁の亂に當り、西軍の陣せし所にして、後和泉の堺より、支那風の法を傳へて、遂に今日の盛大を致し、ものなり。

白川

京都市の東北、白川には花崗石を出だす。白川石といふ。白川は河底此石の風化したる白砂あるによりて、得たる名にして、清水、粟田の陶土も、亦、之より來るものなり。

鐵道

東海道鐵道の京都停車場は市の南方にあり。奈良鐵道とゝより起り、伏見、宇治を經て奈良に通ず。途、木津にて關西鐵道と連絡す。又別に、京都鐵道の、嵯峨、龜岡を經て園部に至るあり。他日福知山を過ぎて、舞鶴軍港に至らんとす。斯く鐵道四

琵琶湖疏水

通の便あるが上に、近年又、近江琵琶湖の水を疏して、市の東部に導き、一は運輸の便に供し、一は水力を各種の工業に利用するあり。京都市の繁榮將來益多望といふべし。

嵐山

京都鐵道の通ずる所景勝に富む。嵯峨の西に嵐山あり、櫻花紅葉の勝あり。保津川の急流は舟行痛快に、其支流清瀧川の畔には、高雄、栂尾等の紅葉の名所あり。高雄の西に愛宕山あり、高く丹波境に峙ち、近江境なる比叡山と、東西相對す。

嵐山の南、丹波に通ずる國道に老坂あり。之れ大江坂の義にして、古書に大江山と稱するもの之なり。今は丹波丹後の境なる大江山を以て之と混同するもの多し。

福知山

福知山は丹波西北の名邑にして、大阪より舞鶴に至らんとする阪鶴鐵道は、今や此地まで開通す。こゝに姫路第十師團の分營あり。福知川此邊を過ぎて、北流丹後に入り、由良港に

天橋立

伏見町

宇治町

注ぐ。其東に舞鶴灣あり、西に宮津灣あり、兩灣内各良港あり。前者は軍港にして今尚經營中に係かり、後者は特別輸出入港なり。宮津灣内天橋立あり。日本三景の一と稱し。青松白砂相映ずるの所、絶景言ふべからず。海岸には鰤、鰮、海鼠等、水産の利あり。昔嘶に傳へたる、水江の浦島子が、出でゝ釣しけんも此近海ならんか。西北峯山には丹後縮緬の産あり。之に反して、丹波は山國にして、丹波栗、木材等、山國的の産あり。又京都と共に冬時寒天の製造多し。

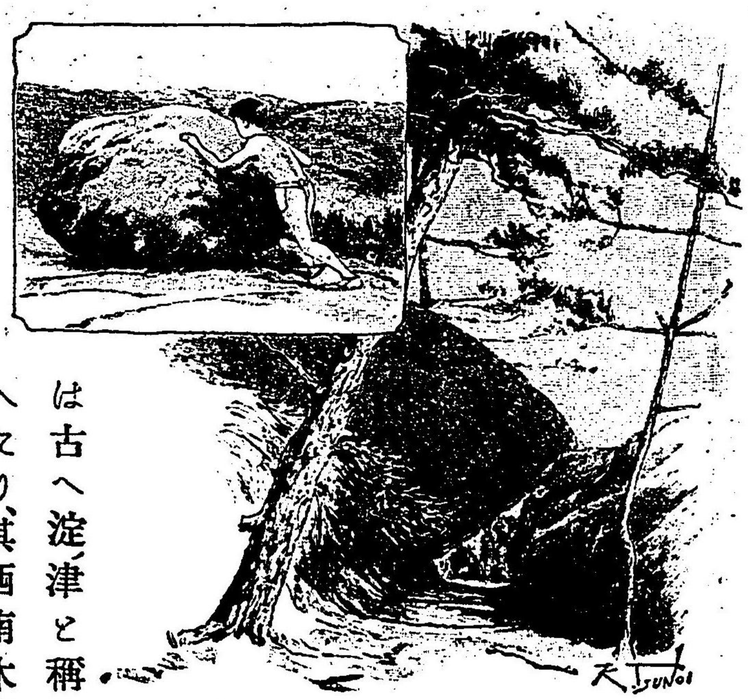
奈良鐵道の通ずる所、歴史的遺蹟に富む。伏見は直ちに京都の南に續き、京都との間に電車鐵道あり。こゝに大阪第四師團の分營あり、大阪より淀川によりて毎日汽船往復す。伏見の東に桃山あり、秀吉舊城のありし所なり。名物伏見人形は古來其名著るし。伏見より巨椋池の東を過ぐれば宇治あり。

（一）源頼政ここに自殺す

（二）日蓮元尊師開基

淀町

近江の瀬田と關聯して古來東西の決戰場たり。此附近宇治は古へ淀、津と稱し、要津なりしも、今は衰へたり、其西南木津川を夾みて石清水八



笠置山中の巨岩

銘茶を産す。宇治に平等院あり、其鳳凰堂は、先年米國市俄高博覽會に其模形を出品して日本建築美術の標本を示せり。河東に黄檗禪宗の本山萬福寺あり。宇治と巨椋池を夾みて淀町あり。淀

(一)天王山あり明智光秀敗北す
(二)瓶原分きて流るゝ泉川つゝみきさていかるがしからん(兼輔)

幡宮の鎮座せる男山あり。淀川を隔てゝ、(一)山崎と相對す。

笠置山

木津川の上流を古へ泉川(二)といふ。聖武天皇の恭仁京趾たる瓶原を過ぐ。此流に沿ひて關西鐵道は、西は大阪より、東は名古屋に通ず。此鐵道によりて木津より東すれば、瓶原の對岸加茂を經て、右傍に絶壁の峙つを見る。高さ數十丈、之れ即後醍醐天皇の一時行在所たりし笠置山なり。山中巨岩の奇多く、搖石の如き最も妙を極む。此絶壁と此巨岩とは、水の浸蝕作用によりて過去幾千萬年の間に成れるもの、水力の大、驚くに堪へたり。加茂よりは大和の奈良市に通ずる鐵道支線あり。

關西鐵道

三重縣(伊賀伊勢、志摩及紀伊の東北部)(第九圖參照)

山城より、笠置山麓を過ぎて來れる、關西鐵道は、上野、柘植、關、

上野町

(一)荒木又右衛門の援を得て川合又五郎を討つ
(二)古へ關東關西の稱之より起る鎌倉時代に關東二十八國關西三十八國の語あり
(三)日本武尊崩御の地

亀山、四日市、桑名等を經て、尾張名古屋に通ず。其柘植より、草津線の近江に入るあり、亀山よりは、津線分れて津市に至り、參宮鐵道と連絡す。上野はもと津の藩主藤堂氏支城の地、其近傍に寛永年間(一)渡邊數馬仇討の地あり、鍵家の辻と云ふ。關は鈴鹿(二)關より得たる名にして、東海道は、之より西北、鈴鹿峠を越えて近江に入る。箱根につぎて古來東海道の難所とせし所なり。亀山の北方を能褒(三)野といふ。能褒野神社あり。四日市は特別輸出入港にして、伊勢灣の要港なり。桑名に時雨蛤及萬古燒の名産あり。桑名の東に長島あり、信長が一向宗一揆を滅ぼしゝ所なり。津市はもと藤堂氏城下の地、一に安濃津といふ。織業盛にして、綟子の名産あり。こゝに縣廳あり。其北方一身田には眞宗高田派本山專修寺あり。

津市

(四)本居宣長の故郷

參宮鐵道

參宮鐵道は津市より起り、松坂縞の産地たる松坂(四)を過ぎ、宮

大神宮

伊勢の海岸

*天照大神の託宣に曰く、神風の伊勢の國は常世の浪の重浪歸する國なり潟國の可怜國なりと云云

大神宮と二見浦

川を渡りて、宇治山田町に達す。こゝに内外の兩大神宮ありて天照大神及豐受大神を奉祀す。其神殿は兩宮共に、底津岩根に宮柱太知り、高天原に千木高知れる、我國固有の建築にして、境内廣濶、老杉欝蒼、境に入るものをして、知らず〳〵崇敬の念を起さしむるものあり。

伊勢海の沿岸は一帶の平地にして、*「潟國の可怜國」の

名に背かず。多く米及菜種の産あり。從ひて種油の製造多し。海濱は勝景の地多く、北に阿漕浦、南に二見浦最も名あり。二見より南すれば、即ち志摩國にして、鳥羽の良港あり。灣頭日和山は、遠く太平洋を望み、前に答志以下の無數の島嶼を見下して、松島にも劣らざる眺あり。之より南西、すべて漁業盛にして、鹿角菜、海參、鰒、貽貝、眞珠等の利多く、伊勢蝦亦名あり。志摩の西南、紀伊の地は、奥熊野と稱す。神武天皇東征の際の遺蹟あり。其荒鹿村は、天皇が、丹敷戸畔を誅したる荒坂の津なりといふ。

奥熊野

青山四周の地

大和平野

奈良縣（大和）（第九圖參照）

昔、神武天皇高千穗宮に議して曰く、「東に美地あり、青山四周す、蓋し六合の中心か」と、即ち此所に都す。之れ即大和平野の

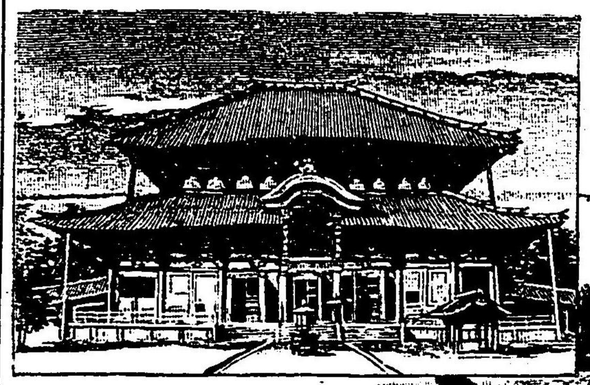
奈良市

(一)藤原氏の氏神

(二)藤原氏の氏寺にして中古僧共盛なりき

(三)正倉院には多く奈良朝時代の遺物を藏すの帝室の御物たり

春日野の若草摘みにや白妙の袖振りはへて人の行くらん（貫之）



大佛殿

春日野

地なり。平野の諸水大和川に集りて、西流し河内に入る。平野の東北隅に奈良市あり、縣廳の所在なり、こゝに帝國奈良博物館あり、多く歴史的參考品を陳列す。市東に春日神社(二)、東大寺(三)、興福寺等あり。春日野、猿澤池、若草山等の風景優美なり。殊に春日社頭神鹿の優遊するもの、最も愛すべし。東大寺には正倉院(三)、大佛殿あり。大佛は高さ五丈三尺餘、聖武天皇の建立にかゝる。此地奈良晒布、奈良漬、

奈良團扇、木彫の奈良人形等を産し、鹿角細工、霰酒、根來塗等亦有名なり。

平城京

古の平城(ナラ)京の趾は、市の西方郊外にあり。奈良朝七代間の帝都として、街衢の趾尚田畦の間に見るべきあり。其附近には垂仁、成務、神功等の山陵あり。此外未だ其主を知らざる塚墓の、殊に偉大なるものも多く、古代皇室及貴族隆盛の狀を想像すべし。

鐵道

奈良の東には三笠山、春日山等の山岳連亘して、伊賀に連る。其國境に月瀬の勝地あり。名張川の兩岸、梅林數里に亘り、花時最も盛觀なり。こゝに梅木細工、梅漬等を産す。關西鐵道上野驛より、三里にして至るべし。

奈良市に通ずる鐵道三關西鐵道支線、奈良鐵道、大阪鐵道支線之なり。關西鐵道は加茂より來る。奈良鐵道は、京都より來り、更に南方三輪を經て櫻井に至る。又大阪鐵道は、郡山、法隆寺を經、王子にて本線に會す。本線は大阪より、王子、高田、畝傍

*青海原ふりさけみれば春日なる三笠の山に出でし月かも（仲麿）

月ノ瀬

法隆寺

吉野地方

奈良附近鐵道

つあり。畝傍山麓橿原神宮及神武天皇陵あり。櫻井の東北、初瀬町に、長谷觀音あり。櫻井の南方には多武峯あり、藤原鎌足の靈を祀れる談山神社は、壯麗關西に於て有數のものなり。多武峯より以南は吉野川の流域にして、地勢自ら北部と異なり。川より南は即ち吉野の山地にして、金峯山、大天井山、上嶽、大日嶽等、修驗者の山入りと稱して、巡回する一帯の連山ありて、地勢を更に左右に兩分す。其左方の水は十津川に

*春過ぎて夏來たるらし白妙の衣ほしたり天の香久山（持統天皇）

*ぬばたまの黒髪山は今日もかも（天皇居）

*吉野の宮は山高み雲居にぞ（三山）

を經て、奈良鐵道と櫻井に會するなり。高田より更に南和鐵道の南方五條に通ずるあり。法隆寺の金堂は本邦古建築の粹を盡くせるもの。畝傍は神武天皇皇居の地にして、附近に畝傍山、香久山、耳梨山の三山並び立

集まり、右方の水は北山川に集まり、共に紀伊に入りて、合して熊野川となる。金峯山は、所謂吉野山にして、櫻樹を以て名あり。其吉水院は南朝行在所の地、如意輪堂は楠正行が無き數に入る名を留めし所として、共に當時を追懷せしむ。吉野川其北麓をすぎ、紀伊に入りて、紀川となる。吉野川の畔、五條より起りて、紀伊の和歌山に向ふ。金剛山其西北にあり。丹生川南より來る。河畔賀名生あり、一時南朝の行在所たり。其より南は即ち十津川の上流にして、十津川郷といふ。吉野より、すべて此邊一帯の地は、當時南朝の根據たりき。吉野山地の産物には、吉野葛、吉野漆、吉野紙等あり。

吉野山

（一）返らじとかねて思へば梓弓無き數に入る名をぞ留むる（正行）

吉野川

（二）天誅組の事を擧げし所

十津川郷

和歌山縣（紀伊の大部）（第九圖參照）

和歌山市

吉野川の下流は、紀伊に入りて紀川となる。河口に和歌山市あり、縣廳の所在なり。此市もと御三家の一たる紀伊大納言家の城下にして、今は綿フランネルの本場たり。紀和鐵道此市より起りて大和に通ぜんとす。市南に和歌浦あり、景勝の地たり。紀川に沿ひて上れば左に根來山大傳法院あり。もと多く僧兵ありしが、秀吉の爲めに破却せられて遂に振はず。當時山内に根來塗を作りしが、此時職人四方に散じ、其一部の和歌浦の南方なる黑江に集りたるもの、今尙斯業に從事し、こゝに黑江椀を製す。其産出高現今本邦第一たり。尙川を上れば粉河寺の所在、粉河の附近に出づべし。又大和境に近く高野山あり。山上金剛峯寺は、弘法大師の開基として、古來最も著名なり。此地方の大山林、高野槇其他良好の木材を出だす。山中亦氷豆腐を製す、高野豆腐の名あり。

和歌浦
根來山

黑江

高野山

有田川

紀川と並行して、稍南に有田川あり、此附近多く蜜柑を産し、船舶を以て他國に積み出だす、「紀國蜜柑船」之なり。此より以南、岬灣の出入多し。南端に潮岬あり、潮流頗る急にして、航海者の難所たり。潮岬以東を熊野灘と云ふ、鯨漁を以て名あり。

潮岬

熊野

熊野川あり、大和より來りて、こゝに注ぎ、三重縣下との境界を成す。河口に新宮あり、中流に本宮あり。此兩所には、那智山と共に、各熊野の社ありて、世に熊野の三社と稱す。那智に著名なる那智瀧あり、熊野地方甚山林に富み、良材を出だす。又木炭に熊野備長あり。

南海鐵道

和歌山より西北、加田岬あり、淡路と由良海峽をなし、中に友島あり。砲臺ありて大阪灣の口を守る。南海鐵道は和歌山より此東方を過ぎ、和泉に入り、東北行して大阪に通ず。

浪速

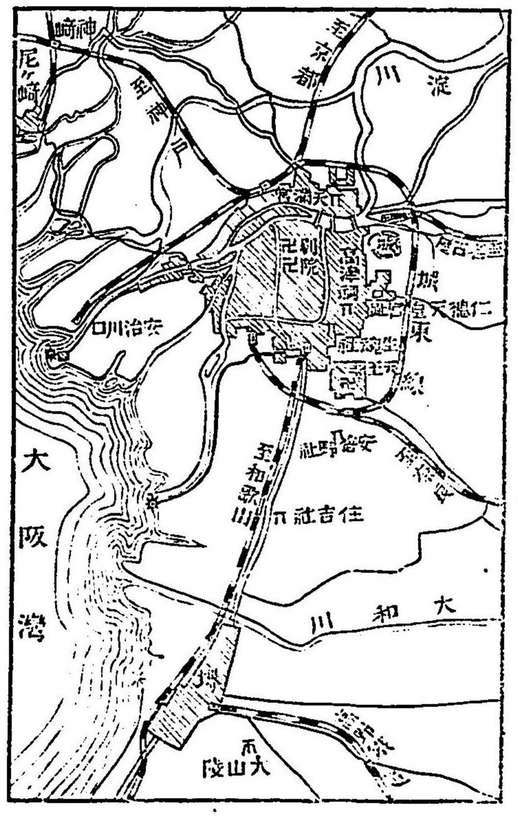
大阪の地理の變遷

*大阪市東部の丘陵

大阪府（河内、和泉及攝津の東部）（第九圖參照）

史に曰く、「神武天皇東征の御時、御船のつきし所、浪いと速かりければ其地を浪速（なにはや）の國といふ、後訛りて難波（なにわ）といふ」と、是れ即ち今の大阪市の地なり。

此地古へは海水深く内地に入り、難波（なにわ）埼（さき）南方より斗出して、其前面を擁す。而して淀川は山城より、大和川は大和より、共に此東方に落ち合ひしかば、水勢速くし



大阪市附近略圖

大阪市

*高き屋に登りて見れば煙立つ民のかまどは賑ひにけり（時平）

て、浪速の名も起りしなり。然るに仁德天皇大に水利を修め、近くは寶永年間に、大和川の流路を變更せしかば、地勢大に昔時と異なるに至れり。殊に土砂河口に堆積して、盛に近海を埋め、遂に現形の如き地をなす。

大阪市に府廳あり。此市は豐臣秀吉の築城以來、長足の進歩をなし、今や人口七十五萬餘、關西商業の中心たり。又紡績、製造等の工業盛にして、林立せる烟突の、盛に煤烟を擧ぐるもの、以て民の竈の賑へる樣を示せり。城内第四師團司令部あり。此地古代より外國交通の要津にして、今尚五港と共に開港場たり。されば仁德天皇は嘗て此地に都し給ひ、今高津神社の天皇の靈を奉祀するあり。此外神社には天滿天神、生國魂、佛閣には四天王寺、兩本願寺の別院等、著るし。市中溝渠縱横に通じ、橋梁殊に多し。中にも淀川にかゝれる天滿、天神、難

大阪市附近二鐵道

波の三大橋の如き、最も著はる。淀川は山城より來り、高槻、吹田等を經て、市の北部を過ぎ、海に入る。東海道鐵道は此流に沿ひて來り、市北梅田を過ぎて西の方神戸に達す。又西成鐵道は梅田より出でゝ安治川口に至り、大阪鐵道の城東線は、市の東方を繞りて、市南湊町に達す。此所より大阪鐵道は河内を經て、大和に入るなり。市東網島より起れる關西鐵道は、楠木正行の古蹟四條畷*を過ぎて、山城に入り、遠く名古屋に通ず。又南に向ひては、南海鐵道の難波より起りて、堺市を過ぎ、和泉の海岸を經て、紀伊の和歌山に通ずるあり。南海鐵道の經る所景勝に富み、住吉、濱寺の如き最も著はる。住吉には住吉神社あり。濱寺はもと高師濱と稱せし所にして、公園あり。岸和田、貝塚、尾崎、亦海岸の名區なり。

*別格官幣四條畷神社あり

住吉

堺市

堺市は、足利時代に於ける、明國との交通の要津にして、當時

商工業大に開け、頗る盛大なりしが、港口の埋もれたると、大阪の繁昌に趣きたるとによりて、次第に衰へ、亦昔日の盛況なし。市の産物としては段通、庖刀等最も有名なり。市東、高野鐵道の紀伊國高野山麓に向ふあり、今や長野に達す。長野の東、大和境上に金剛山あり。千早、赤坂の二城趾其西にあり。

高野鐵道

大山陵
諸帝陵

堺の東に仁德天皇の大山陵あり、帝國第一の大陵なり。其の附近に履仲、反正二帝の陵あり。此より東一帶の地方、古塚墓殊に多く、河内國古市地方の如きは、應神天皇の譽田陵を始めとして、偉大なる帝陵群集し、大和川の支流なる惠我川の上流地方も、亦敏達、用明等の諸帝陵あり。凡そ帝陵其他古代の塚墓の、最も大なるが多きは、大和の高市、磯城の地方、平城舊都附近にして、次は此堺市の東方と、河内の古市附近、惠我川附近なり。之によりて古代權力中心の位置を見るべし。

河南鐵道

大阪鐵道大和川と相並びて、大和に通ず。其柏原驛にて、更に河南鐵道の分るゝあり。今や南方道明寺を過ぎ、富田林に通

ず、道明寺に天滿宮あり、又道明寺糒の産あり。

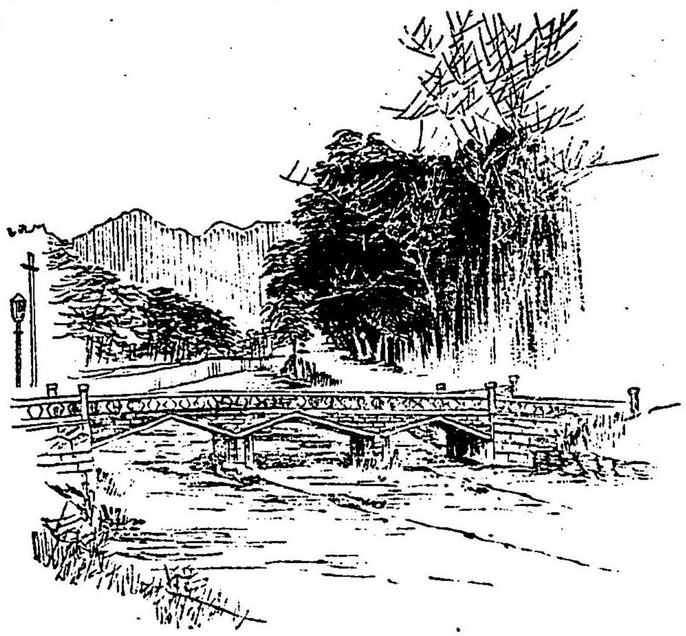
大阪より以東、淀川、大和川の經る所は、一帶の大阪平野にして、綿、菜種の栽培盛なり。其菜花滿開の頃には、見渡す限り、黄金を布きたらんが如く、最も壯觀なり。從ひて、種油の製造多し。殊に綿は産額海内第一にして、有名なる河内木綿は是より織り出ださるゝなり。此他府下の産物としては、マッチ、寒天、清酒、麥酒、など數ふべし。麥酒は多く吹田に釀造し、清酒は池田に産す。近年又池田に由多加織の産あり。

兵庫縣（攝津の西部、丹波の西南部、淡路、播磨、但馬）

（第九圖參照）

大阪より西する東海道鐵道は、神崎、西の宮を過ぎて、神戸市に達す。こゝに兵庫縣廳あり。此市はもと神戸、兵庫の二港を合併したるものにして、其兵庫は由來最も古きも、神戸は維

湊川



湊川

新前迄は、僅かに大阪灣頭の一漁村たるに過ぎざりしが、慶應年間、開港以來、頓に繁盛を致し、今や人口二十萬に近く、外國貿易の活潑なる、横濱と比すべし。楠木正成の忠死を以て著名なる湊川、市中を貫流す。此川は流れ短かけれども、土砂を送る事多く、河床次第に高まりて、今や河底は近傍の人家の棟よりも大に高し。我國には此類の川多く、爲

須磨

阪鶴鐵道

有馬温泉

姫路市

に出水の際、甚しき水害を被る事あるなり。河東に湊川神社あり。神戸の西に須磨あり、此ほとり、福原舊都の蹟及一の谷、鵯越等、源平當時の古蹟甚多く、西方播磨の舞子、明石等と共に、海濱の風景古來最も著はる。

神崎驛には、大阪より、丹後の舞鶴に至らんとする、阪鶴鐵道の東海道鐵道と分るゝあり。途中、西の宮と共に酒造地として有名なる伊丹、池田を過ぎ、生瀬、三田、篠山を經て、福知山迄開通す。生瀬は即ち有馬口にして、之より西有名なる有馬温泉に至るべし。三田は攝津西部の名邑、篠山は丹波西南部の名邑なり。阪鶴鐵道の支線は神崎より尼崎に通ず。

神戸より以西、山陽鐵道は明石、姫路を過ぎて、船坂峠を越え、遠く周防に達す。姫路市に第十師團司令部あり。姫路はもと酒井氏の城下にして、同藩が嘗て大に保護奬勵したりし姫

播但鐵道

生野銀山

玄武洞

路木綿は、今尚其名を墜さず。又姫路革あり。明石縮、明石玉、神戸牛肉等と共に、何れも其地名を冠するにても特有の産なるを知るべし。播但鐵道飾磨より起り、此姫路市にて山陽鐵道と交り、北方、但馬の生野に通ず。生野に有名なる銀山あり、朝來川てゝより發し、北流して日本海に入る。下流を豐岡川、一に城崎川といふ。其支流出石川の河畔に出石

あり、新羅王子、天日槍の古蹟にして、陶器出石燒を産す。其下流に城崎溫泉あり。近傍なる立武洞は岩石の奇觀を以て名あり。

食鹽

姫路の西方に龍野あり。龍野の西南に赤穗あり、龍野は醬油、赤穗は鹽を以て著はる。たゞに赤穗のみならず、瀨戸内海に瀕する諸國何れも鹽を産せざるなし。蓋し此地方は、南北に山脈連亘して、水分の來るを遮り、全國中雨量最も少く、從ひて、晴天多く、空氣乾燥なる地なるが故に、水分の蒸發速なる事、其主原因たり。

鯛

又鯛は、鹽と共に瀨戸内海の名産にして、沿海諸國何れも其漁多く、他の地方亦之を産せざるに非ざるも、其額遠く瀨戸内海に及ばざるなり。

播州名所

播磨沿海の地は平野廣く相連り、其東南部には高砂、尾上、別府、曾根等、松の名所少からず。又加古川附近には石寶殿あり。

淡路島

*ほのぐ、この明石の浦の朝霧に島がくれ行く船をしぞ思ふ（人丸）

近畿の人士往々「播磨回り」と稱して之を巡覽す。此等の平野亦米に適し、縣下は米の産額實に全國屈指の中を漏れず。明石より明石海峽を夾んで淡路島横はる。島は細長き三角形をなし、東南の角は、紀伊と由良海峽を成して、大阪灣の口を扼し、西南の角は、阿波と鳴門海峽を成して、瀨戸内海の口を扼し、其北角明石海峽は、即ち此兩海を連絡するなり。由良には砲臺あり。其北に洲本港あり、鳴門海峽に近き福良と共に、此國の名邑なりとす。福良には陶器珉平燒を産し、清國に向ひて輸出多し。淡路の南方に沼島あり。人或は古の磯馭盧島なりと稱す。

中國

第六節　中國（鳥取、島根、山口、廣島、岡山）（第十圖參照）

こゝに中國とは、山陰道の因幡以下の五國、山陽道の美作以

地勢

下の七國を云ふ。鳥取、島根、山口、廣島、岡山の五縣之を分管す。其地勢中央に中國山脈あり、南は瀬戸内海を夾みて四國と對し、其間島嶼甚多し。此地方の住民水上の動作に馴れ、中世海賊の、此等の島嶼に據りて、支那朝鮮等の沿海を犯したるもの多く、彼の國人は倭寇と稱して、甚之を恐れたり。

*亦一種の海軍

山陰山陽兩道の比較

山陰山陽の名は、中國山脈の南北の意なり。山陰は日本海を受けて、雨多く、山陽は瀬戸内海に面して、雨少なし。雨少きが爲に、山陽の諸國何れも食鹽の製造盛なり。殊に瀬戸内海は、畿内附近より、四國、中國、九州等への航行の通路に當り、又其海岸に沿ひては、山陽鐵道の通ずるありて、交通至便なるが故に、山陽には繁盛なる都邑多く、人口亦密なり。之に反して、山陰は沿海の航行不便にして、又鐵道も未だ成らざるが故に、交通不便にして、繁盛なる都邑も少なく、人口亦疎なり。即ち山陽に屬する三縣は、一方里平均二千六百十人に餘れるも、山陰に屬する二縣は、一方里僅に一千七百十人にだも足らざるなり。斯の如き關係は、東海道と北陸道との間にも亦存す。今後

陰陽連絡鐵道

山陰鐵道成就し、陰陽の連絡全きに至らば、北部地方も大に便益を得ん。

鳥取縣（因幡、伯耆）（第十圖參照）

播磨の姫路より、西北に向ひて陰陽を連絡する、官設鐵道布設の計畫あり。因幡に入りては、千代川に沿ひ、北行して鳥取市に至り、更に西方の海岸を過ぎ、天神川を渡り、船上山を左方に見て、米子に至り、夜見濱の長砂洲を過ぎて、其端なる境港に至らんとするなり。鳥取市はもと池田氏の城市、こゝに縣廳あり。船上山は名和長年が義舉の地にして、其北方名和神社には、長年の靈を祀れる名和神社あり。西南に大山あり。中國著名の休火山にして、山麓に大山寺あり。其北方なる大山原は即ち大山の裾野にして、牛馬の市場あり。凡そ中國地方多く牛を牧す。神戸、廣島等の牛肉の著名なるも、此供給あれば

鳥取市

船上山

大山

米子町

なり。米子は夜見濱の頸部に位する名邑にして、商業盛なり。他日備前の岡山より、美作の津山に通ずる中國鐵道は、來りて此地に通ずべし。夜見濱は風景佳にして、其端に特別輸出入港なる境港あり。縣下沿海の地、白珊瑚、海松の産あり。

夜見濱

鳥取市の東南に國府の趾あり。在原行平嘗て國守となりて此國に下るに當り、「立わかれ因幡の山の」と詠みし因幡山は、其東にあり。

*立わかれ因幡の山の峰に生ふるまつとしきかばいまかへりこん

鐵道

島根縣（出雲、隱岐）（第十圖參照）

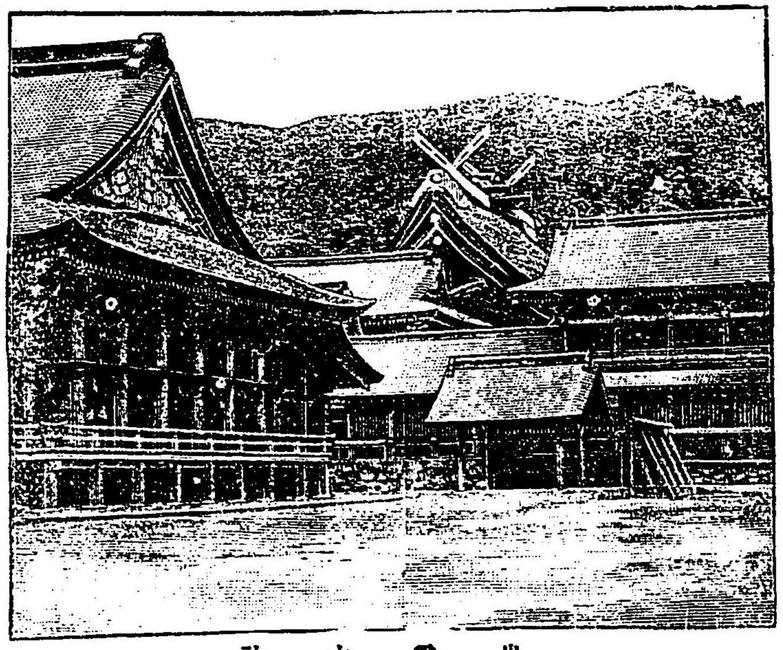
伯耆の米子より西方、中海、宍道湖の南岸を經て、杵築に至る迄、亦鐵道布設の豫定あり。其赤江よりは、更に西南安藝の廣島に向ひて通ずべし。此線路は阪鶴、播但、中國、陰陽の四線と共に中國山脈の南方を連絡せんとするものにして、よく完成するに至らば山陰地方は大に面目を改むべし。

中海

中海は島根半島と伯耆の夜見濱とを以て限らる。半島の東端を美保關といふ。伯耆の境港と相對す。此地むかし事代主命が出でゝ釣せりと傳ふる所、中海よりして此邊一帶の海、鯖等の漁多し。

出雲大社

神代に於ける出雲地方



出雲大社

杵築に出雲大社あり、大國主神を祀る。

此神は出雲地方に據りて大八洲國を平定し、天孫降臨に際して之を讓り奉りしかば、此所に大社として奉祀せらるゝなり。凡て此地方は日本

海を隔てゝ朝鮮に對するが故に、太古素戔嗚尊は此所より新羅の國に來往し給ひしことあり。宍道湖に注げる簸川上にては、素尊が八岐大蛇を退治して、本朝三種の神器の一なる、草薙寶劍を得給ひたるなど、最も早くより史上に著はる。

宍道湖の東岸に松江市あり、縣廳の所在なり。宍道湖は風景最も佳く、湖中鱸、鰻、白魚等を産す。湖南布志名には陶器を産し、玉造には瑪瑙を出だす。出雲の玉は古來有名なり。

山陰街道によりて、西南、石見に入れば、邇摩銀山あり、多額の銀を産す。其他縣下には鐵山多く、鐵の産出夥し。其より西、江川を渡りて、特別輸出入港たる濱田に達す。此所に廣島第五師團の分營あり。其西南、長門に近く津和野あり。

濱田

隱岐國

隱岐は日本海中の島國にして、嘗て後鳥羽、後醍醐兩天皇の遷幸あり。國は島前、島後の二部より成る。島後、北にありて最も大なり。島に西郷港あり、三保關を去ること十八里餘。島前には西島、中島、知夫里島等大なり。土地耕耘に適せざれども、海産物頗る多く、中にも烏賊の漁最も盛なり。

山口縣（周防及長門）（第十圖參照）

山口町

山陰街道は、石見の津和野より、中國山脈を越えて周防山口に至る。山口町は足利時代に於ては、大内氏根據の地として、當時中國第一の要地なりき。今は縣廳あり、山口高等學校あり、第五師團の分營あり。此地維新の際多く俊傑の士を出だして、爾後臺閣に列する者多く、世に薩長と並べ稱す。山口の東南に三田尻あり、山陽鐵道は今や此所に達す。不日長門の赤間關市に通すべし。赤間關市は一に馬關、又下關と稱す。本州の西端にあり。早鞆瀨戸を夾みて、豐前の門司と相對す。先年李鴻章來りて、馬關媾和條約を締結せし所なり。此地硯石

山陽鐵道

赤間關市

の名産あり。近傍には石炭を産し、下關は爲に特別輸出港の一となる。其東方は即ち檀浦にして平家滅亡の所なり。

此近海一種の蟹を産す。其甲、人面の如き皺あり。俗に平家の怨靈の化するものとなし、平家蟹の名あり。馬關の東豐浦町は仲哀天皇豐浦宮の地なり。

萩町 *維新前山口町に移る

早鞆瀨戸は瀨戸内海の西口に方る。其外海は即ち響灘にして、日本海に屬す。日本海に瀨して萩町あり、もと毛利氏の城下たりしも、土地僻遠にして繁華次第に山口の方に吸收せらるゝの傾あり。

三田尻

三田尻には食鹽を産す。此外縣下の地食鹽及鯛の産多きは、瀨戸内海に瀨する國として、他の諸國と異なるなし。三田尻より山陽鐵道によりて東すれば、德山、岩國を經て、安藝に入るべし。岩國はもと毛利家の支藩、吉川氏の城下にして、岩國川に瀨す。川に錦帶橋あり、奇橋の一に數へらる。こゝに岩國

岩國町

縮、岩國半紙の産あり。此外沿海の地、鰤、賚乾鰮等の海産少からず。陸産には長州蜜柑あり。米穀亦頗る多し。

山陽鐵道

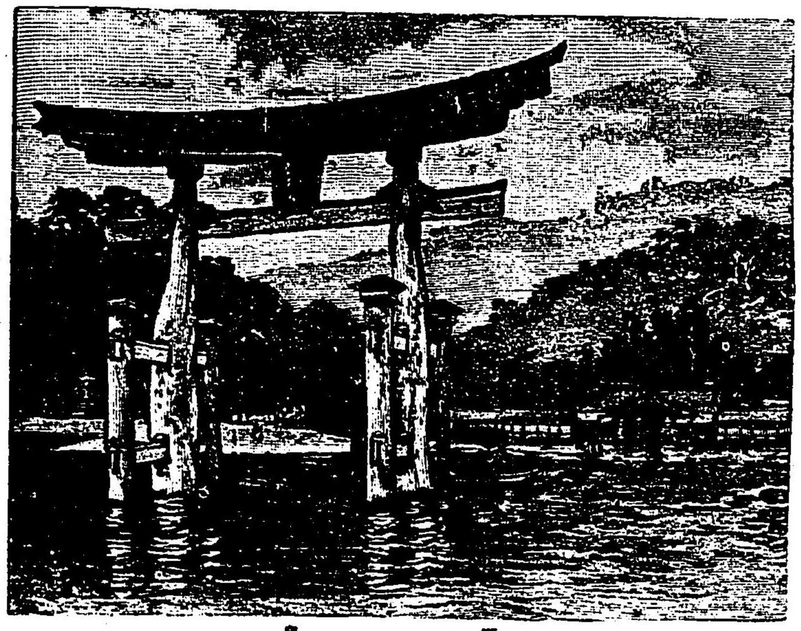
嚴島

廣島市

廣島縣（安藝及備後）（第十圖參照）

山陽鐵道は、周防より、嚴島の對岸宮島驛を經て、廣島に至り、之より東方尾道、福山を經て、備中に通ず。嚴島に嚴島神社あり、殿堂海に臨み、滿潮の際には、恰も波に浮べるが如し。風景絶佳、日本三景の一と稱す。名産竹細工あり。廣島市は太田川の下流にあり、もと淺野氏の城下にして、廣島縣廳、第五師團司令部等あり。二十七八年戰役に際しては、大本營を此所に進められ、大元帥陛下の御親征あらせられし所にして、人口十萬餘、中國第一の都會たり。

此市より東北、三次を經て、出雲に入らんとする鐵道の事は、前已に述べた



殿　島

り。三次は山間の小都會にして、江川の上流にあり。江川は縣下北部の諸水を集め、西北石見に入る、中國第一の大河なり。凡そ中國の地勢、中央に中國山脈連亘し、陰陽の兩道其南北にあるを常とすれども、縣下の地は、ひとり分水山脈中部にありて、地勢他と異なり。

廣島灣には大なる牡蠣を産す、冬期に至れば多く之を諸方に運送し、船中に調理して客に供す。之を廣島の牡蠣船と稱す。又廣島の

宇品港

牛肉は、殆ど神戸の牛肉と匹敵す。灣に宇品港あり、國音「得支那」に通じ、征清軍隊多く此所より出發して、大捷を得たり。東南に吳軍港あり。其前面なる江田島には海軍兵學校あり。廣島灣は、帝國海軍の中央根據地たり。

吳軍港

*倭寇

尾道は備後沿海の要港として、其前方なる因島は中世海賊の根據地として、共に名あり。福山は蘆田川の下流にあり、もと阿部氏の城下なり。其西南鞆津は亦有名なる港津にして、名物保命酒あり。

右の外縣下の産物には、備後表を逸すべからず。こは其名の如く、もと備後の特産にして、今は隣國にも産すれども、尙縣下の産を最多しとす。又之に伴ひて花筵の産多し。尾道其他の食鹽及鯛は、內海の特産として、殊更に述ぶる迄もなし。

山陽鐵道

備後より來れる山陽鐵道は、笠岡、玉島、倉敷を過ぎて岡山に至り、東、西の兩大川を渡り、和氣を經て、播磨に入る。播磨境に舟坂峠あり、長隧道によりて之を過ぐ。笠岡、玉島は共に瀬戸内海の要津にして、玉島より讃岐多渡津へは、毎日數回汽船の往復あり。其前面の海を水島灘(一)といふ。川邊川ありこゝに注ぐ。川の中流に高梁あり、倉敷より鐵道布設の豫定あり。此地麥藁眞田を産す。其下流地方多く花筵、備後表の産あり。岡山市はもと池田氏の城下にして、縣廳の所在たり。こゝに日本三公園の一として稱せらるゝ後樂園あり。

(一)源平海戰の古戰場

岡山市

岡山の南に兒島灣あり、西大川此灣に注ぐ。前面に兒島半島あり、縣下の地は、もと隣國備後と共に吉備と稱し、半島は所謂吉備の子島なりしが、後に土砂堆積して海を埋め、地勢爲に大に變して、遂に今日の如く半島と成れるなり。半島の頸部に藤戸(二)渡の古蹟あり。

兒島灣の變遷

(二)佐々木盛綱の故事

岡山縣(備中、備前及美作)(第十圖參照)

津山町

東大川は美作より來りて兒島灣口に注ぐ。下流の東方に伊部あり、有名なる伊部燒の産地なり。和氣清麿の故郷なる和氣は其北にあり。川の上流に津山あり、中國鐵道岡山より來りて此所に通ず。他日伯耆の米子に至らんとするなり。津山の西方に院庄(*)あり。美作には雲齋木綿及煙草の産あり。沿海の地は他と同じく鹽及び鯛の産あり、又蝦多し。

*兒島高徳が天皇に謁せしと傳ふる所

第七節　四國(香川、德島、愛媛、高知)(第十一圖參照)

地勢

四國は瀬戸内海を夾みて中國に對し、中央に四國山脈連亘して、土地を南北兩部に分つ事、ほゞ中國の地勢に似たり。其形蝙蝠の羽を張るが如き勢あり。中に四箇國あり、香川、德島高知、愛媛の四縣之を分管す。其瀬戸内海に面する部分は、降雨少なく、製鹽に適する事、山陽道諸國に似たり。又内海には

島嶼多く、中世讃岐の鹽飽島、伊豫の忽那島等が、海賊の根據となりし事、亦中國の部に說きたるが如し。

香川縣（讃岐）（第十一圖參照）

多度津

備中玉島より、海上の航海僅かに二時間餘にして、讃岐多度津に至るべし。多度津は瀨戸內海航通の要津にして、中國通ひの、汽船多く此港を經由す。讃岐鐵道は、東方高松市より起り白峰を左に見、坂出、丸龜を經て此地に至り、更に善通寺を經て琴平に至る。琴平に金刀比羅宮あり。俗に金毘羅と稱し、信者甚だ多し。丸龜には第十二師團司令部あり。善通寺に同名の寺あり、弘法大師誕生の地と稱す。

讃岐鐵道

*崇德天皇御廟所あり

丸龜市

高松市

高松市は縣廳の所在地にして、もと水戸の分家たる松平氏の城下たり。其栗林公園は幽邃を以て稱せらる。其東方に屋島あり。屋の棟の形を成せるより稱す。源平の古戰場にして、安德天皇行在所の趾あり。此地前面に小豆島、其他大小無數の島嶼を望み、左方に高松城を瞰下して、眺望絕佳なり。其東に五劍山あり、亦山形を以て名づく、休火山なり。此山眺望亦佳なり。國の西方觀音寺の邊亦眺望を以て名あり。凡そ瀨戸內海沿海の地、何れも好景に富む。蓋し島嶼の海面に橫はるもの多きと、白砂の海濱に敷きて、青松と相映ずるあるとによれるものにして、其原因一に花岡岩の多きに基く。小豆島亦花崗岩より成り、石材小豆島石を產す。島中寒霞溪の如き景勝の地あり。

屋島

五劍山

瀨戸內海の好景

高松より東、志度、津田、引田の名邑を經、讃岐山脈を越えて、阿波德島に通ずべし。讃岐山脈は四國山脈の支脈にして、阿讃の境を爲せるもの、香川縣は此山脈の北方を管す。其地狹小

にして大河なく、農家は多く溜池を作りて灌漑に供す。中にも*萬農の池の如き古來最も名あり。縣下面積狹く、僅かに東京府下に勝るに過ぎざれども、田園よく開けて、人口多く、産物に於ても、坂出其他の鹽田、食鹽を産する事多く、又煙草、砂糖等の産多し。殊に砂糖は其額全國第一位に居る。

*弘法大師築堤

北方

徳島縣（阿波）（第十一圖參照）

讃岐と讃岐山脈を夾みて阿波國あり。四國山脈國の中央を東走して、地を南北に分つ。北方は即ち、四國三郎の名ある吉野川の流域地方にして、多量の藍を産す。藍はもと舊藩主蜂須賀家の保護の下に、盛に製産せられたるもの、今尚内國第一の産たり。川は數派に分れて、海に注ぐ。河口に徳島市あり。もと蜂須賀氏の城下にして、縣廳の所在たり。近年こゝに、多く纖織、綿チルを産す。徳島鐵道は此市より吉野川に沿ひて、上流に通ず。川の中流に瀕して脇町、半田あり。半田には半田椀を産す。其上流に池田あり、多く煙草を産す、池田より東南祖谷山村あり。祖谷川こゝより出でゝ吉野川に注ぐ。川は斷崖絶壁の間を流れ、蔓橋を架して交通に供す、中には長さ三十餘間に及ぶものあり、山間の一奇なり。此地は壽永の際、平家の落武者の籠りしと傳ふる所。其東、劍山は夏日行者の參詣多し。

徳島鐵道

祖谷山

劍山

祖谷蔓橋

撫養鳴門

南方

徳島の北に撫養あり、鳴門を夾みて淡路に對す。鳴門は瀬戸内海の口に方り、干汐の際、外洋の水、内海の水と水平を失ふが故に急流をなし、海面渦巻をなして、航海者の難所たり。此所に鳴門鯛を産す。又撫養には齋田鹽の産あり。

南方は主として那賀川の流域地方にして、小松島、富岡等の名邑あり。北方、吉野川平野と共に、砂糖の産出少からず。南岸海部郡地方には、漁業盛にして、小舟を以て大阪に輸出す。中にも煑乾鰮の如き、其額多し。

海部は海人部の義なり。凡そ地の海部を名とするもの、何れも古代海人部の住したりし所にして、漁業の盛なりしを示すものなり。

高知縣（土佐）（第十一圖參照）

土佐の地勢、北に四國山脈を受け、室戸、蹉跎の兩岬、南方に突出して土佐灣を擁し、國弓形を成す。沿海に珊瑚の産あり。殊に西南隅なる柏島を多しとす。又鯖、鰹の漁殊に多く、土佐節の名高し。室戸邊には鯨の漁あり。弓形の中央、浦戸灣に瀕して高知市あり、もと山内氏の城下にして、今は縣廳及第十一師團の分營あり。土佐紙は舊藩の保護によりて盛大を致せるものにして、其産額内國第一に居る。此國は南海に偏して、他との交通不便なれば、住民の風俗從ひて質朴にして、發音頗る正し。足利末世には長曾我部元親の如き偉人を出だし、今は薩、長、土、肥と並べ稱して、明治政治社會の一勢力を成す。

高知市

風俗

*ジとヂ、ズとヅの別なし。成すなど殊に著し。

愛媛縣（伊豫）（第十一圖參照）

別子銅山

伊豫は土佐と四國山脈を夾みて脊中合せをなす。其中部に石鎚山あり、四國著名の休火山なり。其東別子銅山には多額

の銅を産し、産額足尾につぐ。又市川鑛山には安質母尼を出たすあり、其結晶の大且つ美なる、世界有數の物なり。

縣廳は松山市にあり、第十二師團分營の所在にして、數多の短距離の鐵道の其四近に通ずるあり。東北に道後温泉あり、古來有名にして、亦鐵道の便によりて至るべし。

松山の東北に今治あり、西北に三津濱あり、西南に八幡濱あり、八幡濱の東南に宇和島あり。何れも沿岸の要港なり。八幡濱より西方、佐田岬の長く突出して豐後の佐賀關と相對するあり。神武天皇が通過し給ひし速吸門は此所なりといふ。三津濱へは松山より鐵道を通ず。宇和島地方には多く半紙を産するあり。右の外、縣下の産物としては生蠟、砂糖あり。砥部には砥部燒を産す。松山の伊豫絣亦有名なり。又鹽鯛等の内海特有産は縣下亦之あり。

第八節　九州地方（第十二、十四圖參照）

（大分、福岡、佐賀、長崎、熊本、宮崎、鹿兒島、沖繩）

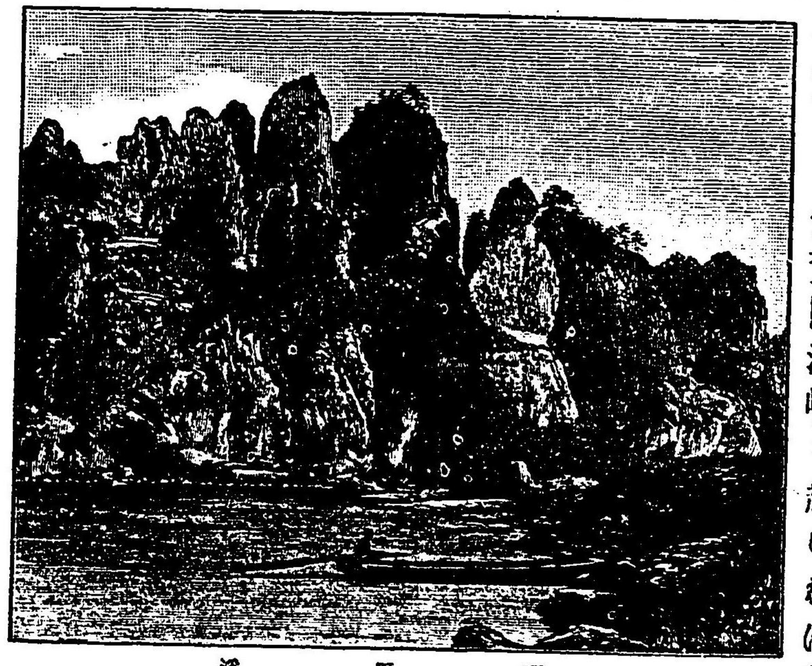
九州はもと一に筑紫島といふ。四國、中國の西南にあり。佐賀關海峽と早鞆瀨戸とを以て、瀨戸内海の西口を扼し、九州南北の兩山脈、此二海峽を渡りて、四國中國の兩山脈となる。其形人の躍るが如き勢あり。西海岸は出入殊に多く、島嶼に富む。西北には壹岐、對馬の、飛び石の如く並べるあり。西南には薩南諸島より、琉球を經て、臺灣に至る迄、亦一帶の列島をなす。合せて十二國、大分、福岡、佐賀、長崎、熊本、宮崎、鹿兒島、沖繩の八縣之を分管す。

大分縣（豐前の東半及豐後）（第十二圖參照）

大分町

阿蘇火山脈

伊豫より佐賀關海峽を越ゆれば、佐賀關の良港あり。之より以南海岸出入多く、臼杵、佐伯等の名邑あり。佐賀關の西、別府灣の灣入するあり。灣頭大分町あり、縣廳の所在なり。其西方に別府溫泉の有名なるあり。此他縣下に溫泉多し。蓋し此地九州南北兩山脈の間にありて、阿蘇火山脈通過の衝に當り、久住、鶴見、由布、兩子等の火山相並び、從ひて溫泉



耶馬溪

字佐

*和氣清麿神勅を此神に請ふ

中津

耶馬溪

も多きなり。別府より北方、國東半島の頸部を過ぐれば、宇佐あり。こゝに宇佐八幡宮鎭座す、古來、上下の尊信最も厚し。宇佐より西北、豐州鐵道の、中津を過ぎて福岡縣下に通ずるあり。中津は山國川の下流に臨み、小倉織を產す。山國川の上流に山國谷あり。奇岩並び立つの勝數里に及び、世之を耶馬溪と稱す。其水源地方に英彥山あり。兩豐及び筑前の三州に跨りたる、有名なる休火山にして、山上英彥山神社あり。之より西北は即ち福岡縣なり。

縣下の地、瀨戸內海に瀕するが故に其特有たる鹽及び鯛は產物の主要なるものゝ一に數ふべし。此他生蠟及久住山地方の硫黃などの產あり。

福岡縣（筑前、筑後及豐前の北部）（第十二圖參照）

門司市

九州鐵道

中國の西端、赤間關と速鞆瀨戸を夾みて門司市あり。九州の北端にして、特別輸出港たり。九州鐵道此所より起りて、小倉織を以て名ある小倉町より、南方、行橋に向ひて支線を出だし、以て宇佐に通ずる豐州鐵道に連絡す。而して本線は西の方、折尾にて、炭田地方に通ずる鐵道と交はり、更に香椎、箱崎を經て博多に至り、三笠川に沿ひて、筑紫二郎の稱ある筑後川の平野に出で、鳥栖より長崎線を分岐し、南方久留米市を經て肥後國に入る。小倉には第十二師團司令部あり。箱崎には八幡宮あり、(一)敵國降伏の勅額を藏す。香椎には神功皇后を祀れる香椎宮あり。之より博多に至る(二)一帶の地方は、朝鮮に對して邊要の地なれば、古來(三)石壘を海岸に築きて之に備ふ。其西に福岡あり。今は福岡、博多を合して福岡市と云ふ。福岡縣廳あり。福岡はもと黑田氏の城下にして、今は舊城中第十

(一)元寇に際し亀山上皇の納むる所(二)文永弘安の元寇の古蹟(三)箱崎や千代の松原、石だたみ、千代ん崩れまはまで君はませ(菅家)

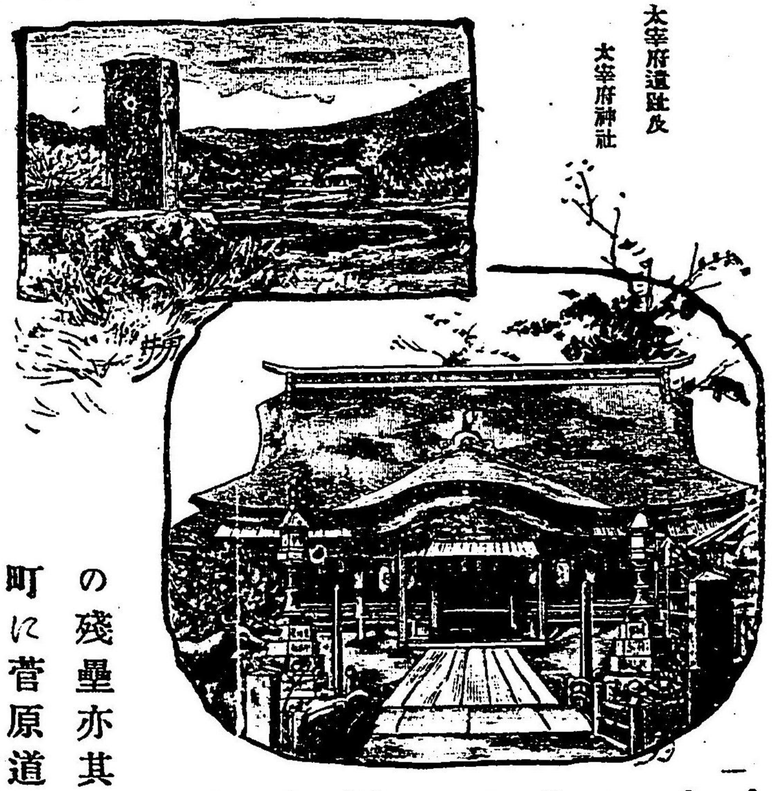
福岡市

太宰府町

二師團の分營あり。三笠川の上流には太宰府町あり、近傍に太宰府の遺趾あり。

太宰府はもと外國に備へ、兼ねて九州全体を管したりしもの、一に都督府といふ、碑あり其趾を標す。附近に觀世音寺あり。天智天皇の御代に、築きて外敵に備へたりし水城の殘壘亦其附近にあり。太宰府町に菅原道眞を祀れる太宰府

*都府樓瓦色聲音寺唯聽鐘聲(菅家)



太宰府遺趾及太宰府神社

久留米市

神社あり。

久留米はもと有馬氏の城下にして久留米絣を産す。此所に小倉師團の分營あり。此地方一帶の平野は、筑後米の産地にして、縣下の米は其額實に内國二三の地位にあり。從ひて清酒の釀造多し。亦多く菜種を植ゑて、種油を製し、藍作亦少からず。莫蓙亦重要産物の一たるを失はず。然れども縣下第一の産物は石炭にして、當時全國産の殆ど四分の三を出だすといふも不可なし。凡そ九州北部山脈多く石炭層を含む、肥前の高島、唐津等のもの、亦皆同一の系たり。而して其最も著はれたるものは、肥後境に近き三池炭山、遠賀川の上流地方の炭田とす。九州鐵道の、若松より折尾を經て、南せるもの、及豐州鐵道の、行橋より西せるものは、共に主として、此地方の炭坑の爲に設けられたるものなり。

石炭

九州鐵道

佐賀市

*明治七年江藤新平の亂

陶器製産地

有田

佐賀縣(肥前の東部)(第十二圖參照)

佐賀縣は、筑後川を以て東方福岡縣と堺す。九州鐵道は東北より來り、鳥栖(トス)にて肥後線に分れ、米穀著名の産地たる筑後川の流域を經、佐賀、牛津、有田を過ぎて長崎縣に入る。佐賀市もとは鍋島氏の城下にして、縣廳の所在なり。此藩は維新の際勳功多く、薩長土肥の稱あり。牛津より唐津興業鐵道の他日唐津に通ぜんとするあり。現今其一部唐津附近のもの已に開通す。又有田より、伊萬里(イマリ)に向ひて伊萬里線の通ずるあり。有田、伊萬里、唐津は共に陶器の名産地なり。縣下陶器の製産盛にして、其産額、愛知、岐阜につぐ。

中にも有田は殊に有名にして、往々高價なる美術品を製出し、明治九年米國獨立百年祭の萬國博覽會に出品したる花瓶は、一個千弗に賣却せりと

唐津

*遠つ人松浦佐用姫に領巾振りしよりの名(讀人不知)

平戸

云ふ。唐津の陶器其由來亦古くして、往々陶器を呼ぶに「唐津物」の名を以てする事あり。たゞに縣下のみならず、九州には陶器の製産地多し。蓋し足利末世に茶の湯の大流行ありて、人々甚だ朝鮮製、支那製の茶碗を珍重せし時代に、秀吉の征韓役ありしかば、九州の諸將、多く彼地の陶工を伴ひ來り、大に窯業を奬勵せしによるものにして、有田の如きも、鍋島直茂が韓人李參平、宗傳二人をして開かしめたるより、盛大となれるなり。

唐津亦石炭を産し、港は特別輸出入港たり。其北方松浦潟は古へ渡韓の要津にして、領巾振山には、大伴狹手彦か征高麗出軍の紀念を止め、名護屋に秀吉征韓の際の本營地たり。

長崎縣(肥前の西半及壹岐、對馬)(第十二圖參照)

肥前の西部、半島、島嶼殊に多く、北方には壹岐、對馬の二島國あり、海岸線の延長全國に最たり。從ひて海岸出入多く、良港に乏しからず。西北平戸島なる平戸は、古へ南蠻人等との貿

(一)鄭成功の産地

佐世保港

九州鐵道

長崎市

易場にして、當時は外人の(一)居留地もありき。此地陶器を産す。其南方大村灣には佐世保軍港あり、九州の西海岸及壹岐、對馬、琉球等の沿海を管す。早岐より此所に九州鐵道の支線あり。而して其本線は大村灣を回り、大村を過ぎて南方長崎に至る。大村には熊本師團の分營あり。長崎は五港の一にして縣廳の所在たり。貿易の額は、遠く横濱、神戸に及ばざるも、浦潮斯德、朝鮮、支那、其他西洋諸國交通の衝に方り、尚七萬五千の人口あり。此地は德川時代を通じて、支那、和蘭との貿易港たりしかは、古來海外の知識は多くこゝより輸入せられたり。

高島

(二)雲耶山耶吳耶越水一髮天髮萬里船青丹橫天草洋煙草日漁火漁歌蓬萬里波間見大白魚跳營船明月(山陽)

産物には長崎煙草あり、又甘藷多し。其西方なる高島は多く石炭を産す。之より東、(二)天草洋を夾みて島原半島あり。半島の中央に温泉岳あり、山麓小濱溫泉湧出す。此地方は肥後の天草と關聯して有名なる島原亂の古蹟たり。其南岸なる口、

津は特別輸出入港なり。此他西の方、五島の福江、壹岐の勝本、對馬の嚴原、鹿見、竹敷、佐須奈等皆要港たり。中にも嚴原、鹿見、佐須奈等は朝鮮に對する特別輸出入港なり。縣下の地、海岸線長きが故に、至る所漁業の利少からず。中にも西方五島には鯨及烏賊の漁多くして、五島鰯の名著はれ、對馬の海岸には鰤及海參、雲丹の捕獲多く、干鮑、鱶、鰭等と共に縣下重要の物産たり。

邊要

壹岐、對馬の二島は邊要の地なれば、古は防人を派して之を守らしめしが、今は對馬及五島に警備隊あり。

熊本縣（肥後）（第十二圖參照）

火ノ國

肥後は西に有明海、八代海等の内海を夾みて肥前に對し、其間に天草群島あり。古へ此兩國を併せて火國といふ、内海に

不知火と稱する火光の見ゆる事あるより得し名なり。

九州鐵道

九州鐵道は筑後より來り、田原坂の西方を經て、縣廳の所在なる熊本市を過ぎ、南の方宇土を經て、八代に至る。他日官設鐵道其後をうけ、球摩川の急流に沿ひて人吉に至り、更に南折して、鹿兒島に至ちんとす。

田原坂

田原坂は西南役當時の大激戰のありし地にして、當時の彈痕尚見るべし。熊

田原坂上の彈痕

熊本市

本市はもと細川氏の城下にして、其西南役の際、包圍を受けたるを以て有名なる熊本城は、さきに加藤清正此地に封を受けたる際に築きたる所、今第六師團の本營たり。市の東に第五高等學校あり。今や此市は九州學問の中心となれり。熊本の東方に大津あり、市よりこゝに向ひて鐵道は不日開通せらるゝんすと。

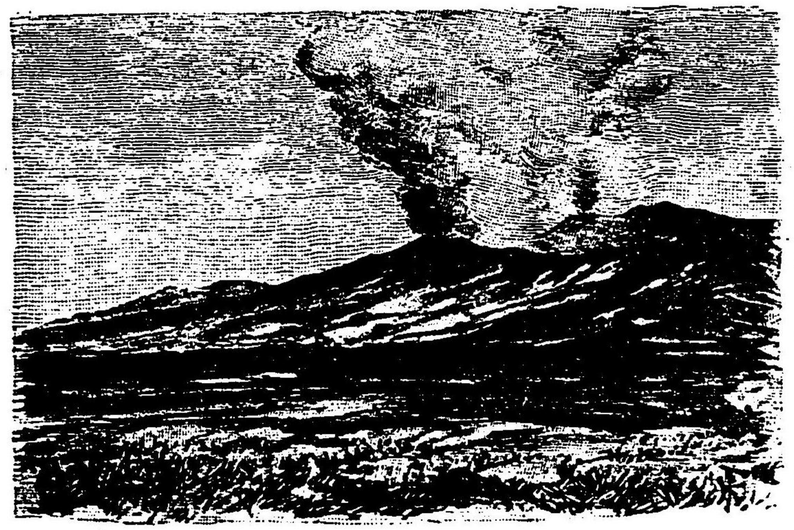
宇土の西、半島の端に特別輸出港たる三角港あり、九州鐵道の支線此所に開通す。

球摩川

球摩川は五箇莊山中より發す。川に香魚を產す。其中流に人吉あり、下流に八代あり。八代の南方、日奈久温泉の著名なるあり。球摩川は日本三急流の一にして、舟行危險なれども、又頗る痛快を極め、其人吉より八代まで十六里間、僅に四時間にて達すといふ。

五箇莊

五箇莊は日向境の山中にあり、阿波の祖谷山と共に、平家の落人の隱れし所として、古來他と交通せず、久しく別天地の觀ありき。



阿蘇火山

熊本の東方、豐後に近く阿蘇火山あり。舊火口直經凡そ七里、白川此より出でゝ西流し、熊本を過ぎて海に入る。附近に溫泉多し。阿蘇火山脈は之より東北に伸び、本州中部に達す。阿蘇舊火口內、數個の村落ありて、四萬の人民は安眠を此中に貪りつゝあり。舊火口內亦數多の寄生火山を噴出す。其中現に噴火して、最も

*中に一町十四村わたり火口の大なる世界第一と稱す

肥後平野

著しきものを高嶽となす。白川の南に綠川あり、北に菊池川あり、此等の諸流は何れも東方の山脈より起りて西流す。其下流は一帶の平野にして、多く米、麥、其他の穀物、甘藷等を產す。又藺を植ゑて備後表、琉球表の如き疊表を製造す。此地方の人々は、强烈なる飲料を好み、燒酎の釀造多し。又赤酒あり。然れども又熊本には、朝鮮飴の如き甘味の名物もあり。

日向の人口

宮崎縣(日向)(第十二圖參照)

日向は九州の東部、太平洋に面して、直ちに日の出づるに向ふを以て此名あり。

日向は肥後と九州南部山脈を夾みて脊中合せをなし、南北二方亦山嶽重疊して、交通不便なるが故に、人口少なく、其數僅に四十五六萬、一方里平均九百三十餘人に過ぎず。北海道と岩手縣とを除けば、我國にて人煙の最も

天孫種族

稀なる地方となす。然れども古代にありては、最も早く史上に著はれ、我國天孫種族勃興の本源地たり。次で神武天皇東征後は、熊襲種族の代りて此國に據りし事、亦史上明文あり。

天孫

天孫種族とは、太古我皇室の御先祖と共に、我國に降りたる諸神の子孫にして、古來皇室と共に、最も繁榮し、現今、數に於て、我國民百中の九十餘を占む。之を史に徵するに、太古天孫瓊々杵尊、諸神を率ゐて、高天原より日向國高千穗峯に天降りてより以來、一族頗る九州の西南地方に蕃衍す。其後神武天皇に至り、美地(ヨキトコロ)を尋ねて東方大和國に移住し、其地を平定して、こゝに皇基を定め給へり。此時出雲地方には、別に海路朝鮮と往來せる素盞嗚尊の一族あり。大和地方にも又皇軍に抵抗せる土蜘蛛、其他所謂國神等の土人あり。或は、九州地方に熊襲、隼人(ハヤト)、東方に蝦夷等もありて、歷史上明かに之と種族を異にせるが如きもの、少からざりしと雖も、此等の異種族中、蝦夷の一部が、僅かに北海道に、其純粹なる種族を保存せる外は、盡く皇化に浴して、互に混合し、互に同化し、全く自己の祖先と、來歷とを忘るゝに至れり。又支那及朝鮮等の國民の歸化したるものも、少からざれども、これ亦何時

出雲民族

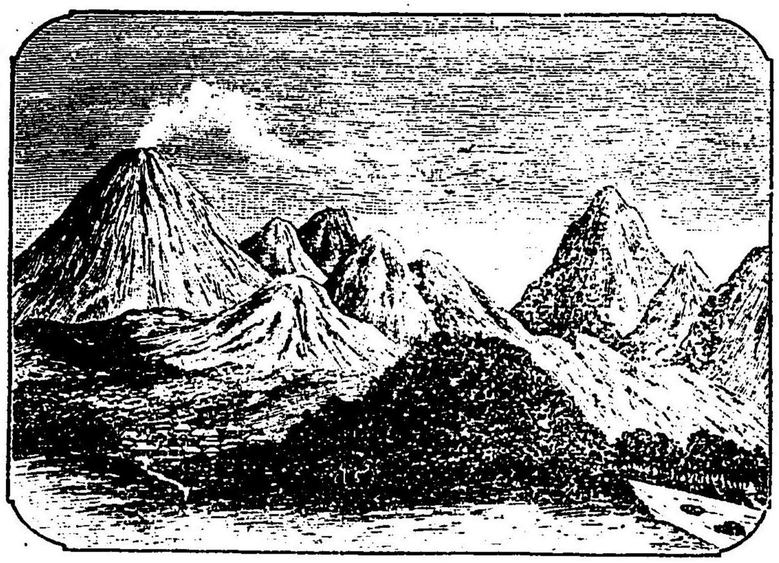
土人

歸化人

皇別、神別、蕃別、

霧島火山

しか他と同化し、共に等しく天孫の後裔たる、天皇陛下が無二の忠良の臣民となり、帝國を愛するの念は、互に、毫も相讓る事なき、協同一致和氣藹々たる一大種族となり了れり。されば古代にありては、其皇族より出でたるものと、他の諸神の裔と、歸化人の後たるとによりて、皇別、神別、蕃別、の區別をなしゝも、今日に於いては、最早精密に此別をなし難く、すべて天孫種族の中に混入せり。



霧島山

國の西南隅に霧島火山あり。嶺は東西二峯に分れ、其

宮崎町

東嶽は天孫の降臨し給ひし高千穗峯なりといふ。大淀川之より出でゝ東流す。上流に狹野あり、下流に宮崎あり。狹野は神武天皇の降誕地と稱す。宮崎は縣廳の所在なり。宮崎の北方、大宮村に神武天皇を祀れる宮崎宮あり、宮崎より北、一瀨河畔に佐土原あり、大丸川に近く高鍋あり、五箇瀨川の下流に延岡あり、ともにもとの城下の地にして、西南なる都城と共に國中の名邑たれども、人口何れも多からず。都城に高千穗宮の舊趾と傳ふるあり。或は五箇瀨川の上流、高千穗村を以て天孫降臨の地に擬するものもあり。

産物には日向炭、椎茸、茶等あり。都城には萬年青を産す。

鹿兒島縣（大隅、薩摩）（第十二、十四圖參照）

大隅、薩摩の兩國は九州の南部の兩大半島をなし、中に鹿兒

櫻島
鹿兒島市

島灣を擁す。灣内櫻島あり、大なる櫻島大根を産す。櫻島の西對岸に鹿兒島市あり、もと島津氏の城下にして、縣廳あり、第六師團の分營あり。維新の際には山口縣と共に多くの人傑を出だせり。市中薩摩絣を産す。市の西北に城山あり、西郷隆盛戰死の地として名あり。市より東北、國分を經て、肥後八代迄鐵道布設せられんとす。又肥後街道は、西北伊集院を經、川内川を渡りて北行す。伊集院には薩摩燒を産す。むかし島津義弘朝鮮の陶工をして開かしめるに基し、其製、金銀五彩を用ひて甚だ美麗なり。南端開聞嶽は櫻島と共に有名なる火山にして、遠く薩南諸島より來り、北の方霧島山に至れる霧島火山脈に屬し、多量の硫黄を産す。それより西方の沿海、鰹の漁多く、薩摩節は土佐節と相匹敵するに足る。

國分は國分煙草の産地にして、縣下の砂糖及薩摩薯(甘藷)と

共に、農産物の主なるものなり。砂糖はもと舊藩の保護によりて此盛大を致し、今や年額三百萬圓に近ノ、薩摩薯は其本場の事として産額に於ても全國の六分の一以上に及ぶ。殊に縣下の産物として著きものは黄金にして、鹿籠、芹野、羽島山、野等、諸所に金山多く、發掘の量佐渡を凌駕す。其北方阿久根地方は多く燒酎を産す。蓋し九州南部地方の人強烈なる飲料を好む、爲に縣下釀造の高全國に冠たり。

金

薩南諸島

兩半島の南には大小數多の島嶼相並びて琉球に連る。之を薩南諸島と云ふ。其中鐵砲の傳來を以て有名なる種子島と其西南なる屋久島との二大島は、古來大隅に隷し、其南なる寶七島は薩摩に隷せしも、それより南方、奄美群島は、琉球に屬したりしに、慶長年間島津家久琉球を征して、大島以下の五島を收めてより、今尚鹿兒島縣の管内たり。然れども地勢

波上宮及琉球人（東京帝國大學人類學教室所藏宮古島に上る）

も大なり。周圍百十里餘。分ちて國頭、中頭、島尻の三部とす。後者には宮古列島、八重山列島の別あり。中にも宮古島、石垣島、入表島大なり。島數五十五、地勢自ら、薩南諸島に連る。其之を區別するは、たゞ古來行政上の習慣に從へるのみ。沖縄島の北部、國頭

大島

産物等はすべて琉球的なるが如し。其中大島最も大にして周圍七十餘里あり。古へ庵美と云ふは蓋し之なり。島に大島紬及芭蕉布を産す。又多く蘇鐵及竹を生ず。蘇鐵の根及幹は、凶年の際食用に供すべし。大島の東に喜界島あり、平康頼、僧俊寛等の流謫せられたる鬼界島は是なりといふ。大島の南に、奥論島、徳島、沖永良部島等あり。永良部鰻は沖永良部島に産す。大島の北には諏訪瀬島、寶島等の十餘島あり、寶七島と稱す。七島表を産す。其北に硫黄島あり、硫黄多きを以て名づく。

*薩摩灘沖の小島に我が親に告げよ（八重の沙風康頼）

沖縄島

沖縄縣（琉球）（第十四圖參照）

琉球は薩南諸島に連りて、西南海中に羅列せる島嶼より成る。分ちて沖縄群島、先島列島の二つとなす。前者には沖縄島最

那覇港

に運天港あり、島中一の良港なり。南部、島尻に那覇港あり、縣廳の所在にして、大阪、神戸より、鹿兒島を經て、毎月數回汽船の往復あり。清國に對する特別輸出入港なり。

久米村

那覇に官幣小社波上宮あり、北方に突出したる高岬の上に位す。那覇の東北に久米村あり、支那明朝の時閩人を移したるものにして、代々儒を崇ぶもの多く、古來琉球をして支那に通せしめたるもの、蓋し此村民の刺衛與りて力あり。今に至りて、尚支那を本國として慕ふの風習存すといふ。

首里

那覇の東、里餘、首里あり、舊王城の地たり。其西、泊村に崇元寺あり、舜天王より、前國王迄、三十餘世の祠廟あり。島内多く甘藷を栽培す、之を琉球芋といふ、又薩摩芋といふは、もと琉球より薩摩に渡り、遂に全國に及ひたるを示せるものなり。薩摩絣と稱する木綿絣も、亦多く此地に產す。其蘇鐵、芭蕉布等、暖地的の產物あるは、北方大島と同じ。又砂糖、紬、泡盛酒、塗物等の產あり。此國熱帶に近けれども、地海島にあるが故に、常に涼風を送り、氣候殊に溫和なり。たゞ時々颶風の襲來するあるが故に、一般に家屋を低くし、或は石

風俗

垣を繞らして、之に備へざるべからず。其住民の風俗は、衣服は平袖にして帶を前に結び、男子頭髮を束ねて、簪を挿す。簪に金、銀、銅及木製の別あり、以て階級を分つ。又一般に男逸し、女勞し、下民は多く跣足を常とす。其言語亦

住民の種族

頗る內地のと異なり。されば琉球人は、一見內地人と其種族を異にするが如きも、精密に之を觀察すれば、其言語は明に、我國語の轉化せるもの、風俗亦然り。たゞ久しく海島にありて、他と隔絕せしが故に、此相違を來せしもの、もと天孫種族と其流を同じくするや疑なきが如し。今此國の沿革を尋ぬるに、太古、志仁禮久、阿摩彌姑なる一男一女あり、次いで天帝子出で、其長子天孫氏始めて王統を此島に垂る。後文治年間、源爲朝の子尊敦入て王位

沿革

につき、舜天王と稱す。此後王統を變ずる事四。文明年中舜天王の裔尙圓王立ちてより、相繼いで明治に及ぶ。之より先、支那に明朝起りて、太祖朱元璋の琉球王を招くや、王之に應じ、臣と稱して方物を獻ず。然るに島津氏鎌倉時代より、已に南海十二島に地頭となり、慶長年間、更に之を討つに及びて其北部なる大島以下の五島は、薩摩の直轄となり、琉球王は薩藩の附庸となりて、永く幕府及薩藩に入貢せり。茲に於て琉球は日支兩屬の觀ありし

が、維新後我政府收めて藩となし、國王を華族に列し、今や內地と同じく縣治の下にあり。

第九節　臺灣（第十五圖參照）

地勢

帝國の最南端に臺灣の大島あり、明治二十七八年戰役の結果として、清國より讓與せらる。此島其形一葉の木葉の如く新高山脈稍東に偏して南北に亘る。其東方は傾斜急峻にして、海岸懸崖をなせる所多く、西方は緩漫にして、廣大なる平野に連なる。此東方の山地は、生蕃の境にして、土地開けず、探檢亦未だ周からず。西方は耕地頗る開け、都邑も亦多し。總督府は臺北にありて全島を管し、下に三縣、三廳あり。

沿革

臺灣はもと之を高砂島といひ、又高山國といふ。西人は美麗の義に取りつオルモサといふ、臺灣の名は支那人の付けし所なり。此島古來馬來（マレイ）種に屬

生蕃

臺灣の住民及移住支那人の家屋

する土蕃の住居に委したりしが、和蘭人官て一時之を占領し、次いで支那明朝の末に、遺臣鄭成功の來りて之に據りし事あり。後、清朝の版圖に歸す。之より支那人移住するもの多し。拔に於て蕃人の一部は競爭に堪へずして、東部の山地に退去し、他の一部は支那人に屈服して、其風俗習慣を採用す。此の前者は所謂生蕃にして、山間に住し、數多の蕃社をなし、各社長あり、固有の蕃風を存し、頗る殺伐なる行あり。其民漁獵を業とし、稀に農業を成すものあるも、今尙未

熟蕃
移住支那人

開の域にあるを免れず。後者は即ち所謂熟蕃にして、今や殆ど支那風に化せられたり。されば此島には、此二種の土人と、移住支那人と三樣の民住するなり。其移住支那人は、今尙辮髮を垂れ、其服裝より、家屋の構造に至る迄、皆支那人固有の風を存す。而して二十七八年戰役の結果は、此生蕃と、熟蕃と、移住支那人とを擧げて、臺灣島と共に、我が國の有に歸せしめたり。

臺北

臺北縣（第十五圖參照）

臺北縣は臺灣島の北西部を管す。縣廳は臺北に在り。臺北は此地が尙淸國領たりし時に於て、全島の首府たりし所にして、今總督府及混成第一旅團司令部等あり。城は厚さ二間許、高さ三間許の、上部に凸凹ある支那風の城壁を以て繞らし、淡水河に瀕す。附近に大稻埕、艋舺あり、共に淡水河に臨み、商業繁盛なり。河は本島第一の大河にして、北流し、淡水港（滬尾）に至りて海に入る。河口より艋舺迄小汽船を通ずべし。淡水

臺灣鐵道
基隆港

臺灣總督府

河の通ずる所、近傍良田多く、平地には孟宗竹の繁茂せるあり。又多く茶を栽培し、大稻埕の如きは實に製茶の本場なり。臺灣鐵道は、島の東北隅基隆港より起り、臺北を經て、新竹に達す。基隆港は前面に雞籠島の横はるあり、北部第一の良港にして、神戸より毎月數回汽船の往復あり、現今內地人の最も多く住する所なり。基隆の近傍地方石炭に富み、其發掘高頗る多く、茶と共に北部產物の主要なる者た

り。

新竹より以南、臺灣鐵道は更に進みて、臺中、嘉義、臺南等を經て、島の西部を縱貫せん豫定なり。此鐵道の經る所平野多く田園能く開け、米には一年二回の收穫あり、島人耕作に精勵なり。新竹の西北舊港あり、特別輸出入港なり。

臺中

臺中縣（第十五圖參照）

臺中縣は西部臺灣の殆ど中央部を管す。此地方平野廣く打ちつゞき、西方は臺灣海峽を夾みて清國福建省に對す。縣廳は大肚溪の北、臺中にあり。此所に混成第二旅團衛戍す、新竹より苗栗を經て至るべし。苗栗は山間の一邑にして樟腦の製造多し。然れど其地蕃地に近く、時に其襲來を被る事ありと云ふ。凡う臺灣一帶、殊に生蕃の境に近き地は、樟林多く、建

築用の樟材、樟腦の產出頗る多し。

苗栗より後壠溪を下れば、後壠港あり。其西南なる梧棲港、鹿港と共に、特別輸出入港たり。然れども何れも水淺くして、大船を容れ難く、たゞ支那船多く來て碇泊す。中にも鹿港は支那本部との交通に至便なるを以て最も繁盛なり。

鹿港の東北に彰化あり、鹿港と共に、縣下の大邑にして、附近沃野十數里、農產物多し。

臺南

臺南縣（第十五圖參照）

臺南縣は本島の西南部を管す。縣廳の所在臺南は、久しく臺灣の首府たりし所にして、商業繁盛、臺灣第一等繁華の域たり。今混成第三旅團衛戍す。

此地は嘗て和蘭人の據りし所にして、紅毛城趾尙見るべし。其後、明の遺臣

鄭成功の來れるも、我が濱田彌兵衛の蘭人を威服せしも、皆此地に起りし所にして、歴史上最も縁故多し。

安平港

臺南の西に安平港あり、西南部の盛なる開港場にして、砂糖の輸出多し。凡そ臺灣南部は砂土にして、甘蔗に適する地多く、其砂糖は、南部の主要なる物産なり。此他臺灣は、地南方に位して、極めて暖國なるが故に、鳳梨等、暖地的産物は至る所に多し。又落花生も各地之を産す。

嘉義

臺南と彰化との中間に嘉義あり、臺灣南北に通ずる要區たり。其東方には新高山の雲表に聳ゆるあり、高さ富士を凌ぐ。

鳳山

此山の脈長く南北に引いて所謂新高山脈となる。

臺南の南方に鳳山あり、此地方枝竹パイプの名産あり。其西に、打狗港あり。臺灣鐵道の終點なり。此港もと盛なる開港場なりしも、商業次第に安平に吸收せらるる傾あり。東南、下淡水溪口に、東港あり、西北に東石港あり、共に特別輸出入港たり。前面に小琉球島あり、珊瑚島なり。

宜蘭

臺灣島の極南を南岬といふ。我帝國の最南にして、赤道を去る二十一度に滿たず。其西北に恒春あり。之より東北は即ち生蕃地にして、明治七年我國の征服せし牡丹蕃社等あり。

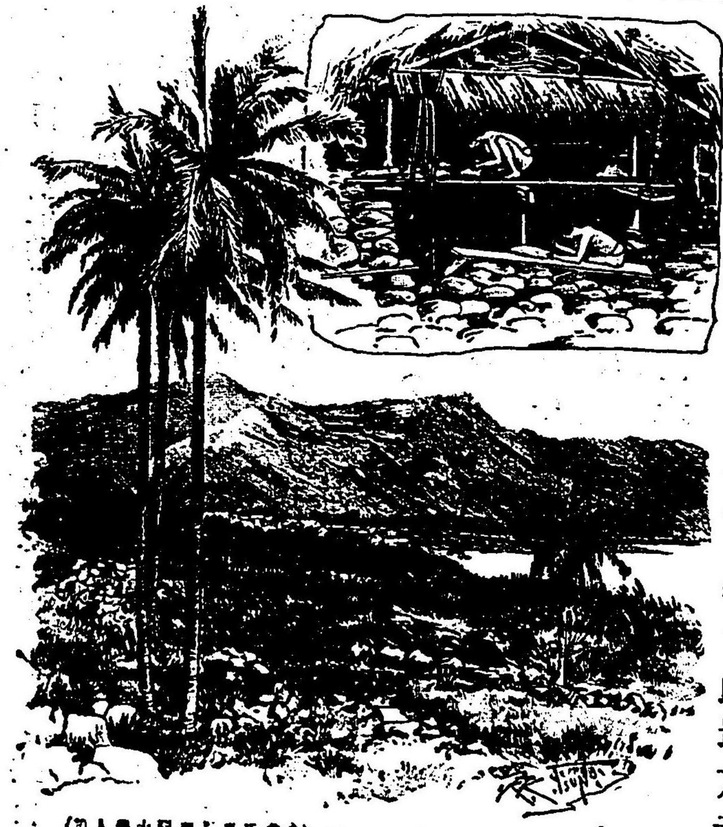
宜蘭廳（第十五圖參照）

宜蘭廳は臺北縣の南、本島の東北隅を管す。此地、西南北の三方山を以て圍まれ、中に平野あり。廳は宜蘭にあり、熟蕃多く住して、耶蘇教行はる。前面の海中に龜山島の横たはるあり。東南蘇澳港は、港内水深く、東海岸の要港にして、特別輸出入港の一たり。

東岸の懸崖

臺東廳（第十五圖參照）

臺東廳は東部生蕃の居地を管す。此地方未だ探檢周ねからず、地理の詳細を知るなし。東岸は一帶に懸崖絶壁多く、中には直立五六千尺に及べるもあり。其高き事世界無雙なりと云ふ。其間僅に、花蓮港等の船を寄すべきあり。東南、卑南大溪の下流に卑南あり、之れ即ち臺東にして、臺東廳の所在たり。生蕃は數多の蕃社をなして山間に住し、鬪爭を事とし、時に西方に出でゝ、襲擊を逞ふするあり。然れども又耕作に從事するもの少からず。



紅頭嶼（南蕃正東に當る海中に孤立する人類學教室所屬の研究所なりと）

東南海中に紅頭嶼あり、周圍凡そ十二三里、また馬來種に屬する一種の土人ありて之に住す。其數僅に一千二三百、風俗頗る本島の蕃民と異なる所あり。

澎湖廳（第十五圖參照）

澎湖島は臺灣の屬島中最も必要なる者にして、三大島と數多の小島より成る。澎湖本島最大なり。西部に媽宮港あり、島廳の所在にして、特別輸出入港の一たり。西に漁翁島あり、北に白沙島あり、三島相依て中に澎湖港を擁す。航行の船舶は

臺東

紅頭嶼

媽宮港

此所に臺灣海峽の暴風を避くるを得べし。島中米穀を産せず、落花生、雞、豚等を臺灣本島に輸送して貿易す。

第十節　北海道

地勢

北海道は十州及千島の二部よりなる。十州は津輕海峽を隔てゝ本州の東北にあり、其形赤鱏の尾を振ふが如く、ほゞ四角形をなして、西南に一大半島あり。天鹽山脈、日高山脈、南北に通じ、天鹽岳、石狩岳、十勝岳等を起して、以て土地を東西に分つ。又千島火山脈は東北より來り、良牛岳、跡左岳、雄阿寒岳、雌阿寒岳等を噴起して、十勝岳に連り、以て東部を更に南北に兩分す。其東北、荷哥斯科海に向ふ所、之を北見とし、東南、即ち太平洋に面する所、之を根室、釧路及十勝となす。其根室は即ち赤鱏の頭に當るなり。西部の中央には石狩大平野ありて

氣候

沿革

南の方膽振に連る、其北を天鹽となし、南を日高となす、而して膽振の西部及後志、渡島の半島は、西南に出でゝ、赤鱏の尾を成す。千島は即ち其東北に羅列して、東察加に連れる火山列島なり。此等の地、北方にありて、氣候概して寒冷なれども、堪へ難きにあらず。大河の邊、廣野に富み、將來の開拓を待つもの少からず。たゞ交通の不便なると、水利の治まらざるとによりて、大に開拓の進歩を妨ぐるものあり。他日北海道鐵道全通し、治水工事成功しなば、北海道の面目更に一新するものあらん。沿海の地何れも水産の利に富み、鰊、昆布、鱈、鮑、鰮等の收益多し。

此地もと蝦夷島（エゾガシマ）と稱し、アイヌ種族の居住に委したりしが、足利時代より漸次内地人の移り住するものあり、後、松前氏渡島の福山によりて、島民を撫してより以來、漁業の利を逐ひて移住するもの甚だ多きを加ふ。而も政府

は尚重きを之に置かざりしが、露西亞人來りて我が北門を窺ふに及びて、大に之が警備に勉め、特に吏を派して、沿海及內地を探檢せしむ。明治維新後、之を北海道と改稱し、分ちて十一國となし、開拓使廳を札幌に置きて之を管す。又別に北蝦夷即樺太島には、露人の雜居を許し、支廳を島の南濱、楠子谷に置きて之を治せしが、明治八年露國と約して、之を千島の得撫島以北の諸島と交換す。爾後拓殖の業大に進み、明治十年には僅かに十七萬餘に過ぎざりし者、今や全道七十餘萬の人口を數へ、日に月に增加の勢あり。

*現今コルサコフといふ

アイヌ人

アイヌ種族

アイヌとは、史上に東夷、又は蝦夷と稱するものにして、黑色なる毛髮、鬚髯甚だ多きと、眼窩の凹窈なるとによりて、一見して他と分つを得べし。殊に鬚髯は最も之を愛惜し、垂れて胸を蔽ふもの少からず。故に古へ或は毛人の稱ありき。婦人は口邊に黥する習慣あり。上世は廣く本州にも蔓延して、其勢甚だ強く、屢天孫種族と激烈なる衝突を爲しゝ事ありしも、天孫種族の隆盛と共に、次第に東北に退去し、今は僅かに北海道土人として、約一萬七千の人口を算するあるのみ。蓋し斯の如く衰微せし所以のものは、優等なる天孫種族と觸接するに方りて、其化を受けたる者は、何時しか優勢の種族の中に混入して、跡を絕ち、然らざるものは、優勝劣敗の原則によりて、次第に僻地に逃れ、而も開化の度低きが爲に、他種族と接して傳へられたる傳染病の如きも、之を防遏する能はず、或は內訌外患の爲に、生命を失ふ者少からず、死亡の割合、常に產出よりも多かりしによるものなり。今や此種族、亦他と同じく帝國臣民の一部となり、政府の鄭重なる保護の下に、太平を鼓樂し、天恩の優渥なるを感謝しつゝあり。

札幌に北海道廳あり、其十九支廳、全道十州及千島を分管す。

今は便により國別に其地理を記述すべし。

渡島、後志及膽振國

火山脈

此三國は十州の西南端に在りて、一大半島を成し、本州の北端と對す。此地火山最も多く、其脈膽振の樽前岳、惠庭岳、マクカリ岳、有珠岳等を經て、内浦灣(噴火灣)を越え、渡島に入りて、駒ヶ岳、惠山等を噴起し、更に本州に渡りて、中央火山脈となれるなり。樽前、惠庭兩山の間に支笏湖あり、有珠岳の北に洞爺湖あり、周回各七里、風景に富む。

マクカリ岳は俗に後方羊蹄と云ふ。其形極て秀麗なる圓錐狀火山にして、頂に整備せる火口あり。故に或は之を蝦夷富士と稱す。高さ六千四百餘尺、西南方最高の山なり。後別岳其東南にあり、高さ半に及ばず。

函館

渡島は半島の南端にして、中央に五港の一なる函館港あり。

五稜廓

福山

維新前函館奉行を置きし所、人口七萬餘、北海道第一の繁榮の地にして、青森を去る二十餘里、函館支廳あり之を管す。

五稜廓の氷切

其北、里餘、五稜廓あり、形を以て稱す。維新の際榎本釜次郎等が據守せし所にして、今は有名なる製氷地たり。之より西北七飯村を經て、内浦灣に瀕する森港に達すべし。七飯に農事試驗場あり、龜田支廳ありて渡島の東北と膽振の西部とを管す。森港は室蘭港に對し、内浦灣の要港たり。他日鐵道は函館より此地を經て小樽に布設せらるべし。

渡島の西南端に福山あり。もと松前

と稱す。松前氏の城下なりしが、今は有名なる鰊の漁場となれり。松前支廳あり此地方を管す。其北江差に檜山支廳あり。之より北方後志に入り、利別川を渡り、尙東北に進まば壽都に達すべし。利別川には、渡島の知内川と共に砂金を産す。

「ペツ」とは川の義なり、「ナイ」とは溪の義なり。此外、山を「ヌプリ」と云ひ、村落を「コタン」と云ひ、陸を「シリ」と云ふ。其にアイヌ語なり。北海道の地名に斯かる語尾を有するもの多し。蓋しアイヌの名付くる所なり。

壽都は辨慶崎の東南にあり、日本海岸の要港にして、支廳あり。其東北岩内は亦支廳の所在地にして、岩内炭山を以て著はる。之より東北積丹半島を過ぐれば小樽港あり、日本海岸に於ける第一の要港にして、炭鑛鐵道之より起り、札幌を經て、石狩の諸炭山に通じ、又東南、室蘭港に達す。されば石狩諸炭山の石炭は、鐵道の便により容易に小樽、室蘭の兩港に

炭鑛鐵道

致さるべく、從ひて此兩港は共に特別輸出港たり。而して此兩所共に支廳あり。室蘭は內浦灣口にあり。繪鞆岬、港口を擁し、水深くして軍港たるべき地なり。多く雲丹を産す。又灣の西岸に砂鐵の産あり。室蘭より發せる鐵道は、海岸に沿ひて苫小牧に至り、之より內地に向ひて石狩國に入る。

室蘭

石狩國

石狩は日本第一の長流なる石狩川の流域地方にして、石狩大平野あり。其東方の山脈石炭鑛に富み、夕張、幌內、郁春別、空知等、皆著はる。室蘭より來れる鐵道は、支線を此各炭山に出だして運輸に供す。其岩見澤よりは、更に西の方、札幌を經て、小樽に通ず。岩見澤には空知支廳あり。

札幌は石狩平野の西方にあり。石狩川の支流豐平川に沿ひ、

炭山

札幌

街衢井然、繁華函館につぐ。北海道廳あり、第七師團司令部其他農學校、製糖會社、製麻會社、ビール會社等ありて、北海道開拓の中心たり。此所に支廳あり、平野の大部を管す。

石狩川

石狩川は石狩岳より發し、西南流して上川地方の廣野を過ぎ、旭川、神居古潭等を經て、雨龍川、空知川等を併せ、石狩平野中を迂曲して、石狩港に注ぐ、長さ百七十六里、舟楫の通ずること百里に及び、其流域には大平野あり、實に北海道中最有益の川なり。此川の鮭産額甚だ多し。

旭川

旭川に上川支廳あり、此地方寒氣强けれども、地肥え、雨龍地方と共に、屯田の業盛なり。此所に離宮撰定地あり。

北海道鐵道

官設北海道鐵道は、炭鑛鐵道の後をうけて、川に沿ひて上り、今已に蘭留及び美瑛に通ず。他日前者は天鹽、北見に、後者は十勝、釧路、根室に通せんとす。

日高國（第十三圖參照）

土人の部落

日高は東北に日高山脈を負ひ、諸川西南に流れて太平洋に注ぐ、沙流川最も大にして、附近土人の村落多し。概して此國は土人最も多く、殆ど全數の五分の二を占む。

義經の傳說

沙流川の沿岸平取には、源義經の祠あり。土人の崇敬厚し。蓋し義經奥州に死せず、逃れて此地に來ると傳ふるもの、固より其徵證なけれども、泰衡亦逃れて蝦夷に入らんと企てし事もあれば、其徒の或はこゝに來りしものありしにや。

アイヌの家屋（理科大學人類學教室所藏寫眞による）

新冠には牧場多く、馬を産す。浦河には支廳あり、全國を管す。海岸屈曲少なく、良港なし、幌泉稍稱すべし。

天鹽國（第十三圖參照）

天鹽川

天鹽は天鹽川の流域にあり。此川長さ七十餘里、本島第二の長流なり。川の中流附近に大炭田あり、交通不便にして未だ採掘に至らずと云ふ。下流に平野あり、他日此川に沿ひ鐵道は布設せらるべし。海岸は屈曲少く、港灣に乏し。然れども昆布、鰊等の利は甚だ多し。港には苫前、留萌、增毛など稱すべし、中にも增毛は最南にありて。小樽と交通に便なり。此所に支廳あり、全國を管す。

增毛

北見國（第十三圖參照）

稚内

北見は其名の如く北方痾哥斯科海に向ふ。國狹長、弓形を成し、北端宗谷岬は樺太に對す。鰊の漁多し。其西南稚内に宗谷支廳あり、國の北部を管す。稚内の西方利尻、禮文の二島の横たはるあり。此國の沿岸亦港灣少く、僅に紋別、網走などを數ふべし。宗谷と紋別との中間に枝幸あり、多く砂金を産す。網走には支廳あり、國の南部を管す。網走の西南に網走湖あり、西北に能取湖、猿澗湖あり。後の二者は海に通ず。川には、常呂川、網走川など大なり。

枝幸

十勝川

十勝、釧路及根室國（第十三圖參照）

此三國は共に千島火山脈の南にある一帶の地にして、其海岸、西部は屈曲少く、東部は出入多し。十勝川西方の諸水を集めて海に入る。其流域地方は即ち十勝國にして、十勝大平野

あり、將來多望の地となす、たゞ水利未だ治らず、時に洪水ありて開墾耕地を害するあるは惜むべし。川に黑曜石あり、流石となりて存す、十勝石といふ。川の中流に帶廣あり、支廳ありて十勝一國を管す。河口大津には昆布の採集多し。他日鐵道此川に沿ひて下り海岸を經て、一は根室に至り、一は厚岸より分れて網走に達せんとす。

釧路

十勝の東は即ち釧路にして、北部の火山脈中、阿寒、屈斜路の二大湖あり。阿寒川前者より出で、釧路川後者より出で、河口に相合して、釧路港に入る。火山脈中多く硫黃を含蓄し、屈斜路湖の東方には盛に之を採掘するあり。日本全國中の硫黃過半は此所より出づといふ。標茶まで鐵道を布設し、之を運搬す。標茶より以下は、船によりて釧路港に達すべし。爲めに此港は特別輸出港たり。其東方に厚岸灣あり、灣內牡蠣島に

硫黃山

厚岸

は最も多く牡蠣を產す。其東に濱中灣あり。釧路、厚岸、濱中は共に沿海の名邑たり。釧路に支廳あり、釧路一國を管す。

根室

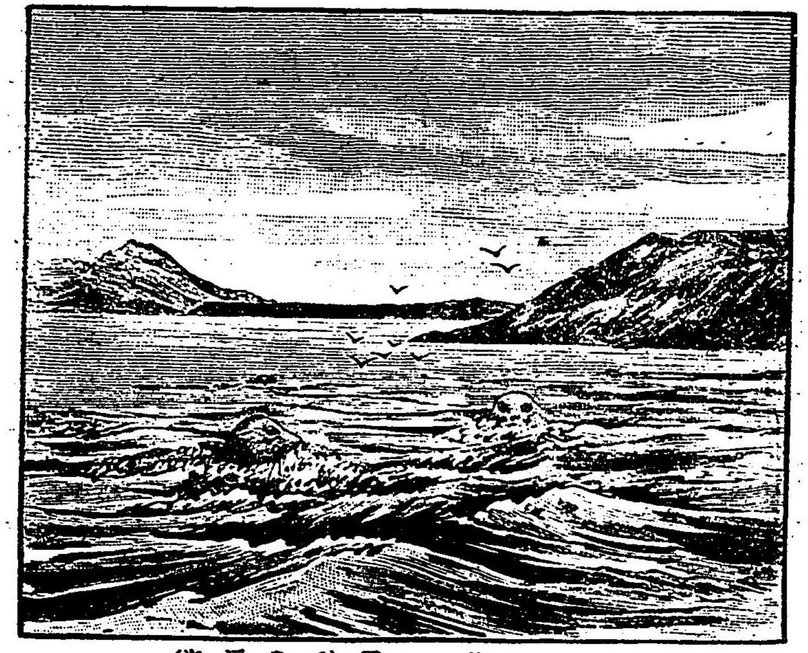
之より東北は即ち根室國にして、南隅、花咲半島の納紗布岬は、知床岬と對して弓形をなし、河は皆東流す。中にも西別川は鮭を以て著はれ、楓蓮川は楓蓮湖に注ぐ。花咲半島に根室港あり、北海道東部の要地たり、たゞ冬季灣內の氷結するあるを惜む。此所に支廳あり、根室及千島の一部を管す。

千島土人

納沙布岬の東方島嶼多く、中にも色丹島、鹽津島大なり。色丹島には千島土人を移し住ましむ。其數僅かに六十餘人、風俗他のアイヌと異にして、竪穴を作り住す。千島の一部が嘗て露西亞の管轄に歸したりしが故に、彼等の風俗多少露西亞に化せられたる所あり。

千島國（第十四圖參照）

擇捉島



海　獸（千島近海）

千島三十二島、根室と東察加との間に羅列し、國後島に始まり、占守島に終る。擇捉島最も大にして、島中紗那には支廳あり、擇捉島を管す。其他の諸島は根室支廳の管する所なり。幌筵、國後、得撫は其大さ擇捉につぎ、新知、恩禰古丹、捨子古丹等また之につぐ。全島を合すれば面積略、四國に近し。其得撫以北は、露人嘗

千島樺太の交換

て此地に據りて、其領地と稱せしが、明治八年樺太島と交換してより、全く我が有に歸せり。

千島は氣候寒く、耕作には適し難しと雖も、漁獵の利甚だ多く、海獸には臘虎、海豹、膃肭獸、海驢、及鯨等あり。

此等の海產物は、若し適當に之を保育し、之を捕獲せば、其利計るべからざるものあらん。然れども、我國人未だ之を曉らず、多くは外國密獵船の濫漁に委す、識者の夙に惜む所なり。先年來、郡司海軍大尉等報公義會の諸氏、占守島に移住して、北門經營に從事す。千島の地之より益見るべきものあらん。

種族

第三章　住民政治及生業

第一節　種族及人口

我國の住民は容貌體質に於て必しも一樣ならず。茲に於て

學者は種々の說をなし、或は朝鮮種なりと云ひ、或は馬來種なりと云ひ、彼と云ひ、是と云ひ、其說く所も亦一樣ならず。然れども、我等の已に觀察したる所によりて、本州、四國、九州には天孫種族あり、琉球には其一派なる琉球人あり、臺灣には移住支那人及び馬來種に屬する生蕃、熟蕃あり、北海道には僅少のアイヌ種族の住するを知れり。而して此等は皆盡く帝國臣民たるものなり。其人口總數、明治三十年末の調査によれば、凡そ四千六百八十萬人に達す。此中臺灣にあるもの約二百八十萬、北海道にあるもの約七十六萬、琉球にあるもの約五十萬を除けば、四千二百七十七萬餘の人口は所謂大八洲國に住するものなり。臺灣の住民には移住支那人其大多數を占め、其數ほゞ二百七十萬に近し。蕃社に屬するものは、調査未だ完からざるも、大約八萬餘、其他は內地より移住

人口總數

*明治三十一年末人口四千五百二十萬（臺灣を除く）

內地の人口

臺灣の人口

せるものにして、其數日に月に增加する勢あり。北海道には一萬七千餘のアイヌ人あるのみ、其餘は盡く內地より移住せるものなり。されば我國の人口を四種族に分たば、天孫種族に屬するもの凡そ四千四百萬にして、總數百分の九十四を占め、移住支那人は百分の五・八、臺灣土人とアイヌ人とを合せて僅かに百分の三を占むる割合なり。又之を土地の面積に割りあつれば、北海道と臺灣とを除きて、一萬八千七百方里に四千二百七十七萬人、即一方里に平均凡そ二千二百八十二人の人口あり。之を最も稠密なる畿內に就て見るに、一方里實に五千九百十八人の多人數を有するなり。

北海道の人口

人口種族別

一方里平均人口

我國の人口增加の割合を見るに、實に左の如きものあり。

明治五年	三三、一一〇、〇〇〇	八年間の增加、二、八二〇、〇〇〇
明治十三年	三五、九三〇、〇〇〇	八年間の增加、三、六七七、〇〇〇

人口の增加

明治二十一年　三九、六〇七、〇〇〇、
明治二十九年　四二、七〇八、〇〇〇　八年間の増加、三、一〇一、〇〇〇

即ち毎年平均凡そ四十萬人宛増加の割合なり。以て國力の如何に進みつつあるかを見るべし。

(一)

(二)都會にありては東京最も人口多く、一百三十三萬餘の住民あり、次は大阪にして七十五萬餘、次は京都にして三十三萬餘、次に名古屋は凡そ二十五萬三千、神戸は凡そ十九萬五千、横濱は凡そ十八萬九千、次に廣島、仙臺、金澤は皆八萬以上の人口あり、以下七萬以上のもの二、六萬以上のもの二、五萬以上のもの七、四萬以上のもの二、三萬以上のもの二十、二萬以上のもの三十四、一萬以上のものに至りては實に百二十五の多きに達せり。

(二)明治三十一年には二百二十二萬の増加あり。

都會の人口明治三十年末現在三十數萬なり、東京は一百四十萬、大阪は二萬五千、京都は一萬三千、神戸は十萬、横濱は一萬三千、廣島は一萬二千、仙臺は一萬二千、金澤は一萬二千あり、

第二節　元首、立法、行政及司法

天皇

斯の如き善美なる國土の上に、斯の如き多數の人口を有する我國は、開闢以來二千五百有餘年の間、常に萬世一系の天皇、上にありて之を統治し給へるなり。これ實に萬國其比を見ざる所のもの、殊に叡聖文武なる　今上天皇陛下は國體の由て來る所に鑒み、國家永久の計を慮り給ひ、明治二十三年に帝國憲法を發布して、以て天下萬世の由る所を定め給へり。今謹んで之を案ずるに、天皇は國の元首として統治權を總攬し給ひ、憲法の條規に依りて之を行ひ給ふ。國家の法律に關しては、天皇帝國議會を召集し、其協贊を以て、立法の大權を行ひ給ふなり。帝國議會とは、貴族院、衆議院の兩院を云ふ。而して其行政の衝に當るものは、即ち内閣及外務、内務、大藏、陸軍、海軍、司法、文部、農商務、遞信の各省と、其下に屬する各地方廳となり。内閣は國務各大臣を以て組織し、其首班として内閣總理大臣あり。各省は大臣の下に全國行政の事務を分擔し、地方廳は各府縣知事之が長官として、下に郡、市及

帝國憲法

立法

行政